

○明治六年二月七日第三十七號布告

人ヲ殺スハ國家ノ大禁ニシテ人ヲ殺ス者ヲ罰スルハ政府ノ公權ニ候處古來ヨリ父兄ノ爲ニ讐ヲ復スルヲ以テ子弟ノ義務トナスノ風習アリ右ハ至情不得止ニ出ルト雖モ畢竟私憤ヲ以テ大禁ヲ破リ私義ヲ以テ公權ヲ犯ス者ニシテ固擅殺ノ罪ヲ免レヌ加之甚シキニ至リテハ其事ノ故誤ヲ問ハス其理ノ當否ヲ顧ミス復讐ノ各義ヲ挾ミ濫リニ相構害スルノ弊往々有之甚以不相濟事ニ候依之復讐嚴禁被 仰出候條今後不幸至親ヲ害セラル、者於有之ハ事實ヲ詳ニシ速ニ其筋ヘ可訴出候若無其儀舊習ニ泥ミ擅殺スルニ於テハ相當ノ罪科ニ可處候條心得違無之様可致事

○服忌ノ儀自今京家ノ制ヲ廢ス

○明治七年十月十七日第百八號布告

服忌ノ儀追テ被 仰出ノ品モ可有之候得共差向京家ノ制武家ノ制兩様ニ相成居候

テハ法律上不都合有之ニ付自今京家ノ制被廢候條此旨布告候事

○負債者失踪後ノ訴訟成例

○明治八年一月二十日第六號布告

民法裁判上負債者失踪後ノ訴訟ハ失踪後三十六ヶ月ノ時間ハ採上ケサル成例ニ有之候處本年三月一日ヨリ以後ハ左ノ通相改メ候條此旨布告候事

第一條 債主定期期限未滿内ニ負債者ノ失踪ヲ知ル時ハ定期滿期ニ至リ直ニ裁判所ヘ訴出ツ可キ事

第二條 債主未タ負債者ノ失踪ヲ知ラス定期滿期又ハ出訴期限將ニ盡ントスルヲ以テ裁判所ヘ出訴シ裁判所ノ與書ヲ以テ負債者ニ掛合始テ其失踪ノ事ヲ知ル時ハ右與書訴狀ヲ再呈シ其旨届ケ出ツヘキ事

第三條 前條々ノ場合裁判所ニ於テハ一應訴狀採上ケ直ニ失踪者所管ノ戸長ヘ申

付失踪ノ年月日ヲ訊明シタル上債主差出シタル証書ニ負債者何年何月何日家出
 ノ未行衛相分ラサルニ付追テ本人見當ルカ又ハ三十六ヶ月ノ滿月後跡相續ヲ爲
 ス可キ者ニ掛リ此裏書証書ヲ以テ再訴致スヘキ旨ヲ記載シ訴狀下戻ス可キ事
 第四條 債主於テ前條ノ裏書証書ヲ受取置キタル上ハ本人見當リ又ハ搜索二十六
 ケ月ノ時限ハ明治六年^{十一月} 第三百六十二號布告出訴期限ノ限内ニハ加算致サ、
 ル事

○府縣會規則

○明治十三年四月八日第十五號布告

明治十一年^{七月} 第拾八號布告府縣會規則左ノ通改正候條此旨布告候事

第一章 總則

第一條 府縣會ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算及ヒ其徵收方法ヲ議定ス

十四年四號布告ヲ
 以テ本條へ一項ヲ
 追加ス

十五年六十八號布
 告ヲ以テ本條へ第
 二項ヲ追加ス

十五年十號布告ヲ
 以テ本條ヲ改正ス

第二條 府縣會ハ通常會ト臨時會トノ二類ニ別ツ其定期ニ於テ開ク者ヲ通常會ト
 ナシ臨時ニ開ク者ヲ臨時會トナス

第三條 通常會臨時會ヲ論セス會議ノ議案ハ總テ府知事縣令ヨリ之ヲ發ス

第四條 臨時會ハ其特ニ會議ヲ要スル事件ニ限り其他ノ事件ヲ議スルヲ得ス

第五條 府縣會ノ議決ハ府知事縣令認可ノ上之ヲ施行スヘキ者トス若シ府知事縣
 令其議決ヲ認可スヘカラスト思慮スルトキハ其事由ヲ内務卿ニ具狀シテ指揮ヲ
 請フヘシ

第六條 府縣會ハ毎年通常會議ノ初メニ於テ地方稅ニ係ル前年度ノ出納決算ノ報
 告書ヲ受ケ府知事縣令ニ説明ヲ求ムルコトヲ得若シ異見アルトキハ議長ノ名ヲ
 以テ直チニ内務大藏兩卿ニ上申スルコトヲ得

第七條 通常會期中議員ノ内二人以上ノ發議ヲ以テ其府縣内ノ利害ニ關スル事件
 ニ付政府ニ建議セントスル者アレハ先ツ議會ノ許可ヲ得テ之ヲ會議ニ付シ可決
 スルトキハ其會ノ所見トシ議長ノ名ヲ以テ直チニ内務卿ニ建議スルヲ得

フ

第八條 府縣會ハ府知事縣令ヨリ其府縣内ニ施行スヘキ事件ニ付會議ノ意見ヲ問フコトアルトキハ之ヲ議ス

十四年四號布告ヲ以テ本條ヘ一項ヲ追加ス

第九條 府縣會ハ議事ノ細則ヲ議定シ府知事縣令ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得

府縣會ハ議員ノ内招集ニ應セス又ハ事故ヲ告ケスシテ參會セサル者ヲ審査シ其退職者タルヲ決スルヲ得

第二章 撰舉

第十條 府縣會ノ議員ハ郡區ノ大小ニ依リ每郡區ニ五人以下ヲ撰フ

十五年十號布告ヲ以テ本條ヘ一項ヲ追加ス

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ公選シ之ヲ府知事縣令ニ報告シ府知事縣令ハ之ヲ内務卿ニ報告スヘシ

議長副議長及ヒ議員ハ俸給ナシ但會期中滞在日當及ヒ往復旅費ヲ給ス其額ハ會議ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 書記ハ議長之ヲ選ヒ庶務ヲ整理セシム其俸給ハ會費ノ中ヨリ之ヲ支給

ス

第十三條 府縣ノ議員タルコトヲ得ヘキ者ハ滿二十五歳以上ノ男子ニシテ其府縣内ニ本籍ヲ定メ滿三年以上住居シ其府縣内ニ於テ地租拾圓以上ヲ納ムル者ニ限ル但左ノ各款ニ觸ル、者ハ議員タルコトヲ得ス

十五年十號布告ヲ以テ本款ヲ改正ス

第一款 風癲白痴ノ者

第二款 懲役一年以上及國事犯禁獄一年以上實決ノ刑ニ處セラレタル者但滿期後七年ヲ經タル者ハ此限ニ在ラス

十五年十號布告ヲ以テ本款ヲ改正ス

第三款 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四款 官吏及教導職

第五款 府縣會ニ於テ退職者トセラレタル後四年ヲ經サル者

第十四條 議員ヲ選舉スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歳以上ノ男子ニシテ其郡區内ニ本籍ヲ定メ其府縣内ニ於テ地租五圓以上ヲ納ムル者ニ限ルヘシ

十五年十號布告ヲ以テ但書ヲ改正ス

但前條ノ第一款第二款第三款第五款ニ觸ル、者ハ選舉人タルコトヲ得ス

フ

第十五條 議員ヲ撰舉セントスルトキハ府知事縣令ヨリ某月間ニ撰舉會ヲ開クヘキ旨ヲ布令シ郡區長ハ豫メ撰舉ノ投票ヲ爲スヘキ日ヲ定メ少クモ十五日日前ニ之ヲ郡區内ニ公告スヘシ

第十六條 撰舉ノ投票ハ豫定ノ日ニ郡區廳ニ於テ之ヲ爲シ郡區長之ヲ調査シ撰舉會中ノ取締ヲ爲スヘシ但便宜ニ因リ郡區廳外ニ於テ撰舉會ヲ開クコトヲ得

第十七條 撰舉人ハ豫メ郡區長ヨリ付與シタル投票用紙ニ自己及ヒ被撰人ノ住所姓名ヲ記シ豫定ノ日之ヲ郡區長ニ出スヘシ其投票多數ヲ得タル者ヲ以テ當撰人トシ同數ナラハ年長ヲ取り同年ナラハ圖ヲ以テ之ヲ定ム

但投票ハ代人ニ托シ差出スモ妨ナシ

第十八條 投票終ルノ後郡區長ハ撰舉人名簿ニ就テ投票ノ當否ヲ查シ又被撰人名簿ニ就テ當撰人ノ當否ヲ查ス若シ法ニ於テ不適當ナル者アルカ或ハ當撰人自ラ其撰ヲ辭スルトキハ順次投票ノ多數ヲ得タル者ヲ取ル

第十九條 當撰人ノ當否ヲ査定スルノ后郡區長ハ其當撰人ヲ郡區廳ニ呼出シ當撰

狀ヲ渡シ當撰人ハ請書ヲ出スヘシ

但當撰人各請書ヲ出シタル后郡區長ハ其姓名等ヲ郡區内ニ公告スヘシ

第二十條 一人ニシテ數郡區ノ撰ニ當ルトキハ其何レノ郡區ニ屬スヘキハ當人ノ好ニ任スヘシ

第二十一條 議員ノ任期ハ四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改撰ス第一回二年期ノ改撰ヲ爲スハ抽籤法ヲ以テ其退任ノ人ヲ定ム

第二十二條 議長副議長ノ任期ハ二年トシ議員ノ改撰毎ニ之ヲ公撰スヘシ

第二十三條 前二條ノ場合ニ於テハ前任ノ者ヲ再撰スルコトヲ得

第二十四條 議員中第十三條ニ掲クル諸款ノ場合ニ遭遇スルカ其府縣外ニ轉住スルカ其他總テ欠員アルトキハ更ニ之ニ代ル者ヲ撰舉ス

第三章 議則

第二十五條 議員半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第二十六條 會議ハ過半數ニ依テ決ス可否同數ナルキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

十五年十號布告
以テ轉住ヲ轉籍ト
改ム且本條ヘ追加
アリ

フ

第二十七條 府知事縣令若クハ其代理人ハ會議ニ於テ議案ノ旨趣ヲ辨明スルヲ得但決議ノ數ニ入ルコトヲ得ス

第二十八條 會議ハ傍聽ヲ許ス但府知事縣令ノ要メニ依リ又ハ議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルヲ得

第二十九條 議員ハ會議ニ方リ充分討論ノ權ヲ有ス然レモ人身上ニ付テ褒貶毀譽ニ涉ルコトヲ得ス

第二十條 議場ヲ整理スルハ議長ノ職掌トス若シ規則ニ背キ議長之ヲ制止シテ其命ニ順ハサル者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ヘ退去セシムルヲ得其強暴ニ涉ル者ハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルヲ得

第四章 開閉

第三十一條 府縣會ハ毎年一度三月ニ於テ之ヲ開ク其開閉ハ府知事縣令ヨリ之ヲ命シ會期ハ三十日以内トス但府知事縣令ハ會議ノ衆議ヲ取リテ其日限ヲ伸ルコトヲ得ルト雖モ其事由ヲ直ニ内務卿ニ報告スヘシ

十五年六月十八號布告
正ス

第三十二條 通常會期ノ外會議ニ付スヘキ事務アルトキ府知事縣令ハ臨時會ヲ開クコトヲ得

十五年六月十八號布告
正ス

但該會ヲ要スル事由ヲ直ニ内務卿ニ報告スヘシ

第三十三條 會議ノ論說國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトアリト認ムルトキハ府知事縣令ハ會議ヲ中止セシメ内務卿ニ具狀シテ其指揮ヲ請フヘシ

第三十四條 會議中國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトアリト認ムルトキハ内務卿ハ何レノトキヲ問ハス閉會ヲ命シ又ハ議員ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第三十五條 内務卿ヨリ解散ヲ命シタルトキハ其解散ヲ命シタル日ヨリ九十日以内ニ更ニ議員ヲ改撰スヘシ

○明治十三年十一月五日第四十九號布告

本年^本第四十八號ノ布告アルニ依リ本年^四第十五號布告府縣會規則ヘ左ノ通
追加ス此旨布告候事

十三年四月十九號布告
三十九號マテ第四追加

十四年四月十八號布告
十五號マテ第四追加
十五號マテ第四追加
十五號マテ第四追加

フ

十五年十號布告ヲ以テ本條ヘ二項ヲ追加ス
十五年六十八號布告ヲ以テ本條ヲ改正ス

第五章 常置委員

第二十六條 府縣會ハ其議員中五人以上七人以下ノ常置委員ヲ撰任スヘシ

第二十七條 常置委員ハ府縣會ノ議定ニ依リ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ヲ

執行スルノ方法順序ニ付毎ニ府知事縣令ニ諮問ヲ受ケ其意見ヲ述ヘ及ヒ地

方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ其經費ヲ議

決シ追テ府縣會ニ報告スルヲ得

第二十八條 常置委員ハ通常府縣會議ノ初メ委員會議ニ於テ議決シタル事件

ノ要領ヲ報告シ且通常會ト臨時會トヲ論セス府知事縣令ヨリ發スヘキ議案

ヲ前以テ請取り會議ニ向テ其意見ヲ報告スヘシ

第二十九條 常置委員會議所ハ府縣廳内ニ置キ定日ニ會議スヘシ

第四十條 常置委員ノ會議ハ別ニ議案書ヲ用ユルヲ要セス

第四十一條 常置委員會議ノ議長ハ府知事縣令之ヲ勤ムヘシ但第二十八條ノ

報告ヲ爲スニ就テノ會議議長ハ時々委員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ

十五年十號布告ヲ以テ本條中(常置委員ノ)ノ下ニ附屬ノ二字ヲ加フ
十五年十號布告ヲ以テ本條ヲ改正ス

十五年十號布告ヲ以テ本條中(十三字ヲ追加ス
十五年十號布告ヲ以テ本條中(議長)ヲ府知事縣令ト改ム

第四十二條 常置委員ハ半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス會議

ハ過半數ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十三條 常置委員會議ノ議事ハ書記ヲシテ筆記セシムヘシ

第四十四條 府知事縣令ハ主務ノ僚屬ヲ委員會議ニ出シ其會議ニ係ル事件ニ

付辯明ヲナサシムルヲ得

第四十五條 常置委員會議ハ傍聽ヲ許サス

第四十六條 常置委員ノ任期ハ貳ケ年トシ期限ニ至リ再選スルヲ得

第四十七條 常置委員會議所ノ書記ハ府縣ノ屬官中ヨリ議長之ヲ選任ス

第四十八條 常置委員ハ三拾圓以上八拾圓以下ノ月手當及ヒ往復旅費ヲ給ス

其額ハ府縣會ノ決議ヲ以テ定ム

第四十九條 常置委員ノ月手當旅費其他委員會議所ノ費用ハ地方稅ヨリ支給

ス

○明治十四年二月十四日第四號布告

府縣會規則中左ノ通追加削除候條此旨布告候事

第五條へ左ノ一項追加

前項ノ場合ニ於テ府知事縣令ハ時宜ニ依リ之ヲ再議ニ付スルヲ得再議ノ後猶其議決ヲ認可スヘカラスト思慮スルトキハ内務卿ノ指揮ヲ請フコト前項ニ同シ

第九條へ同上

府知事縣令ト府縣會トノ間ニ於テ法律ノ見解ヲ異ニシ又ハ權限ヲ爭フコトアルトキハ雙方ヨリ其事由ヲ具狀シ政府ノ裁定ヲ請フヘシ此場合ニ於テ府知事縣令ハ其議事若クハ會議ヲ中止スルコトヲ得

第三十三條へ左ノ二項追加

府縣會ニ於テ若シ法律上議定スヘキ議案ヲ議定セサルコトアルトキハ府知事縣令ハ更ニ其議定ヲ要セス内務卿ニ具狀シ其認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得

十五年六月十八號布告
正シテ以テ本項ヲ追加ス

トヲ得

議員招集ニ應セサル者半數ヲ過キ議會ヲ開クヲ得サルコトアルトキハ府知事縣令ハ其事由ヲ内務卿ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ

第三十四條中(閉會ヲ命シ又ハ)ノ七字削除

同條へ左ノ一項追加

前項ノ場合ニ於テ前議員ノ未タ議定セサル議案アルトキハ後任議員ヲシテ之ヲ議定セシムヘシ

第三十七條中(議定ニ依リ)ノ下(地方稅ヲ以テ支辨スヘキ)ノ十一字削除

十五年六月十八號布告
正シテ以テ本條ヲ改

○明治十五年二月十四日第十號布告

明治十三年^{四月}第十五號及同年^{十一月}第四十九號布告府縣會規則中左ノ通改正追加ス

第七條 通常會期中議員ノ内二人以上ノ發議ヲ以テ其府縣内ノ利害ニ關ス

ル事件ニ付建議ヲナサントスル者アラハ先ツ議會ノ許可ヲ得テ之ヲ會議ニ付シ可決スルトキハ其會ノ所見トシ議長ノ名ヲ以テ直チニ内務卿ニ建議シ又ハ府知事縣令ニ建議スルヲ得

但臨時會ニ於テハ其會議ヲ要シタル事件ニ限り建議スルヲ得

第十條へ追加 每郡區議員定數ノ外補缺員トシテ十人以下ヲ增撰スルヲ得
第十三條

第二款 舊法ニ依リ一年以上懲役及國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期後五年ヲ經サル者

新法ニ依リ公權ヲ剝奪及停止セラレタル者又ハ一年以上輕重禁錮ノ刑ニ處セラレ主刑滿期後五年ヲ經サル者

第四款 官吏教導職及陸海軍諸卒現役ノ者

第十四條但書

但前條ノ第一款第二款第三款第五款ニ觸ル、者及陸海軍々人現役ノ者ハ

選舉人タルコトヲ得ス

第二十四條中(轉任)ヲ(轉籍)ト改ム

同條へ追加 但補缺員アルトキハ順次投票ノ多數ヲ以テ之ヲ取り尙缺員アルトキハ本條末文ノ手續ニ據ル

第二十六條へ追加 常置委員定數ノ外數名ヲ增選シ缺員アルトキハ順次投票ノ多數ヲ以テ之ヲ補充スルヲ得

區部會郡部會ヲ開設シタル府縣ニ在テハ區郡各部ニ之ヲ選任スヘシ

第四十條中(常置委員)ノ下へ(諮問)ノ二字ヲ加フ

第四十一條 諮問會ハ府知事縣令ヲ以テ議長トナシ其他ノ會議ハ委員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ

第四十六條中(ニケ年トシ)ノ下(議員ノ改選毎ニ之ヲ改選ス但)ノ十三字ヲ加フ

第四十七條中(議長)ヲ(府知事縣令)ノ五字ニ改ム

右奉 勅旨布告候事

二百

○明治十五年十二月二十八日第六拾八號布告

明治十三年^四月^{十一}日^{十一}第拾五號布告同年^{十一}月^{十一}日^{十一}第拾九號布告府縣會規則中左ノ通追加改正ス

第六條 二項

出納決算ノ報告書ニ付府縣會ヨリ説明ヲ求ムルトキハ府知事縣令若クハ其代理人之ヲ説明スベシ

第三十一條 府縣會ハ毎年一度三月ニ於テ之ヲ開ク其開閉ハ府知事縣令ヨリ之ヲ命ス會期ハ三十日以内トス但區部郡部會ヲ開ク地方ニ於テハ七日以内延期スルコトヲ得

第三十二條 通常會期ノ外會議ニ付スヘキ事件アルトキ府知事縣令ハ臨時

十七年二十八號布告ヲ以テ本條中三ノ月ヲ十一月ト改正ス

會ヲ開クコトヲ得其會期ハ七日以内トス但該會ヲ要スル事由ヲ直ニ内務卿ニ報告スベシ

第三十三條 二項 四項

府縣會ニ於テ若シ法律上議定スヘキ議案ヲ議定セス又ハ會期內ニ於テ議案ヲ議決シ終ラサルトキハ府知事縣令ハ更ニ其議定ヲ要セス内務卿ニ具狀シ其認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テ内務卿ハ府縣會ヲ停止スルコトヲ得而シテ更ニ開會ヲ命スル迄ノ間ハ府知事縣令ニ於テ地方税ノ經費豫算及徵收方法ヲ定メ内務卿ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得

第二十七條 常置委員ハ府縣會ノ議定ニ依リ事業ヲ執行スルノ方法順序及豫備費ノ支出ニ付府知事縣令ヨリ諮問アルトキハ其意見ヲ述フ
常置委員ハ地方税ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テハ其經費ノ豫算及徵收方法ヲ議決シ追テ府縣會ニ報告スルヲ得

二百一

右奉 勅旨布告候事

○明治十四年二月十四日第六號布告

府縣會ハ其議定スヘキ事件中細目ニ係ル事項ヲ以テ區町村會若クハ水利土功會ノ議決ニ付スルヲ得ヘシ此旨布告候事

○明治十七年十二月八日第貳拾八號布告

明治十三年^四月第十五號布告府縣會規則第三十一條中三月ヲ十一月ト改正シ明治十八年十一月ヨリ施行ス

右奉 勅旨布告候事

○府縣警察費國庫ヨリ下渡割合

○明治十四年二月二十八日第十六號布告

府縣警察費ニ對シ國庫ヨリ下渡シ金ノ割合來ル十四年度ヨリ左ノ通相定候條此旨布告候事

第一條

東京府ハ警察費總高ノ拾分ノ六トス

第二條

京都府大坂府并各縣^{沖繩縣ヲ除ク}ハ地方稅支出高ノ拾分ノ三トス

第三條

前二ヶ條割合ノ外警察官吏^{巡查ヲ除クノ外等外吏トモ}並ニ之ニ準スヘキ傭内外國人ノ諸給與警視廳ノ廳費ハ從前ノ通國庫ヨリ支給ス

○府縣會議員聯合集會ヲ禁ス

○明治十五年十二月二十八日第七拾號布告

府縣會議員會議ニ關スル事項ヲ以テ他ノ府縣會議員ト聯合集會シ又ハ往復通信スルコトヲ許サス

其集會スル者何等ノ名義ヲ以テスルモ府知事縣令ニ於テ此禁令ヲ犯ス者ト認ムルトキハ直ニ解散ヲ命スベシ

前項ノ場合ニ於テ解散ノ命ニ從ハサルモノハ集會條例第十三條ニ依テ處分ス

右奉 勅旨布告候事

○船稅規則

○明治十六年四月十七日第拾三號布告

船稅規則別冊ノ通制定シ明治十六年七月一日ヨリ施行ス

但船稅ニ關スル從前ノ布告布達ハ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

別冊

船稅規則

第一章 鑑札 稅率 免稅

第一條 凡ソ船舶ハ此規則ニ依リ課稅スル者トス

第二條 船舶所有主ハ其船舶定繫場ヲ定メ定繫場所在ノ地方廳ニ願出檢査ヲ受ケ鑑札ヲ乞フヘシ

第三條 新規造船シタル者其造船場所在ノ府縣管内ニ定繫場ヲ定メサル時ハ該廳ニ願出檢査ヲ受ケ假鑑札ヲ乞ヒ定繫場ニ回漕ノ上其地方廳ニ願出本鑑札ト引換ヲ乞フヘシ

第四條 船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ増減ヲ生スル時ハ其定繫場所在ノ地方廳ニ願出檢査ヲ受ケ鑑札ノ引換ヲ乞フヘシ

第五條 船舶ヲ賣買讓與シタル者ハ雙方連署ノ上買受讓受主ノ定ムル定繫場所在

フ

ノ地方廳ニ願出鑑札ノ引換ヲ乞フヘシ

第六條 船舶ノ稅率ハ左ノ如シ

西洋形蒸氣船 百噸ニ付一年金拾五圓

同 風帆船 同 同 金拾圓

日本形船積石五拾石以上 百石ニ付同 金貳圓

同 積石五拾石未滿 自舳梁

舳漁船小廻船積石ニ拘ラス 長 三間迄ハ一年金三拾錢 至艦梁

但三間以上壹間ヲ加フル毎ニ金拾五錢ヲ增加ス

遊船 自舳梁 長 三間迄ハ一年金五拾錢 至艦梁

但三間以上壹間ヲ加フル毎ニ金貳拾五錢ヲ增加ス

第七條 本鑑札又ハ假鑑札ハ航行若クハ回漕ノ時之ヲ本船ニ所持スヘシ

但日本形積石五拾石未滿ノ船並舳漁船小廻船遊船ノ本鑑札ハ其船ニ釘付スヘシ

第八條 解船破船又ハ水火盜難等ニ因リ船舶ヲ失ヒタル者ハ其旨定繫場所在ノ地方廳ニ届出鑑札ヲ還納スヘシ

第九條 鑑札ヲ亡失毀損シタル時或ハ改名代替ノ時或ハ船號ヲ改メ若クハ定繫場ヲ變換シタル時ハ其旨定繫場所在ノ地方廳ニ願出鑑札ノ再渡若クハ引換ヲ乞フヘシ

第十條 左ニ掲クル船舶ハ其稅ヲ免除ス其所有主ハ地方廳ニ届出免稅ノ烙印ヲ乞フヘシ

倉庫船

水田ノ耕作ニ用フル船

水災ノ爲メ陸地ニ備ヘ置ク船

橋梁ニ換ヘ渡場ノミニ用フル船

船橋ノ組成ニ用フル船

航海中本船ニ揚ケ置ク傳馬船「バッテリー」船ノ類

第二章 納税

二百八

第十一條 税金ハ一年ヲ二期ニ分チ一月一日七月一日現在ノ船舶ヨリ徴收スル者トス其前半年分ハ一月三十一日限り後半年分ハ七月三十一日限り定繫場所所在ノ地方廳ニ上納スヘシ

第十二條 新規造船シタル者ハ鑑札ヲ受クル時該期ニ係ル税金ヲ上納スヘシ

第十三條 船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ増減ヲ生シタル時ハ次期ヨリ其積量又ハ間數ニ隨ヒ税金ヲ納ムヘシ

第十四條 他管下ニ定繫場ヲ定ムル者ハ該地ニ代人ヲ定メ連署ノ上其定繫場所所在ノ地方廳ニ届出納税ヲ辨セシムヘシ

第十五條 本籍管内ニ定繫場ヲ定メタル者不在ノ時ハ代人ヲ定メ其地方廳ニ届出納税ヲ辨セシムヘシ

第十六條 假鑑札ヲ受ケタル船舶定繫場ニ回漕中納税期限ニ係ル時ハ豫メ定繫場所在ノ地ニ代人ヲ定メ其地方廳ニ届出納税ヲ辨セシムヘシ

第十七條 此規則ヲ犯シ脱税ニ係ル者ハ處罰ノ後其税金ヲ追徴ス

第三章 罰則

第十八條 此規則ヲ犯シ脱税ニ係ル者ハ其脱税高五倍ノ科料若クハ罰金ニ處ス

第十九條 免税船ヲ有税船ノ用ニ充テタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第三條第五條第七條第九條第十四條第十五條第十六條ヲ犯シタル者及

第十條ノ免税船ニ烙印ヲ受ケサル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條 此規則ニ依リ罰金若クハ科料ニ處スル者ハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第七十六條ノ場合ハ此限ニアラス

○古物商取締條例

○明治十六年十二月二十八日五十號布告

二百九

古物商取締條例別冊ノ通制定シ明治十七年二月一日ヨリ施行ス
右奉 勅旨布告候事

別冊

古物商取締條例

第一條 古物商トハ古道具、古本、古書畫、古着、古銅鐵、貴金銀、ヲ賣買スル營業者ヲ云フ
袋物屋、小間物屋、籠甲屋、時計屋、飾屋、箱打屋、煙管屋ニシテ其營業ニ属スル古物賣買
交換スル者及ヒ刀劍商ハ此條例ニ準據スヘシ

第二條 古物商ハ管轄廳東京府ハ警視廳ノ免許ヲ受クヘシ

第三條 古物商物品ヲ賣買シ又ハ交換シタルトキハ警察官ニ於テ其物品及ヒ賣主
讓主ヲ調査スルニ差支ナキ様簿冊ニ記載シ且買主讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タ
ルトキハ之ヲ記載スヘシ

第四條 身元詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス但身元詳ナ
ル者其證人タルトキ又ハ警察官若クハ巡查ノ認許ヲ受ケタルトキハ此限ニアラ

ス

第五條 十五年未滿ノ者白痴風癩者及ヒ雇人雇主ノ家ニアル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交
換スルコトヲ得ス但父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者其證人タルトキハ此限ニ
アラス

官廳、町村、學校、病院、社寺、會社ノ印章記號アル物品ハ其賣却シ得ヘキコトヲ證
明スル證人二名以上アルニ非サレハ之ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス

前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニヨリ無代價ニテ物品ヲ取戻サル、コトア
ルヘシ

第六條 古物商ハ營業者タルト否トヲ問ハス盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九
十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換シ及ヒ寄藏ス
ルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ違フ者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮又ハ三十
圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 古物商ハ自宅又ハ許可ヲ受タル市場及ヒ賣主讓主ノ居室ノ外ニ於テ物品

ス

ヲ買取リ又ハ交換スルコトヲ得ス

第八條 刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具ハ身元詳ナラサル者及ヒ盜罪賭博ノ處斷ヲ受ケタル者ニ賣渡讓渡シ又ハ露店及ヒ路傍ニ於テ賣渡讓渡スコトヲ得ス

第九條 古物商物品ヲ他府縣ニ運送セントスルトキ又ハ他府縣ヨリ受取りタルトキハ其物品ノ目錄ヲ所轄警察署ニ届出ツヘシ

警察官ハ時宜ニ依リ荷作ヲ解キ物品ヲ檢査シ之ヲ差押フルコトアルヘシ但費用ハ届人之ヲ擔當スヘシ

第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ附記スヘシ

第十一條 品觸到達以後一年內ニ類似ノ物品ヲ買取リ又ハ交換シ及ヒ寄藏シタルトキ若クハ其以前ニ之ヲ得タルマ、所持シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ若シ届出スシテ其理由ヲ辨解スルコト能ハサル者ハ第六條ノ刑ニ同シ

第十二條 物品ノ賣買交換ヲ記載シタル簿册及ヒ品觸寫書ハ十年間保存スヘシ若シ亡失シタル時ハ直ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ

第十三條 警察官ハ何時タリトモ古物商ノ店舖ニ臨ミ物品及ヒ簿册ノ檢査ヲ爲シ時宜ニ依リ其物品ヲ差押ヘ又ハ時々簿册ヲ差出サシメ之ヲ檢査スルコトアルヘシ古物商ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 第二條第三條第四條第五條第七條第八條第九條第十條第十二條第十三條ニ違背シ又ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第六條第十一條第十四條及ヒ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル古物商ハ管轄廳東京府ハ警視廳ニ於テ三月以上三年以下ノ特別取締ニ付スルコトヲ得

第十六條 特別取締ニ付セラレタル者ハ尙ホ左ノ項目ニ從フヘシ

- 一 物品ヲ買取リ又ハ交換シタルトキハ其賣主讓主ノ住所氏名年齢及ヒ物品ノ形状徽章番號編柄模様損所ノ類ヲ云フ 價額年月日時ヲ簿册ニ記載スヘシ
- 二 日出前日没後ハ物品ヲ買取リ又ハ交換シ及ヒ寄藏スルコトヲ得ス
- 三 營業者ニアラサルモノヨリ物品ヲ買取リ又ハ交換シタルトキハ其物品ヲ原

狀ノ儘五日間保存スヘシ

- 四 物品ヲ賣渡シ又ハ交換シタルトキハ其物品ノ形狀價額年月日時ヲ簿冊ニ記載シ且買主讓受主ノ住所氏名年齢ヲ知り得タルトキハ之ヲ記載スヘシ
- 五 毎月一度物品賣買交換ノ簿冊ヲ所轄警察署ニ差出シ其檢査ヲ受クヘシ
- 六 住所ヲ移轉シ又ハ旅行シ又ハ他人ヲ宿泊同居セシメントスルトキハ所轄警察署ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 前條ニ違背シタル者ハ三圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 特別取締ニ付セラレタル者第六條第十一條第十四條第十七條ニ依リ罰金ニ處セラレタルトキハ直ニ之ヲ納完セシム若シ納完セサル者ハ留置セラル、コトアルヘシ

第十九條 古物商一年内ニ此條例ヲ再犯シタルトキハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

第二十條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十一條 此條例ヲ犯シテ買取り又ハ交換シタル物品贓物ニ係ルモノハ營業者ニ依ルト否トヲ問ハス警察署ニ於テ之ヲ追徵シテ被害者ニ還付スヘシ若シ被害者知レサルトキハ之ヲ領置シ一年ノ後官沒ス

第二十二條 商業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

第二十三條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事東京府ヲ除ク縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ツヘシ

○佛國ト郵便爲替條約

○明治十八年二月二十五日第五號布告

佛蘭西國政府ト郵便爲替條約別冊ノ通取結ヒ明治十七年十二月九日佛蘭西國巴里府ニ於テ兩國ノ批准ヲ交換シ本年三月一日ヨリ施行ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

二百十六

日本佛蘭西間郵便爲替條約

日本皇帝陛下及ヒ佛蘭西大統領ハ郵便爲替ノ方法ヲ以テ佛蘭西日本間ニ金員ノ送付ヲ便ナラシメントテ希望シ之カ爲ニ條約ヲ締結センコトヲ決定シ各其全權委員トシテ左記ノ者ヲ任命セリ乃チ

日本皇帝陛下ハ巴里駐劄特命全權公使蜂須賀茂韶

佛蘭西大統領ハ代議士内閣長兼外務卿ジュール、フエリー

右全權委員ハ雙方互ニ其委任狀ヲ示シ其實良ニシテ適當ナルヲ認め以テ左ノ條々ヲ協議同意セリ

第一條

佛蘭西及ヒ「アルゲエリー」ヨリ日本へ又日本ヨリ佛蘭西及ヒ「アルゲエリー」へ郵便爲替ヲ以テ金員ヲ送付スルヲ得
爲替券一枚ノ金額ハ貳百五十「フランク」ニ超過セサルベシ

兩驛遞局必要ト認めルトキハ此制限ヲ改ムルコトアルヘシ

第二條

前條ニ據リ爲替金ヲ送付スルトキハ振出國ノ驛遞局ニ於テ定ムル所ノ手数料ヲ其都度差出人ヨリ徴收スヘシ右手手数料ハ平均稅率各項ノ滿數金額百分一ヲ超過スヘカラス

第三條

爲替ヲ振出ス驛遞局ハ其仕拂ヲ爲ス驛遞局へ振出高ノ二百分ノ一ヲ歩合金トシテ拂渡スヘシ

第四條

爲替金ハ差出人ヨリ拂込ミ并ニ請取人へ拂渡シトモ金貨又ハ金貨ト同様ノ價アル他ノ通貨タルヘシ
若シ兩國ノ一ニ於テ正金ヨリ低價ナル紙幣ヲ通貨トシテ使用スルトキハ該國ノ驛遞局ハ其紙幣ヲ以テ人民ト爲替ノ受拂ヲ爲スコトヲ得但相場ノ差違ニ隨テ計算ナ

フ

二百十七

爲スヘシ

第五條

日本ヨリ爲替ヲ振出ストキハ振出國ノ貨幣ヲ佛貨ニ引直シノ基礎ト日本ニ於テ爲替ヲ拂渡ストキハ佛貨ヲ振宛國ノ貨幣ニ引直シノ基礎トハ日本驛遞局ニ於テ定ムヘシ但實際引直セル割合ハ佛蘭西驛遞局ヘ通知スヘシ

第六條

此條約ニ據リ佛蘭西若クハ日本郵便局ヨリ爲替振出及ヒ拂渡ニ關シ如何ナル名義又ハ口實ヲ設グルトモ第二條ニ據リ定メタル手数料ノ外税金又ハ手数料ヲ徵收スヘカラス

第七條

兩國ノ驛遞局ハ其協議ヲ以テ定ムル所ノ計算期限ニ於テ其相互ニ仕拂フヘキ金額ノ計算書ヲ製スヘシ而シテ之ヲ互ニ決定シタル後借越トナリタル驛遞局ハ雙方ノ協議ヲ以テ定ムル所ノ仕拂期限内ニ貸越トナリタル驛遞局ヘ其借越高シ仕拂フヘ

シ

貸借差引ノ殘額ヲ仕拂期限内ニ仕拂ハサルトキハ其期限ヲ經過シタル日ヨリ仕拂金ヲ送發スル日マテノ利息ヲ收ムヘシ此利息ハ一ケ年ニ五銖ノ割合ト定メ仕拂方ヲ延滞シタル驛遞局ノ借高トシテ次回ノ計算書ヘ記入スヘシ

第八條

振出國ノ驛遞局ニ於テ爲替ヲ振出ス爲メ領收シタル金額ハ其國ノ法律及ヒ規則ヲ以テ定メタル期限内ニ之ヲ受取ルヘキ權理アル者ヨリ請求セサルトキハ該驛遞局ノ所得ニ歸スヘシ

第九條

兩國驛遞局ハ此條約ニ據リ爲替ノ振出及ヒ仕拂ヲ爲スヘキ郵便局ノ名ヲ相互ニ指定シ又右ノ爲替證書ノ式紙及ヒ遞送ノ方法并ニ第七條ニ記載シタル計算書ノ式紙及ヒ此條約ノ條款ヲ確實ニ施行スル爲メ必要ナル一切ノ細目ヲ協議ノ上取極ムヘシ

フ

兩國驛遞局ニ於テ必要ト認ムルトキハ協議ノ上右細目ヲ變更スルコトヲ得ヘシ

第十條

一國ノ驛遞局ニ於テ兩國間ノ爲替事務ヲ停止セサルヲ得サル非常ノ事故アルトキハ一時其停止ヲ爲スコトヲ得但此場合ニ於テハ他ノ一國ノ驛遞局ヘ直ニ通知スヘシ若シ至急ヲ要スルトキハ電信ヲ以テ報知スヘシ

第十一條

此條約ハ可成速ニ批准ヲ受ケ兩國驛遞局協議ノ上取定ムヘキ日ヨリ實施スヘシ而シテ締盟兩國ノ内一國ノ驛遞局ヨリ之ヲ廢止スヘキ趣ヲ他ノ一國ノ驛遞局ヘ報知スル迄ハ年々保續遵守スルモノトス但其廢約ノ趣ハ一ヶ年前ニ報知スヘシ此條約ハ廢約ノ報知ヲ爲ストモ其後一ヶ年間ハ全ク實施ノ効力ヲ有スルモノトス但右ノ一ヶ年ヲ經過シタル後タリトモ計算ノ完結及ヒ其仕拂ヲ爲スハ妨ケナシ此條約ノ確證トシテ千八百八十四年六月三十日巴里ニ於テ本書ニ通テ製シ兩國全權委員之ニ記名調印スルモノナリ

蜂 須 賀(手署)

ジュール、フェリー(手署)

○古ノ部

○五箇條御誓文

○明治元年三月十四日

- 一 廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スベシ
 - 一 上下心ヲ一ニシテ盛ニ經綸ヲ行フベシ
 - 一 官武一途庶民ニ至迄各其志ヲ遂ケ人心ヲシテ倦サラシメンコトヲ要ス
 - 一 舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クベシ
 - 一 智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スベシ
- 我國未曾有ノ變革ヲ爲サントシ朕躬ヲ以テ衆ニ先ンシ天地神明ニ誓ヒ大ニ斯國是ヲ定メ萬民保全ノ道ヲ立ントス衆亦此旨趣ニ基キ協心努力セヨ

戊辰三月

御 諱

勅意宏遠誠ニ以感銘ニ不堪今日ノ急務永世ノ基礎此他ニ出ヘカラス臣等謹テ叙

旨ヲ奉體シ死ヲ誓ヒ胆勉從事冀クハ以テ宸襟ヲ安シ奉ラン

總 裁
公 卿
諸 侯

○戸籍法

○明治四年四月四日布告

今般府藩縣一般戸籍ノ法別紙ノ通改正被仰出候條管内普ク布告致シ可申事
戸籍檢査編制ハ來申年二月一日ヨリ以後ノ事ニ候ヘ共右ニ關係スル諸般ノ事ハ今
ヨリ處置致ス可ク尤三都府及各開港場ハ人民輻湊ノ地ニテ取締向速ニ不相立候テ
ハ難相成ニ付送籍入籍並旅行寄留ノ者ヘ鑑札渡方寄留表取調方等當六月廿九日ヨ
リ後ル可ラサル事

七年七月十四日發布
方以テ府内族籍布告
入方認定ニ付戸籍
方中右等ニ抵觸ノ
廉ハ總テ廢止ス

但不審ノ廉ハ民部省ヘ可承合事

右之通被仰出候事

人生始終ヲ詳ニスルハ切要ノ事務ニ候故ニ自今人民天然ヲ以テ終リ候者又ハ非命
ニ死シ候者等埋葬ノ處ニ於テ其時々其由ヲ記錄シ名前書員數共毎歲十一月中其管
轄廳又ハ支配所ヘ差出サセ十二月中辨官ヘ可差出候事
右之通管内社寺ヘ可觸達候事

戸數人員ヲ詳ニシテ猥ナラサシムルハ政務ノ最モ先シ重スル所ナリ夫レ全國人
民ノ保護ハ太政ノ本務ナルヲ素ヨリ云フヲ待タス然ルニ其保護スヘキ人民ヲ詳ニ
セス何ヲ以テ其保護スヘキヲ施スヲ得ンヤ是レ政府戸籍ヲ詳ニセサルヘカラサ
ル儀ナリ又人民ノ各安康ヲ得テ其生ヲ遂ル所以ノモノハ政府保護ノ庇蔭ニヨラサ
ルハナシ去レハ其籍ヲ逃レ其數ニ漏ル、モノハ其保護ヲ受ケサル理ニテ自ラ國民

コ

外タルニ近シ此レ人民戸籍ヲ納メサルヲ得サルノ儀ナリ中古以來各方民治趣ヲ異ニセシヨリ僅ニ東西ヲ隔ツレハ忽チ情態ヲ殊ニシ聊カ遠近アレハ即チ志行ナ同フセス隨テ戸籍ノ法モ終ニ錯雜ノ弊ヲ免レヌ或ハ此籍ヲ逃レ或ハ彼籍ヲ欺キ去就心ニ任セ往來規ニヨラス沿襲ノ習人々自ラ度外ニ附スルニ至ル故ニ今般全國總體ノ戸籍法ヲ定メラル、ヲ以テ普ク上下ノ通義ヲ辨ヘ宜シク粗略ノヲナカルヘシ

第一則

戸籍舊習ノ錯雜アル所以ハ族屬ヲ分ツテ之ヲ編製シ地ニ就テ之ヲ收メサルヲ以テ遺漏ノ事アリト雖モ之ヲ檢査スルノ便ヲ得サルニ依レリ故ニ此度編製ノ法臣民一般華族士族卒刑官僧侶平民迄ヲ云以下准之其住居ノ地ニ就テ之ヲ收メ專ラ遺スナキヲ旨トス故ニ各地方土地ノ便宜ニ隨ヒ豫メ區畫ヲ定メ每區戸長並ニ副ヲ置キ長並ニ副ヲシテ其區内戸數人員生死出入等ヲ詳ニスル事ヲ掌ラシムヘシ

第二則

戸長ハ必ス長ト副トニ限ルヘカラス時宜ニヨリ長副數名アルモ妨ケナシトス

但戸長ノ務ハ是迄各處ニ於テ莊屋名主年寄觸頭ト唱ル者等ニ掌ラシムルモ又ハ別人ヲ用ルモ妨ケナシ

第三則

凡ソ區畫ヲ定ムル譬ハ一府一郡ヲ分テ何區或ハ何十區トシ其一區ヲ定ムルハ四五丁モシクハ七八村ヲ組合スヘシ然レ共其小ナルモノハ數十ニ及ビ大ナルモノハ一二ニ止ルモ都テ其時宜ト便利トニ任セ妨ケナシ華族士族住居ノ地從前武家地屋敷地ト唱ル類モ同様タル素ヨリ云チ

但急ニ區畫ヲ定メ難キ所ハ假ニ便宜ニ從ヒ一村一町ニテ檢査セシムルモ妨ケナシ官ノ學校兵隊屯所等又ハ大社大寺ノ別ニ區域ヲナセシハ其官司ノ吏員其社寺ノ執事等ニテ戸長ノ事ヲ扱ハシムルモ妨ケナシ

第四則

戸長其區内ノ戸籍ヲ式ノ如ク之ヲ集メ二通ヲ清書シ更ニ第一號ト第二號ノ式ノ如ク其區内總計ノ戸籍表ト職分表トヲ作り其集ル所ノ籍ハ戸長ニ備ヘ置清書二通り

ト共ニ其支配所ニ差出スヘシ支配所之ヲ其廳ニ差出シ其廳之ヲ第五號第六號ノ式
ソ如ク其管内總計ノ戸籍表ト職分表トヲ作り戸籍一通ハ其廳ニ備ヘ置キ一通ニ廳
印ヲ押シ表ト共ニ六ヶ年目ニ改メ太政官ヘ差出スヘシ 支配所トハ管轄内廣遠ノ處
ムル所ヲ云フ總テ出
張所トイフノ類ナリ 別ニ一小部ヲ置キ支配セシ

但支配所ナキ所ハ直ニ其廳ニ出スヘシ以下准之

第五則

編製ハ爾後六ヶ年目ヲ以テ改ムヘシト雖モ其間ノ出生死去出入等ハ必其時々戸長
ニ届ケ戸長之ヲ其廳ニ届ケ出テ 支配所アルモノハ支配所ニ
届支配所ヨリ其廳ニ届ク 其廳之ヲ受ケ人員ノ増
減等本書ヘ加除シ毎年十一月中戸籍表ヲ改メ十二月中太政官ヘ差出スヘシ 加除ハ
モノト入ルモノヲ加ヘ死者
ト出ルモノヲ除ク類ヲ云フ

第六則

管轄廳ニ於テ戸籍專任ノ吏員ヲ置キ其事ニ擔當セシムヘシ若シ遺漏粗略ノ事アル
ニ於テハ其吏員並ニ戸長 戸長ナキ大社
大寺ハ執事 ノ責タルヘシ

第七則

區内ノ順序ヲ明ニスルハ番號ヲ用ユヘシ故ニ每區ニ官私ノ差別ナク臣民一般番號
ヲ定メ其住所ヲ記スニ都テ何番屋舖ト記シ編製ノ順序モ其號數ヲ以テ定ルヲ要ス
但區内ノ屋敷亡所トナリ又ハ一戸ヲ割テ二戸トシ二戸ヲ合セテ一戸トナスヲア
ルモ其由ヲ戸籍ニ記シ番號ハ其儘据置六ヶ年目ニ至リ改ムヘシ

第八則

各地方實屬或ハ平民等事務アリテ全戸他ノ管轄所ニ引移ルモノハ其由ヲ本貫管轄
廳ヘ願出其廳ヨリノ送リヲ取り在留地ノ廳ニ届ケ出其所ノ籍ニ編入スヘシ又故ア
リテ元ノ管轄所ヘ引移ル時ハ之ヲ戻スヲ其始メ出ル時ノ如クシ其所ノ籍ニ編入ス
ヘシ

但當時全戸既ニ引移リシ官員ノ如キハ其官省ヨリ名前書ヲ在留地ノ廳ニ達シ夫
ヲ證トシ其住居ノ地區ニテ其籍ヲ收ムヘシ又本貫管轄廳ニハ其由ヲ其官省ヨリ
達シ其廳之ヲ聽キ其所ノ籍ヲ除クヘシ尤此ヨリ後引移ルモノハ此限ニアラス送

コ

籍スルコト本條ノ如クスヘシ第八則 若シ全戸引移ルト雖モ情故アリテ本貫管轄廳ノ籍ニアルヲ願フモノハ其地寄留ノ部ニ入レ情願ニ任スルモ妨ナシ

第九則

他ノ管轄地ニ引移ル時元ノ廳ヨリ送籍スルニハ其當人ヨリ元住所ノ組合並ニ戸長ニ其由ヲ届ケ長副連印シ其廳ニ届ケ其廳之ヲ受ケ其廳聽知ルノ證ヲ押シ當人ニ渡スヘシ

但管轄内廣遠ノ場所別ニ支配所アラハ其支配所ニテ之ヲ達セシメ往來困却ノ弊ナカラシムルヲ要ス

第十則

他ノ管轄所ヨリ此管轄所ニ入籍スル時ハ元ノ管轄所ノ證ヲ持參シ其入ル所ノ戸長ニ其由ヲ通シ戸長其相違ナキヲ糾シ其所ノ籍ニ入ルヘシ而シテ戸長其元廳ノ證ト其入籍セシ事ノ由ヲ時々其廳ニ届クヘシ

第十一則

管轄内甲ノ區ヨリ乙ノ區ニ移ルカ如キモ第八則ヨリ第十則迄ノ例ヲ見合スヘシ但管轄内ナルヲ以テ送籍ハ戸長ヨリ之ヲ致シ入籍ノ上其入ル所ノ戸長ヨリ其廳ニ届ケ其廳之ヲ聽キ即チ本書ニ加除スヘシ加除ハ甲ノ籍ヲ除キ乙ノ籍ニ入ルノ類ヲ云 但其區ニ於テ時々加除スルハ亡論ナルヘシ

第十二則

全戸引移ラス又ハ一時公私ノ用ニテ寄留スルモノハ其本貫管轄廳ノ鑑札ヲ持參シ寄留地戸長ニ通シ其寄留スル所ノ廳ニ名前書ヲ添ヘ鑑札ヲ差出シ其廳之ヲ受ケ即チ其廳ノ鑑札ト引替遣スヘシ鑑札ニハ當人名住所職分ヲ記スヘシ 而シテ其者歸國スル節ハ同様ノ例ヲ以テ元ノ鑑札ト引替歸國スヘシ

但管轄内廣遠ノ場所別ニ支配所アラハ其支配所ニテ引替シムヘシ故ニ鑑札ハ豫メ支配所ヘモ備ヘ置クヲ要ス

鑑札引替ノ節其戸長官ノ學校兵隊屯所ノ如キニ差出ス名前書ニハ官員ハ當人兵隊ハ隊長證印シ自餘ハ戸主備主請人等證印スルヲ要ス名前届書式ハ第三號見合スヘシ

四年七月廿二日達
フ以テ寄留鑑札ヲ
廢ス

第十三則

修行又ハ奉公ノ爲メ他國ニ寄留スルモノモ第十二則ノ例タルヘシ

全戸引移リシ官員等ノ内寄留情願ノモノモ第十二則ノ例タルヘシ 第八則但書ト見合ヌヘシ

但是迄修行又ハ奉公イタシ寄留スル者及ヒ事務アリテ寄留スルモノ其本貫ノ廳

ニ届ケ鑑札請取第十二則ノ例ヲ以テ引替ヘシ若シ道路懸隔リ當人ヨリ本貫ノ廳

ニ届ケ難キ事故アルモノハ其寄留地ノ廳ニ於テ戸主傭主請人等ノ證書ヲ出サシ

メ其廳ヨリ直ニ其本貫ノ廳ニ掛合鑑札受取ヘシ但自今以後ハ此例ニアラス

第十四則

凡ソ旅行スルモノ官員ハ其官省等ノ鑑札ヲ所持シ自餘ハ臣民一般其管轄廳ノ鑑札

ヲ所持スヘシ 寄留ノモノハ其所持

スル鑑札ヲ用ユヘシ 故ニ旅行ヲ以テ渡世トスルモノ、如キハ急速ノ

便ヲ得ル爲メ豫メ其鑑札ヲ申受置モ妨ケナシトス 第十二則但書ノ通所置シ急速ノ便ヲ得セシムヘシ

但其管轄廳ノ鑑札ニハ當人名住所ト職分ヲ記スヘシ名住所及職分ヲ變セシ時ハ

右鑑札ヲ引替ヘシ

四年七月廿二日遊
ヲ以テ旅行鑑札ヲ
廢ス

第十五則

驛遞旅宿ニ於テハ其鑑札ヲ認メ之ヲ宿帳ニ記シ止宿セシムヘシ此證據ナキモノハ

止宿セシムヘカラス

第十六則

宿帳ハ七日目毎ニ驛遞ハ其驛出張驛遞掛ノ改ヲ受自餘ハ其戸長ヘ出シ改ヲ受クヘ

シ旅籠屋ニ限ラス都テ逗留三日以上ハ其戸長ニ届ケ 人民福湊スル三都府ノ如キハ其時々戸長ヨリ其廳ニ届ヘシ

九十日以上ハ寄留トシ第十二則ノ手續ヲナスヘシ旅人病氣又ハ異變ノ節速ニ届ケ

出ルハ勿論ナリ

但戸籍改ノ節滞留スルモノハ其所持ノ鑑札ニ突合セ検査スヘシ

第十七則

各地ニ出張スル官員出入トモ其管轄廳ヘ届ケ其出張先ノ地方廳ヘモ届クヘシ

但地方ノ廳懸隔リシ場所一時出張シ或ハ急遽ノ事務等アルハ其手續ナキコアル

ヘシ

コ

七年七十四號布告
ヲ以テ旧氏族籍編
入方ヲ定ム

第十八則

僧侶ハ其得度ノ地ヲ以テ本貫トシ他寺ニ轉住スル時ハ送籍シ行脚遍參スルモノ寄
留地ニ於テ鑑札引替ル事第十二則ノ例タルヘシ

第十九則

鑑札ヲ所持シテ出奔死亡シ或ハ刑ニ處セラレ歸國セサルモノハ其所ノ官司ヨリ其
由ヲ本貫ノ廳ニ達シ鑑札ヲ送り還スヘシ

第二十則

六ヶ年目毎ニ戸籍ヲ改ムルニ當リテ其戸籍取集メシ上ハ日限ヲ定メ其區々ニ於テ
長並副區内一戸毎ニ其差出ス處ノ戸籍ト現在ノ人員ニ突合セ相違ナキヲ點檢スル
ヲ以テ法トスヘシ寄留ノモノハ曾テ届ケ出シ名前書ヲ以テ人員及所持ノ鑑札ニ突
合セ相違ナキヲ證スルヲ以テ法トスヘシ 凡テ寄留ノモノハ戸籍改メ前第十二則第
十三則ノ例ニ從ヒ鑑札ヲ受ケ名前書ヲ差
出置
ヘシ 氏神ノ守札モ其時檢査スヘシ
但其土地ノモノニテ其土地ニ修行又ハ奉公シテ他家ニアルモノハ戸籍改メ日限

六年二百四十二號
布告ヲ以テ第十二
則第十三則第六ヶ
年目毎ニ改メ送籍
スル迄施行ニ及ハ
ス

六年百八十號布告
中
止
ス
ル
ヲ
以
テ
守
札
渡
方
ヲ

ニハ歸宅シテ改メ受クヘシモシ慥ナル證據アリテ其日限ニ歸宅シ難キモノハ其
證據ヲ以テ證トスルモ不得巳ヘシ

第二十一則

凡ソ戸籍ヲ檢査スルハ遺漏アルヘカラス又重複スヘカラスニツノ者ノ弊アレハ檢
査ノ要ヲ失フ尤甚シトイフヘシ故ニ戸長ヲ設ケ地ニ就テ戸籍ヲ收ムルハ遺漏ノ弊
ヲ防ク所トイヘトモ其戸籍ヲ出入スルニ當リテ 出入ハ他ノ管轄内ヲ出此管轄内ニ
入リ甲ノ區ヲ出乙ノ區ニ入ル類ヲ
云 深ク注意セサレハ又重複ノ弊ヲ免ル能ハス故ニ六ヶ年目毎ニ戸籍ヲ改正スルニ
當リ其戸籍ヲ檢査スルノ日ハ天下府藩縣一般二月一日ヨリ五月十五日ヲ以テ終ル
ヲ法トスヘシ 此間凡
百日

第二十二則

六ヶ年目毎ニ二月一日ヨリ五月十五日迄凡百日ノ間ハ戸籍ノ出入ヲ止ムヘシ但不
得止事故アルニ由リ其人ハ移轉セシメ他ノ所ニ行カシムト雖モ戸籍ノ調ハ其本住
所ノ廳ニテ之ヲ取集ムヘシ此百日ノ間ニ一般ノ戸籍調終ルヲ待テ五月十六日ヨリ

コ

送籍入籍ノ事ヲ所置スヘシ

但戸籍検査ノ日ニ當リテ 二月一日ヨリ五月十日迄凡百日ノ間 不得已移轉セシモノハ送籍入籍ノ時 五月十六日ヨリ ハ必ス其由ト其月日トナ本書ニ書顯スヘシ

第二十三則

六ヶ年目毎ニ五月十六日迄ニ戸籍検査既ニ終リ其應ニ於テ六月中第四則ノ例ノ如ク其管轄内總計ノ戸籍表ヲ作り 第五號式 本書共ニ七月中太政官へ差出スヘシ 第四則ト見合ス

但一紙ハ其應ニ留置毎年出ス所ノ表ノ基トスヘシ

第二十四則

寄留者ノ届書ハ其寄留スル支配所ニテ 支配所ナキモ 其時々之ヲ記録シ寄留表ヲ第七號式ノ如ク製出入人員増減ヲ隔月検査シテ其應ニ出シ其應之ヲ受ケ毎年十二月太政官へ差出スヘシ

但支配所アルハ某支配所ト表ノ左傍ニ記スヘシ

第二十五則

三都府ハ人民輻湊ノ地ナルヲ以テ寄留表ハ他ノ藩縣ニ拘ラス隔月検査ノ時々即チ太政官へ差出スヘシ

第二十六則

民産調ノ如キハ一般ノ御布告アルヘシト雖モ此迄地方官ニテ戸籍中家産等書載サセ來リシハ其儘出スヘシ

第二十七則

戸籍表ノ用紙ハ厚紙ヲ用ヒ戸籍ノ用紙ハ美濃紙ノ寸法ヲ準トシ公用ノ罫紙ヲ用ユヘシ戸長ト其廳へ依ムル分ハ其土地求メ易キ適宜ノ品ヲ用ユヘシ故ニ每區戸長へ本書分ノ公用罫紙ヲ其廳ヨリ下ケ渡スヘシ

第二十八則

各地ノ戸籍一例ナルヲ要スレハ字ノ細大行ノ高低ハ其記事ヲ標別スル爲メナルヲ以テ能々注意シ成丈ケ細字ニ記スルヲ要ス

第二十九則

此迄厄介ト號セシモノ或ハ縁故アリテ養育スルモノ等ハ其族屬ト續柄ヲ肩書ニシ
其事由ヲ其名前ノ上ニ記スルヲ式ノ如クスヘシ

第二十則

華族等ノ從僕其邸内ニ住居シテ一戸ヲナセルモノハ式ノ如ク其主人ノ次ニ記シ社
中寺内ニアルモノ此例ニ準スヘシ

第二十一則

凡ソ僧尼ハミナ式ニ依テ其本貫得度ノ年月及ヒ其所ヲ記シ院内受職ノ外ハ皆弟子
ヲ以テ記スヘシ

第二十二則

穢多非人等平民ト戸籍ヲ同フセサルモノ、如キハ其最寄ノ區ニテ其戸長ヘ名前書
ヲ出サセ年齢癩疾等ヲモ認ムヘシ其人員男女ヲ分チ戸籍表ニ書入レ差出シ廳ニテモ戸籍表ニ
入ル、式ノ如クスヘシ

九年百五十六號布告ヲ以テ僧尼ト公認スルモノノヲ限定ス

四年八月廿八日達ヲ以テ穢多非人等ノ稱ヲ廢シ一般民籍ニ編入ス

但生死出入其最寄戸長ニテ取扱寄留旅行ノ規則等平民同様ノ例ニ從ヒ名前書ヲ
六ヶ年目ニ出サシムルヲ戸籍ノ如クスヘシ

第三十三則

都テ書式ハ臣民トモ体裁一ナレハ彼此相通シ參用シテ妨ナシ

第一號區内戸籍表式

某府縣第何區戸籍表

何郡 何村 何村 何丁 何丁 合何ヶ丁村

戸數若干

内 社何十 家持何千
寺何十 借家何千

人員若干

内男 何萬 何千
十四以下 何人 十五以上 何人
二十一以上 何人 四十以上 何人
六十以上 何人 八十以上 何人

コ

穢 疾 何人 出 生 何人
多 何人 非 人 何人

死亡 何人

女 何萬 何千

十四以下 何人 十五以上 何人
四十以上 何人 八十以上 何人
穢 疾 何人 出 生 何人
多 何人 非 人 何人

死亡 何人

右之通相違無之候

年號干支月

第二號區內職分表式

第何區戶長

同副

氏 名 印
氏 名 印

某藩第何區職分表

官員 何人 兵隊 何人
華族 何人 士族 何人
卒 何人 祠官 何人
僧侶 何人 工 何人
農 何人 雜業 何人
商 何人

右之通相違無之候

年號干支月

第何區戶長

同副

氏 名 印
氏 名 印

何郡

何村 何村
何丁 何丁

何村 何村
何丁 何丁

農工商ニ屬セサルモノヲ雜業トスヘシ巫ハ祠官ニ入レ尼ハ僧侶ニ加フヘシ

第三號寄留人届書式

某 府官名
縣藩 族屬

何 之 誰

自于支月何々ニ付寄留

二百四十二

合男何人
女何人

自于支月何々ニ付寄留

某藩管轄
縣

某國郡某村丁
何職業

某住所

何之誰印

婢誰

家令
從者

幾男幾女誰

妻誰

母誰

父誰

何之誰

右
戶主
請人
備主

某住所

何之誰印

某藩兵隊

隊長

何之誰

兵士

何之誰

從者

何之誰

役夫

何之誰

合何人

隊長

何之誰印

二百四十三

第四號戶籍書式
年號千支月改

區內戶籍紙數ノ嵩ニ從ヒ幾冊ニモ
綴テ戶籍ノ二戶籍ノ三トスヘシ

某藩管轄第何區戶籍之一

何國何郡
何村何町
何町何村
合何ヶ村町

戶籍同戶列次之順

戶主
高祖父母
曾祖父母
祖父母
父母
母

妻
子
婦
孫
曾孫
玄孫
兄弟
姊妹
大伯叔父母
伯叔父母
甥姪
從弟
從弟
違

又 從 弟
兄弟姊妹夫妻
大伯父母夫妻
伯叔父母夫妻
從弟以下夫妻

某國某郡某村

所有ノ地ニ住スルノ例
主人ノ邸内ニ住スルノ例
全區借地スルノ例
區内ヲ分テ借地スルノ例

一番屋敷居住
内居住
借地居住當府
某町某所持地
内借地居住
借宅
借店
同居
華族
士族
卒

父亡セシモノ、例
父隠居シテ別居スルノ例
嫡孫承祖ノ例
兄ノ養子タルモノ、例
人ノ養子タルモノ、例
家ヲ祖父ニ承ルモノ、例
家ヲ兄ニ承ルモノ、例
分家セシモノ、例
父ノ時ト住所ヲ異ニスルモノ、例

年月日被叙某位年月日被任某官
某國某藩士族
當府華族

農工商
農
工
商
役
職
某
某
渡世
父某官某名亡
父一別居
祖父一亡
嫡孫承祖
實父一亡幾男
養父實兄一亡
實父當藩士族某氏某稱幾男
祖父一亡
兄一亡
父當村百姓一幾男
父某町一亡

何之誰
母
妻
某名
年何十

年月日被任某官

伯父當國某縣知事氏名次女

長男
何之誰

次男
妻何之誰

長男妻
某名

同人長女

孫
同人長男

孫
次男某官某名妻

某名
年何々

父一次男

弟

同人長男

甥
父一三女

妹

同人弟

叔父
母方伯母夫當國某郡某村
百姓亡長男

從弟

何之誰

大學南校寄留

神奈川某町某職一内弟子

當府某町某渡世一妻離縁之後復籍

大坂府某町某渡世一方寄留

某村返轉ノ後附籍

當縣大屬一備

同人召使

氏神某社
某所某宗某寺

又

別居スルモノノ例

借地
士族一父隠居
當府某町某渡世一弟

又

婿養子ノ例

長男
何之誰

次男
貴京都府士族

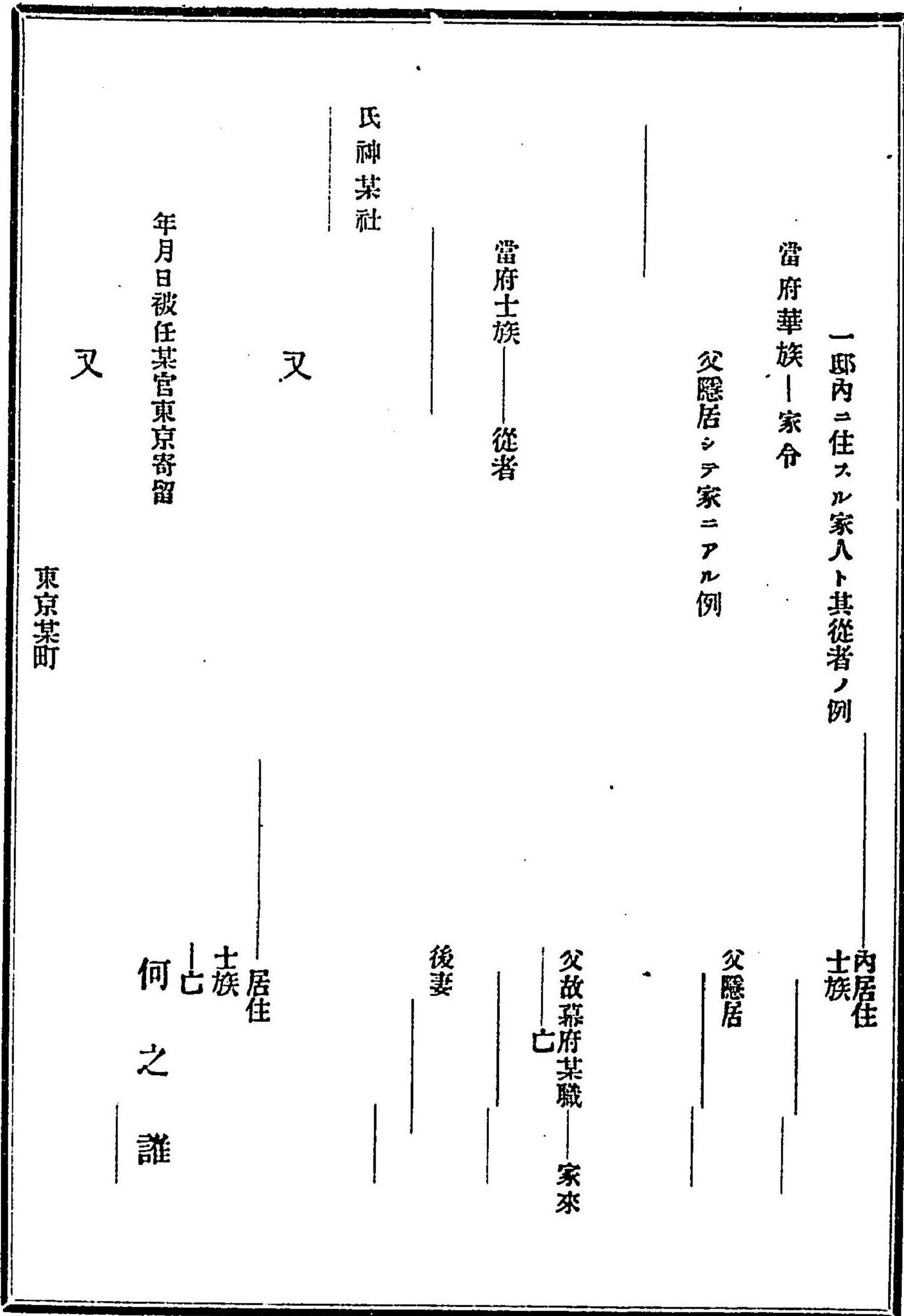
長男一妻

次女

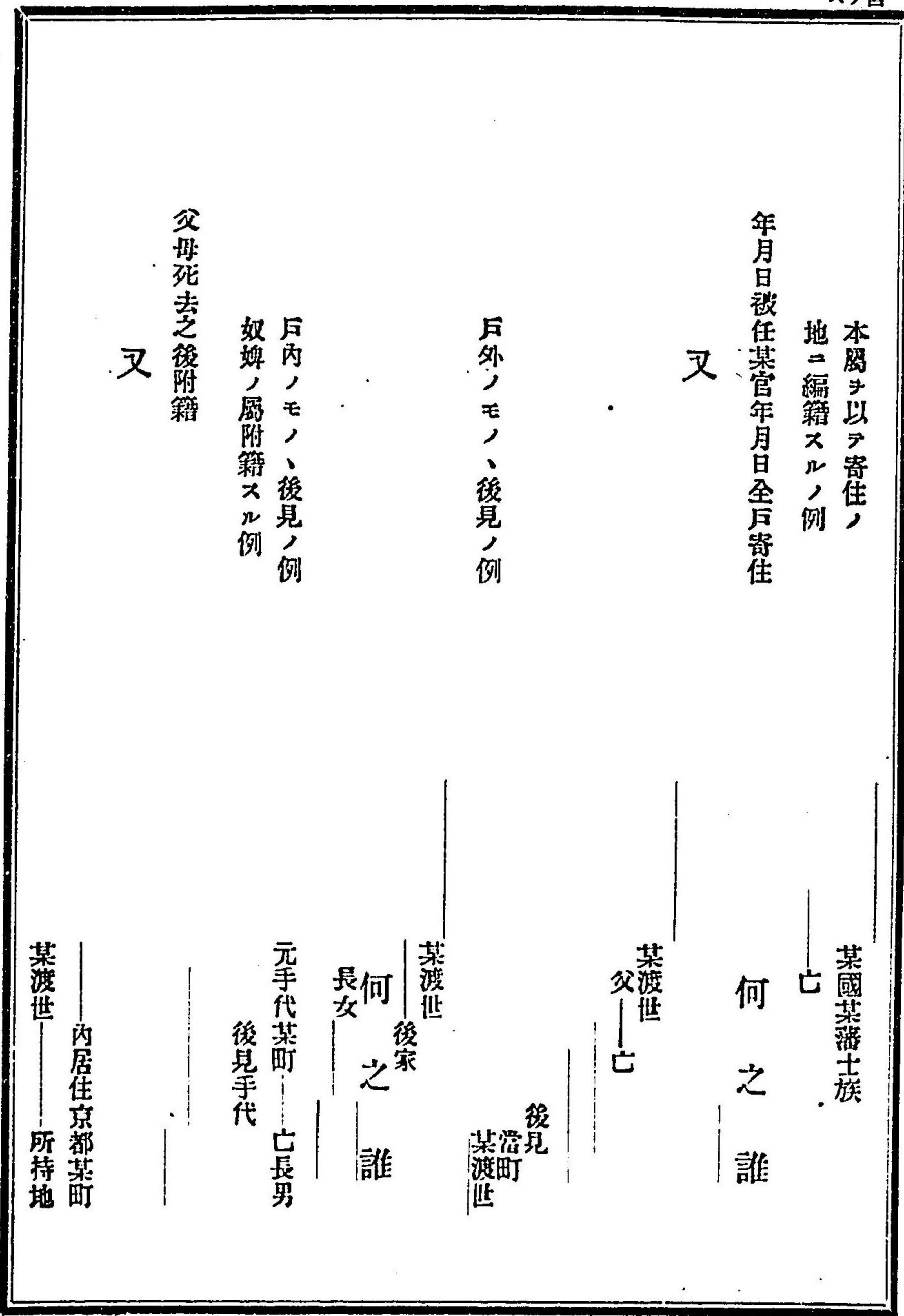
長女

癡疾

又



四年七月三日布告
ヲ以テ本屬ヲ以テ
寄住ノ地ニ編籍ス
ルノ例ヲ取消ス



コ

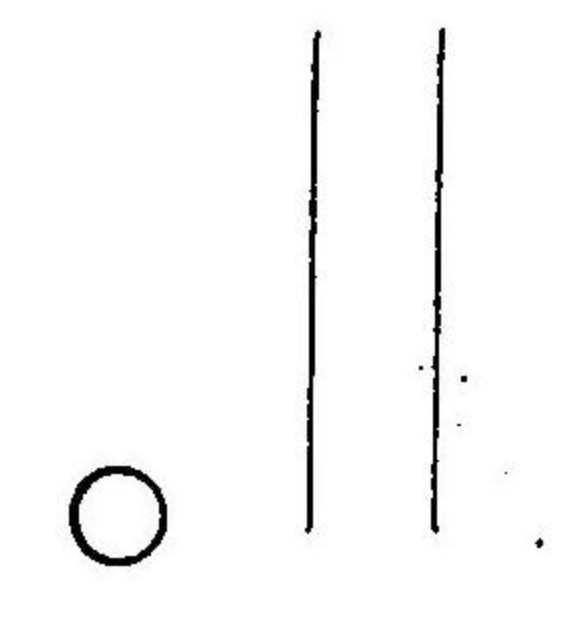
出店支配人
父某町一七

某國某郡某所
某社
父某職某名七

幾番地所
某國某郡某村某廟下
某社
父一七

社中
社人
某職
七

又 又



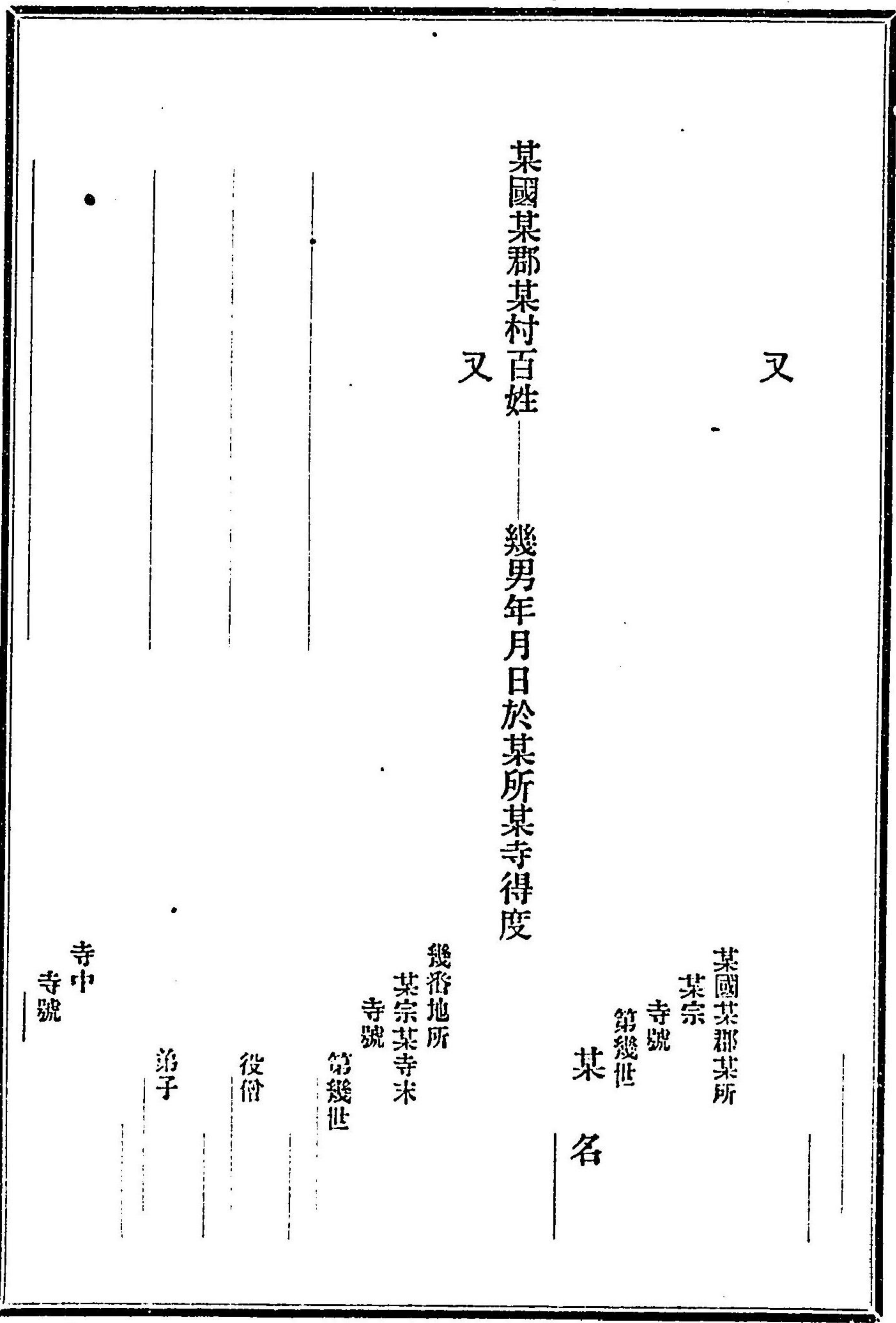
某國某郡某所
某宗
寺號
第幾世
某名

幾番地所
某宗某寺末
寺號
第幾世

役僧
弟子
寺中
寺號

某國某郡某村百姓
又
幾男年月日於某所某寺得度

又



右之通相違無之候

年號干支月

第何區戶長

同副

氏

名

印

氏

名

印

年號于支月

町村	戸	社	寺	家持	借家	人員	男	以下十四	以上十五	以上廿一	以上四十	以上六十	以上八十	女	以下十四	以上十五	以上四十	以上八十	内	男	女	出生	男	女	被	男	女	非人	男	女	死亡	男	女
四一八四	五二九一	六七	一〇二	七〇	九八	四七三	三三七	一七	三八	七八	七五	二五	四	三三六	一八	八九	二九	一〇	三	二	一	二八	一八	〇	三五	一五	一〇	二〇	九	一一	二八	一五	一三

前年人員若干
現在人員若干 若干

年號干支月

一	二	三	四	官	兵	華	族	士	族	卒	祠	官	僧	侶	農	工	商	雜	業	計
					五〇	一〇〇〇		一三	三九	二〇	一〇		八〇	八〇	一〇〇	八〇	二〇八	二〇〇	一七三八	
					三〇	八〇〇		二	三八	一八	八〇		六〇	八〇八	六七	二五〇	一八八	一五四〇		

某府藩縣寄留表

管內
第七號

年號千支月

月	十	月	十	月	九	月	八	月	七	月	六	月	五	月	四	月	三	月	二	月	正	地	
																			一六〇	二三五	員官		
																			六〇	一〇〇	四	八四	女男
																			八七五	八五六			隊兵
																			三七	三五			族華
																			一八	一九	一五	二〇	女男
																			一五〇	一五〇			族士
																			七三	七八	七四	八〇	女男
																			六〇	五〇			卒
																			九〇	五二	七〇	四三	女男
																			七一	八〇			官祠
																			一二	五九	一五	六五	女男
																			一一〇	一五〇			侶僧
																			九	一一	一一	一三八	女男
																			二七〇	二五〇			農
																			八一	一八九	七〇	一八〇	女男
																			八〇	六〇			工
																			三五	四五	二八	三三	女男
																			五〇三	三三〇			商
																			二二五	二七八	一五〇	一七〇	女男
																			三五〇	五〇五			業雜
																			一八〇	一七〇	二五五	二五〇	女男
																			一八〇	一五〇			人行修
																			七	一七三	七	一四三	女男
																			三〇八	三〇七			人公奉
																			一八七	一九三	一四七	一六〇	女男
																			三九〇	三〇〇	一〇〇	一八〇	生出
																			一九〇	二〇〇	一〇〇	一八〇	女男
																			三五五	三五五			計

年號于支月

												官 員	
												女	男
												一六〇	一五五
												六〇	一〇〇
												八七五	八五六
												三七	三五
												一八	一九
												一五〇	一五四
												七二	七八
												六〇	五〇
												九〇	七〇
												七一	八〇
												一一	五九
												一一〇	一四〇
												九	一一
												二七〇	二五〇
												八一	一八九
												八〇	六〇
												三五	四五
												五〇三	三三〇
												二二五	二七八
												三五〇	五〇五
												一八〇	一七〇
												一八〇	一五〇
												七	一七三
												三〇八	三〇七
												一八七	一九三
												三九〇	三〇〇
												一九〇	一〇〇
												三九五	三三〇
												三九八	三〇〇
												一九九	一九九

○明治四年七月三日布告

地方官地所管轄替相成候節管下之華士族卒等新地方官之可爲貫屬ハ勿論之儀
ニ付戸籍法第四號戸籍書式中本屬ヲ以テ寄住ノ地ニ編籍スルノ例ハ御取消相
成候條此旨更ニ相達候事

○明治六年五月二十八日第百七十七號布告

開拓使府縣

脱籍及ヒ行衛知レサル者家出後三十六ヶ月ヲ踰ヘ永尋中ノモノハ戸籍表總計
人員ノ外ニ記載シ又當人年齡八十歳以上ニ相成候得ハ除籍シ何レモ毎年大藏
省へ可届出事

○明治六年五月二十九日第百八十號布告

コ

辛未七月相達候氏子調ノ儀ハ追テ 御沙汰候迄不及施行候事

○明治六年七月八日第二百四十二號布告

戶籍法則中第廿則廿二則廿三則六ヶ年目戶籍改ノ條例追テ相達候迄不及施行候事

○五節ヲ廢シ祝日ヲ定ム

○明治六年一月四日第一號布告

今般改曆ニ付人日上巳端午七夕重陽ノ五節ヲ廢シ神武天皇即位日天長節ト兩日ヲ以テ自今祝日ト被定候事

○明治六年三月七日第九十一號布告

神武天皇御即位日紀元節ト被稱候事

○御歷代御諱并御名熟字ノ儘用ルヲ禁ス

○明治六年三月廿八日第百十八號布告

御歷代御諱并御名ノ文字自今人民一般相名乘候儀不及憚事 但熟字ノ儘相用候儀不相成候事

○戸主ノ婦女公私ノ書類ニ自印ヲ用シム

○明治六年五月卅一日第百八十四號布告

婦女子ニテ一家相續致候者ハ公私トモ他日証據ト爲スヘキモノヘ自印相用可申事

○國內廻漕規則

○明治七年十一月十日第百二十三號布告

明治六年^月第八號ヲ以テ港内取締規則相達置候處今般御國內廻漕規則別紙ノ通相

定來明治八年二月一日ヨリ施行候條右港内取締規則ハ同月同日ヨリ令廢止候此旨
布告候事

八年百六十三號布告ヲ以テ國內廻漕規則ヲ當分停止ス

國內廻漕規則

第一條 商船甲港ヨリ乙港
ヘ向ケ出帆ノ事

凡ソ諸商船日本形西洋形ニ不拘甲港^{定繫}ヨリ乙港へ出帆スル時ハ甲港ノ船改所或
ハ其筋ノ役所へ第一號甲ノ書式ニ從テ記シタル願書二通ニ第二號ノ積荷目錄二通

ヲ添テ差出スヘシ改所或ハ役所ニ於テ其積荷目錄ニハ改濟ノ檢印ヲ捺シ願書ヘハ
第一號乙ノ書式ニ從テ奧書シ一通ハ役所ニ留メ置一通ハ船長へ下渡シ出帆可差許
事

但甲港ノ船乙港へ入津シ其積荷ヲ揚陸シ更ニ他ノ物品ヲ積込丙港へ出帆シ又ハ
甲港ニ歸帆スルモ本文同様ノ手續タルヘシ尤定繫港ニ限り碇泊稅相納ルニ不及
事

第二條 商船甲港ヨリ乙
港へ入津ノ事

凡ソ諸商船甲港ヨリ乙港へ入津セハ著後二十四時間ニ其港船改所或ハ其筋ノ役所
へ第二號甲ノ書式ニ從テ記シタル願書二通ニ船免狀或ハ船稅鑑札甲港ノ出帆免狀
積荷目錄ヲ添ヘ差出スヘシ改所或ハ役所ニ於テハ第三號乙ノ書式ニ從テ記シタル
入港免狀下渡シ荷物揚陸可差許事

第三條 商船免狀船稅鑑札等所持セサル者
及ヒ入港届等開ニスル者科料ノ事

船免狀或ハ船稅鑑札并ニ出帆甲港ノ免狀無之者或ハ入港届等開ニ致シ候者等有之

ニ於テハ船ノ大小ニ從ヒ船稅規則ノ割ヲ以テ第十五條ニ照準シ料可申付事

第四條 商船他港ヨリ定 繫港へ歸著ノ事

凡ソ諸商船乙港ヨリ甲港定繫 港ニ歸著セハ總テ第二條ニ準スヘシ但積荷無之節ハ第四號ノ書式ニ從テ記シタル届書ニ乙港ノ免狀及ヒ船免狀船稅鑑札ヲ差出スヘシ尤入港免狀ハ下渡サ、ル事

第五條 免狀手數 料ノ事

凡ソ諸商船出帆入港共免狀相渡候節ハ船ノ大小ニ拘ハラズ免狀一通ニ付手數料トシテ貳錢宛可相納事

第六條 碇泊稅ノ事

定繫船ヲ除クノ外諸商港内へ船碇泊セハ第十五條ノ通碇泊稅可相納事
但五拾石未滿ノ商船小廻船鰯漁船ノ類ハ碇泊稅ヲ納ムルニ不及ト雖モ無証印ノ船有之時ハ本年第二十壹號布告ニ照準處分スヘキ事

第七條 商船風潮不順ニ 依リ入港ノ事

凡ソ諸商船風潮ノ不順ニ依リ一時無餘儀入港シ二十四時間ニ出帆スルモノハ届書ヲ差出シ碇泊稅ヲ納ムルニ不及ト雖モ右時間以上碇泊スルモノハ其港船改所或ハ其筋ノ役所へ第五號甲ノ書式ニ從テ記シタル届書ヲ差出シ且碇泊稅ヲ納ムヘシ改所或ハ役所ニ於テハ第五號乙ノ書式ニ從テ記シタル免狀可下渡事

第八條 商船避難ノタメ碇泊 積荷物賣買ノ事

諸商船一時避難ノタメ碇泊シ其船ノ都合ニ依リ其港ニ於テ積荷揚陸賣拂ヒ候節ハ通常入津ノ手續ヲ以テ第六號甲ノ書式ニ從テ記シタル願書船稅鑑札出帆免狀積荷目錄トヲ船改所或ハ其筋役所へ差出スヘシ改所或ハ役所ニ於テハ第六號乙ノ書式ニ從ヒ第二條ノ通免狀可下渡事

但買入積込候節ハ第一條ノ通タルヘキ事

第九條 出入港相定候郵船ノ類 手數料并ニ碇泊稅ノ事

郵船ノ類甲乙兩港ノ間平生往來相定候分假令ハ東京ト横濱大阪ト神戸ト 出入ノ毎 如ク其間ニ限リ往來致シ候類度手數料碇泊稅取立候テハ時間相費營業ノ差支ニモ可相成ニ付右等ノ分ハ願ノ上

一箇月分出入ノ度数ヲ計リ手數料碇泊稅共碇泊稅ハ定繫
港ヲ除クノ外都テ規則ノ割合半方宛
前納候上ハ殘半取纏每月初旬中ヲ限り第七號甲ノ書式ニ從テ記シタル手形ヲ以テ
一時上納スルニ於テハ第七號乙ノ書式ニ從テ記シタル免狀可下渡事

第十條 港則違
犯ノ事

凡ソ諸商船出入共開港場ハ勿論其他ノ港内ニ於テモ積荷或ハ荷足品ヲ揚卸スル時
ハ波戶場ノ順序等總テ其港ニ於テ定メタル規則ニ從フヘシ若シ之ヲ犯スモノハ第
十五條ニ照準シ科料可申付事

第十一條 通船無之土地新規
掘割口錢取立ノ事

從前通船無之土地ヲ願ノ上新タニ掘割運輸ノ便ヲ開キ候者掘割入費支消ノタメ年
季ヲ定メ通船ヨリ口錢等取立候類ハ此規則ノ例ニアラサル事

第十二條 出帆願書其他
諸書式ノ事

出帆願書其他ノ諸書式ハ雛形ノ通各府縣ニ於テ黑字ノ通上梓朱字ノ分其時々填書
候様致シ置キ船改役所或ハ其筋役所ニ於テ可下渡事

第十三條 輸出入品
届書ノ事

出入港品ハ品名箇數尺度斤量元價并ニ其仕向ヶ場仕出場等精細第八第九號書式ノ
通記載致シ月末毎ニ各府縣ヨリ租稅寮ヘ可差出事

第十四條 各港出入船
届書ノ事

各港出入ノ船舶ハ管轄船形船名積高并ニ仕出場入港日仕向場出港日等精細第十號
書式ノ通記載致シ各府縣ヨリ租稅寮ヘ可差出事

第十五條

碇泊稅并ニ諸科料等ハ都テ左ノ算則ニ照準シ可取立事

碇泊稅

五十拾石以上	每拾石	壹錢
貳百石迄	每拾石	
貳百壹石以上	每拾石	七厘五毛
五百石迄	每拾石	
五百壹石以上	每拾石	五厘

船免狀船稅鑑札所持セサル者科料

八年十九號布告ヲ
以テ本條中碇泊稅
算則ヲ改定ス

八年三十八號布告
ヲ以テ本項下へ但
審ヲ追加ス

日本形船	每百石	金五圓
西洋形瀛船	每百噸	金七拾五圓
西洋形帆走船	每百噸	金五拾圓
出帆免狀所持セサル者科料		
日本形船	每百石	金四圓
西洋形瀛船	每百噸	金六拾圓
西洋形帆走船	每百噸	金四拾圓
入港届等閑ニスル者科料		
日本形船	每百石	金三圓
西洋形瀛船	每百噸	金四拾五圓
西洋形帆走船	每百噸	金三拾圓
積荷無之船歸港届等閑ニスル者科料		
日本形船	每百石	金貳圓

八年四十九號布告
ヲ以テ本項科料ヲ
改定ス

西洋形瀛船	每百噸	金三十圓
西洋形帆走船	每百噸	金貳拾圓
港則違犯ノ者科料		
日本形船	每百石	金壹圓
西洋形瀛船	每百噸	金拾五圓
西洋形帆走船	每百噸	金拾圓
但西洋形船噸數ヲ以テ唱へ候分碇泊税ニ限り壹噸ハ我六石七斗貳升ノ 割ヲ以テ石ニ直シ可取立事		
第十六條		
五拾石未滿ノ小船ハ碇泊税手数料等相納ルニ不及事		

八年六十九號布告
ヲ以テ本條へ但審
ヲ追加ス

八年八十六號布告
ヲ以テ第十七條ヲ
追加ス

コ

出帆願書

一 船名何丸
 船形 日本形 船
 積高 何石 形 數
 船主何縣管下何國何郡何所何之誰
 乘組何人
 積荷目錄之通
 船客何人

右、來何月幾日當港出帆何々港ニ赴度依之手數料幾言上納候間御免狀御下渡奉願候以上
 明治何年何月幾日

何港 船御改所

何丸 船頭

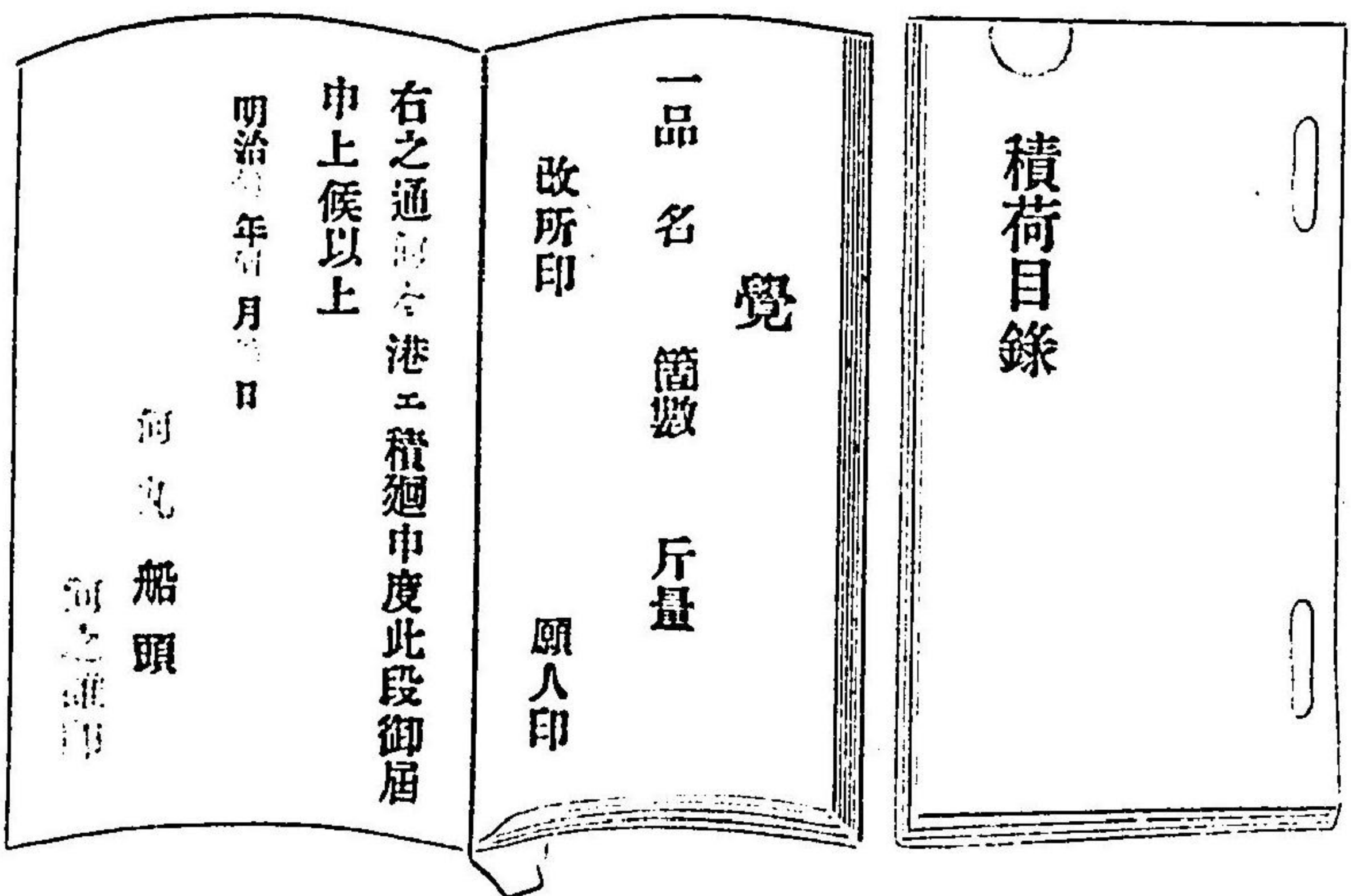
前書之通檢査之上手數料取立出帆差許候事

明治何年何月幾日

何縣管下 何港 船改所

何之誰印

積荷目錄ヲ
 冊子ニ綴タ
 ル所



第三號

入港願書

一船名何丸

船形 日本形

積高 何石

船主 何縣管下何國何郡何所何之誰

乘組 何人

積荷目録之通

船客 何人

右ハ去何月幾日何ヶ港出帆今何月幾日當港着船仕候ニ付船稅御鑑札何ヶ港御免狀並積荷目録相添手數料幾何碇泊稅幾何上納仕候間何物揚陸御免狀奉願候以上

明治何年何月幾日

何丸 船頭

何之誰印

何港

船御改所

前書之通檢査之上手數料並碇泊稅取立荷物陸揚差許候事

明治何年何月幾日

何縣管下

何港船改所

何之誰印

第四號

歸港御届

一船名何丸

船形 日本形

積高 何石

船主 何縣管下何國何郡何所何之誰

乘組 何人

積荷無之

船客 何人

右之通相違無之候間 何ヶ港御免狀相添此段御届申上候以上

明治何年何月幾日

何丸 船頭

何之誰印

何港

船御改所

乙	甲
碇泊届書	
<p>一 船名 何丸 船形 日本形 歐 積高 何石 船主 何縣管下何國何郡何所何之誰 乘組 何人 積荷 目錄之通 船客 何人</p> <p>右ハ去ル何月幾日何港出帆何々港へ趣ク積之處何沖ノ難風差起去幾日當港へ碇泊仕風潮之便宜次第出帆可仕卜存候依之手數料幾何碇泊稅幾何上納此段御届申上候以上 明治何年何月幾日 何丸 船頭 何之誰印</p> <p>前書避難ノ爲當港へ碇泊相當ノ手數料並碇泊稅銀正ニ請取風潮ノ便宜次第出帆差許候事 何港 船御改所 何縣管下何々港 船改所 何之誰印</p> <p>明治何年何月幾日</p>	

乙	甲
碇泊届書	
<p>一 船名 何丸 船形 日本形 歐 積高 何石 船主 何縣管下何國何郡何所何之誰 乘組 何人 積荷 目錄之通 船客 何人</p> <p>右ハ去ル何月幾日何々港出帆何々港へ可趣積之處今何月幾日難風ニ遇レ當港へ碇泊仕勝手合ニ付積荷揚陸仕度依之何々港御免狀并ニ積荷目錄相添手數料幾何碇泊稅幾何上納仕候間荷物揚陸御免狀奉願候以上 明治何年何月幾日 何港 船頭 何之誰印</p> <p>前書之通 検査之上手數料並ニ碇泊稅共取立荷物揚陸差許候事 何港 船改所 明治何年何月幾日</p>	

第七號

<p>一船名何丸</p> <p>船形 日本形 歐形 歐</p> <p>積高 何石 何噸</p> <p>船主 何縣管下何國何郡何所何之誰</p> <p>出入定日</p> <p>何月分碇泊稅半方幾許何度分</p> <p>何月分手數料半方幾許何度分</p> <p>右當何港ヨリ何港之間定日之通往來仕候ニ付御規則之手數料 何碇泊稅 幾何上納仕候間 御免狀奉願候以上</p> <p>明治何年何月幾日</p> <p>何港 船御改所</p> <p>何丸船頭</p> <p>何之請印</p> <p>前書之通手數料並碇泊稅共取立當港ヨリ何港之間當何月中往來差許候事</p> <p>何縣管下 何港船改所</p> <p>明治何年何月幾日</p> <p>何之請印</p>	
---	--

第八號

<p>何港明治 年 月輸出物品表</p>				
品名	箇數	尺	量元	價仕向場

第九號

何港明治 年 月輸入物品表	
品名	數量
價	仕出

第十號

何港明治 年 月出入船舶表	
管轄船形	積高
仕出	入港
入港日	仕出
入港日	仕出

○明治八年二月五日第拾九號布告

明治七年^{十一月} 第百貳拾三號布告國內回漕規則中第拾五條碇泊稅算則左ノ通改定候條此旨布告候事

國內廻漕規則

第拾五條

一 碇泊稅并ニ云々

碇泊稅

五拾石ニ付金五錢ト定メ貳百石迄ハ拾石毎ニ壹錢宛ヲ増ス

貳百拾石ニ付同貳拾錢七厘五毛トス五百石迄ハ拾石毎ニ七厘五毛宛ヲ増ス

五百拾石以上ハ拾石毎ニ五厘宛ヲ増ス

○明治八年三月四日第三十八號布告

明治七年^{十一月} 第百貳拾三號布告國內廻漕規則第十五條中船免狀船稅鑑札所持

セサル者科料ノ條下へ左ノ通但書追加候條此旨布告候事

國內廻漕規則

第十五條

船免狀船稅鑑札所持セサル者科料

日本形船云々

西洋形瀛船云々

西洋形帆走船云々

但拾石貳拾石等ノ端數モ右ノ割合ヲ以テ取立拾石未滿ノ石數ハ切捨ヘシ以下諸科料ノ算則總テ之ニ準ス

○明治八年四月五日第拾九號布告

明治七年^{十一月} 第百貳拾三號布告國內廻漕規則第拾五條中港則違犯ノ者科料左

ノ通改定候條此旨布告候事

港則違犯ノ者科料

日本形船

西洋形汽船

金貳拾圓以內

西洋形帆走船

但書從前ノ通

○明治八年五月三日第六拾九號布告

明治七年^{十一月} 第一百貳拾三號布告國內廻漕規則第十六條へ左ノ通但書追加候條
此旨布告候事

國內廻漕規則

第十六條

五拾石未滿云々

但解漁船并湖川運用船ハ積石ノ多少ヲ問ハス碇泊稅手數料等相納ルニ不及
事

○明治八年五月十七日第八拾六號布告

明治七年^{十一月} 第一百二十三號布告國內廻漕規則第十七條左ノ通追加候條此旨
布告候事

第十七條

一日本形西洋形ノ諸商船製造買入レトモ自今船免狀及ヒ船稅鑑札へ定繫港名
ヲ記載スベシ尤從前渡シ有之免狀及ヒ鑑札へ定繫港名ヲ記入スルハ本船入
津ノ節其地船改所ニ於テ船長ヨリ其港名ヲ申出サセ免狀ハ船名ノ下鑑札ハ
表面ノ右方へ記入シ而シテ其船主ノ本管廳へ通知シ本管廳ヨリハ免狀ノ分
更ニ內務省へ可届出事

但本文港名記入ノ儀ハ本年十一月二十日ヲ期限トス故ニ其期限以內ハ各

地入津ノ本船長ニ於テ定繫港名駝ト難申出分ハ記入ニ及ハス且船主營業ノ都合ニヨリ記入ノ後定繫港ヲ他ニ換ヘントスル時ハ其旨本管廳ヘ申立更ニ許可ヲ可受事

○公文中一倍ノ稱呼ヲ廢ス

○明治八年十二月二日第百八十三號布告

自今公文中總テ計算上一倍ノ稱呼ヲ止メ從前ノ諸規則等ニ一倍ト記載有之分ハ二倍ト改正候條此旨布告候事

但譬ハ原高一圓ノ二倍ハ二圓十倍ハ十圓ト計算候儀ト可心得事

○國立銀行條例附成規

○明治九年八月一日第百六號布告

明治五年^{十一月} 第三百四十九號布告國立銀行條例ノ儀詮議ノ次第有之別冊ノ通改正致シ舊條例ハ自今相廢シ候條新ニ國立銀行ヲ創立セントスル者ハ勿論從來舊條例ヲ遵奉シテ創立シタル者ト雖モ右改定條例ニ準據シ大藏省ヘ願出ノ上其免許ヲ受候様可致此旨布告候事

別冊

國立銀行條例 附成規

國立銀行條例目次

- 第一章 第一條ヨリ 第十六條ニ至ル 銀行創立ノ方法。創立證書銀行定款ノ差出方及ヒ開業免狀ノ下附並ニ諸役員撰任方法等ノ事ヲ明ラカニス
- 第二章 第十七條ヨリ 第二十七條ニ至ル 銀行資本金ノ制限。公債証券銀行紙幣交收ノ割合並ニ其手續及ヒ引換準備金等ノ事ヲ明カニス
- 第三章 第二十八條ヨリ 第四十四條ニ至ル 株式ノ分割。資本金入金ノ割合。株式没入。株主牒ノ記入。株式ノ賣買及資本金増減等ノ事ヲ明ラカニス
- 第四章 第四十五條ヨリ 第五十一條ニ至ル 銀行紙幣ノ製造及ヒ種類。其通用ノ能力。引換場所及ヒ燒捨等ノ事ヲ明カニス
- 第五章 第五十二條ヨリ 第六十一條ニ至ル 銀行營業ノ本務。公債証券其他ノ賣買並ニ貸附金ノ制限。利息ノ制限。銀行紙幣並ニ株式抵當ノ制禁及ヒ預リ金準備等ノ事ヲ明カニス

- 第六章 第六十二條ヨリ 第六十六條ニ至ル 銀行名號ノ掲牌。社印ノ書體。諸手形ニ於ケル銀行ノ負責。所有物ノ明細帳及ヒ營業時間等ノ事ヲ明カニス
- 第七章 第六十七條ヨリ 第七十八條ニ至ル 株主總會ノ定規並ニ格段決議ノ順序。諸簿冊ノ點檢及ヒ檢査ノ手續。諸報告差出方等ノ事ヲ明カニス
- 第八章 第七十九條ヨリ 第八十條ニ至ル 利益金分配ノ方法及ヒ積金割合ノ規定ヲ明カニス
- 第九章 第八十一條ヨリ 第八十二條ニ至ル 銀行ハ官廳ノ爲換方ニ從事スル事並ニ外國銀行ト聯合スヘカラサル事ヲ明カニス
- 第十章 第八十三條ヨリ 第八十七條ニ至ル 銀行役員職務上一般ノ制禁及ヒ其負責ノ事ヲ明カニス
- 第十一章 第八十八條ヨリ 第九十一條ニ至ル 紙幣及ヒ諸手形類ノ發行並ニ銀行紙幣ノ製造描改及ヒ其版板ノ彫刻等禁止ノ事ヲ明カニス
- 第十二章 第九十二條ヨリ 第一百三條ニ至ル 銀行ニ於テ其紙幣引換ヲ拒ミシ時ノ處分。特例監督役跡引受人等ノ取扱方並ニ公債証券ノ没入及ヒ紙幣引換等ノ手續

ヲ明カニス

○第十三章

第一百四條ヨリ 銀行平穩銷店ノ手續及ヒ其紙幣引換方等ノ事ヲ明カニス
第八條ニ至ル

○第十四章

第九條ヨリ 銀行訴訟ノ取扱及ヒ罰金處分ノ事ヲ明カニス
第十條ニ至ル

○第十五章

銀行納税ノ事ヲ明カニス
第十一條

○第十六章

第十二條 條例ノ更正及ヒ廢止ノ事ヲ明カニス
第一百十二條

目次畢

國立銀行條例

國立銀行ハ政府ヨリ發行スル公債證書ヲ抵當トシテ之ヲ大藏省ニ預ケ紙幣
寮ヨリ銀行紙幣ヲ受取り引換ノ準備金ヲ設ケ之ヲ發行シ以テ其業ヲ營ムモ

銀行創立諸
ノ件

ノナリ今之ヲ創立スルニ付大日本政府ニ於テ制定シタル條々左ノ如シ

○第一章 銀行創立ノ方法。創立證書銀行定款ノ差出方及ヒ開業免狀ノ下附並

ニ諸役員撰任方法等ノ事ヲ明カニス

第一條 此條例ヲ遵奉シ國立銀行ヲ創立セント欲スル者ハ何人ヲ論セス (外國人

ヲ除クノ外) 五人以上結合シタル人々成規第一條ニ掲クル所ノ手續ヲ以テ其創

立願書ヲ大藏省ノ紙幣寮ヘ差出スヘシ紙幣頭之ヲ檢按シ相當ト思慮スルニ於テ

ハ之ヲ大藏卿ニ稟議シテ其銀行創立證書及ヒ銀行定款ノ差出方ヲ命スヘシ

第二條 右紙幣頭ノ命ヲ受ケタル人々ハ各其姓名ヲ創立證書ニ記入シ諸般ノ手續

ヲ經テ其創立證書ニ紙幣頭ノ承認許可ヲ受ルニ於テハ此條例ニ規定セル簡條ヲ

遵奉シ以テ國立銀行ヲ創立スルヲ得ヘシ而シテ其創立證書ニ掲載スヘキ件々ハ

左ノ如シ

第一 銀行ノ名號

但シ此名號ハ紙幣頭ノ承認許可ヲ得テ之ヲ公稱スヘシ

銀行ヲ創立ス
ルノ換証

コ

第二 銀行ノ本店及ヒ支店(若シ之アラハ)ヲ置クヘキ場所

第三 銀行資本金額及ヒ株數

第四 銀行營業ノ年限

第五 株主ノ姓名、住所、屬族、職業(若シ之アラハ)及ヒ其引受ケタル株式ノ番號、箇數

第六 此創立証書ハ此條例ヲ遵奉シ銀行ノ事業ヲ營ナミ株主一同ノ利益ヲ謀ルタメ取極メタル旨

第三條 右創立証書ハ其株主等各記名調印シ之ニ壹錢ノ印紙ヲ貼用シ其管轄地方長官ノ與書鈐印ヲ受タルモノタルヘシ斯ク從事シタル創立証書ハ當人ハ勿論其相續人後見人タル者ニ於テモ右創立証書ノ箇條ヲ確守シ此條例成規ノ旨趣ヲ遵奉スル者トスヘシ

第四條 右創立証書ノ箇條ヲ更正スルニハ其社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認許可ヲ得ルニ於テハ之ニ從事スルヲ得ヘシ但シ其事件ハ即チ資本金ノ増減及

創立証書ノ印紙貼用并ニ其他ノ件

創立証書更正ノ件

ヒ本店轉移或支店開設等ノ如キ是ナリ而シテ右ノ如ク更正シタル箇條ハ最初右創立証書中ニ記載セシ箇條ト同シク確守スヘシ且右ノ箇條ハ其創立証書ノ本紙正寫ノ別ナク之ヲ綴込ミ又ハ添附シ置ヘシ

但シ右ノ外創立証書中ノ箇條ヲ更正スルヲ得サルヘシ

第五條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ハ右創立証書ニ必ス銀行定款ヲ添フヘシ而シテ此定款ハ即チ成規第六條ニ掲クル所ノ雛形ニ準據シ其箇條ヲ悉皆(又ハ若干)記載シ創立証書ト同様株主一同之ニ記名調印シ壹錢ノ印紙ヲ貼用シタルモノタルヘシ

但シ此定款ハ唯紙幣頭ノ承認ヲ得紙幣寮ノ官印ヲ受クルノミニシテ其管轄地方長官ノ與書鈐印ヲ乞フニ及ハサルヘシ

第六條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ハ社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ銀行定款中ニ掲ケタル諸款ヲ更正増補シ及ヒ之レヲ廢止スルヲ得ヘシ而シテ右ノ如ク更正増補シタル箇條ハ最初右定款中ニ掲載セシ箇條ト同シク

定款ノ印紙貼用并ニ其他ノ件

定款ノ箇條ヲ更正増補及ヒ廢止スルノ件

確守スヘシ且右ノ箇條ハ其定款ノ本紙正寫ノ別ナク之ヲ綴込ミ又ハ添附シ置クヘシ

創立證書並ニ定款差出方ノ件

第七條 創立證書並ニ銀行定款ハ本紙壹通正寫ニ通都合ニ通宛ヲ製シ而シテ創立證書ヘ其管轄地方長官ノ奥書鈐印ヲ受ケ銀行定款ト共ニ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

開業免狀下附ノ件

第八條 紙幣頭ハ右創立證書及ヒ銀行定款ヲ領受シ其銀行株主等此條例第三十條ニ規定スル所ノ割合ヲ以テ資本金ノ入金ヲナセシヤ否ヤノ狀實ヲ検査シ且株主等ノ正不正其他百般ノ事務ヲ視察シ不都合アルニ非レハ之ヲ大藏卿ヘ稟議シ開業免狀ヲ下附スヘシ

銀行開業ノ件

但シ創立證書銀行定款共本紙ハ記録寮ニ納メ正寫壹通ハ紙幣寮ノ簿冊ニ綴込ミ壹通ハ紙幣寮ノ官印ヲ鈐シテ開業免狀ト共ニ之ヲ其銀行ヘ下附スヘシ
第九條 銀行ハ右ノ開業免狀ヲ得テ始テ一團ノ會社トナリ何々國立銀行ト公稱シ此條例成規ニ規定シタル箇條ヲ履行シテ國立銀行ノ事業ヲ經營スルヲ得ヘシ

開業免狀創立證書定款ハ確立ノ件

第十條 此條例ニ從ヒ紙幣頭ノ記名調印シタル開業免狀。創立證書。銀行定款ハ何レノ裁判所何レノ官廳ニ於テモ之ヲ正確ナル證據トシテ採用セラル、ヲ得ヘシ

創立證書並ニ定款ノ寫ヲ各株主ヘ付與スルノ件

第十一條 創立證書銀行定款ノ寫又ハ版本等(用意分配ノ手續了ルノ後)各株主ヨリノ要需アルニ於テハ銀行ニ於テ定ムル所ノ代價ヲ以テ之ヲ付與スヘシ若シ銀行右付與ノ事ヲ怠慢スルニ於テハ銀行ハ其怠慢時間一日ニ付五圓ニ踰エサル罰金ヲ納ムヘシ

營業規則並ニ延期ノ件

第十二條 此條例ヲ遵奉シテ創立スル銀行ハ鎖店其他ノ事故アルニ非レハ開業免狀ヲ受ケシ日ヨリ二十箇年ノ間其營業ヲ取續クヲ得ヘシ右期限ヲ過キ尙ホ營業セント欲スルニ於テハ其趣ヲ紙幣頭ヘ申請シテ更ニ免許ヲ受クヘシ

十六年十四號布告スヲ以テ本條ヲ改正ス

社號并ニ社印用法ノ件

第十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等ハ開業免狀ヲ得ルノ日ヨリ社印ヲ刻シ諸役員ノ印信ト共ニ大藏省ノ紙幣寮國債寮出納寮ノ三寮ヘ差出スヘシ而シテ銀行ノ諸出願ヲ始メ訴訟。約定。保證及ヒ報告。往復其他一切ノ文書ニ至ルマテ都テ其社號ヲ用非社印ヲ鈐スヘシ

コ

但シ報告。約定。保證等ノ如キ文書ニハ頭取取締役及ヒ支配人ノ名印ヲモ加用スヘシ

銀行ノ諸役員
撰任ノ件

第十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ頭取取締役ヲ始メ支配人。書記方。出納方。計算方。簿記方其他適宜ノ役員ヲ撰任シ其職制權限進退及ヒ頭取。取締役交代ノ手續等諸般ノ規約ヲ取極メ之ヲ銀行定款中ニ掲載スヘシ

取締役所持株
式ノ制限

第十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ取締役ハ必ス自力ヲ以テ成規第五十一條ニ規定スル所ノ株數ヲ所持シタル者ニシテ其總員ハ五人以上(内一人ハ頭取)タルヘシ而シテ其四分ノ三ハ其銀行創立ノ地ニ於テ上任前一箇年以上在任シタル者ニ限ルヘシ

頭取取締役等
詞ノ件

第十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役ハ上任ノ節ニ其地方長官ノ面前ニ於テ誓詞ヲ爲シ其事務ヲ施行スルニ忠實公平ヲ以テシ且此條例中ノ要旨ニ決シテ背戻セサル旨ヲ認メ其管轄地方長官ノ奥書鈐印ヲ受ケ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ紙幣頭ハ之ヲ領受シテ寮中ノ簿冊ニ綴込ムヘシ

資本金額制限
ノ件

第十七條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ノ資本金額ハ十萬圓ヨリ下ル可ラス尤人

口拾萬人以上ノ地ニ於テハ貳拾萬圓未滿ノ資本金ヲ以テ創立スルヲ許サス

但シ時宜ニ依リ紙幣頭差支ナシト思考シテ大藏卿ヘノ稟議ヲ經ルニ於テハ五

萬圓以上拾萬圓未滿ノ資本金ニテモ創立ヲ許スコアルヘシ

公債証券納方
ノ件

十一年五號布告ヲ
以テ本條ヲ改正ス

第十八條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ハ其資本金額十分ノ八(即チ拾萬圓ナレハ八萬圓)ヲ政府ヨリ發行スル所ノ公債證書ニテ此條例第二十二條ニ掲クル所ノ割合ニ從ヒ實價(即チ市中賣買ノ時相場ニシテ紙幣頭ノ時々指定スル所)ヲ以テ之ヲ出納寮ヘ預クヘシ尤右公債證書ハ四朱以上利付ノ者(即チ新公債證書。金札引換公債證書。秩祿公債證書及ヒ爾後政府ヨリ發行スヘキ四朱以上利付ノ公債證書ニ限ルヘシ

但シ右ノ公債證書市中賣買ノ相場低下スル時ハ紙幣頭ハ更ニ之ヲ其銀行ニ命

シテ其不足ハ猶ホ他ノ公債證書ヲ納メテ本條規定スル所ノ割合額數ニ滿タシムヘシ

公債証券ノ旨守并ニ當處分ノ件

第十九條 右公債證書ハ此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル紙幣ノ抵當ナルヲ以テ出納頭ハ其銀行永續中ハ正ニ之ヲ預リ置クヘシ而シテ若シ此公債證書ノ内國債寮ニ於テ施行スル所ノ公債支消ノ抽籤ニ當ル者アレハ銀行ハ他ノ公債證書ヲ納メテ之ヲ引換フヘシ

銀行紙幣交換準備金ノ制限

十六年十四號布告ヲ以テ本條ヲ改正ス

第二十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其資本金額十分ノ二ヲ通貨ヲ以テ銀行ニ積置キ前條ニ掲クル所ノ公債證書ノ代リトシテ紙幣寮ヨリ受取ル銀行紙幣ノ引換準備ニ充ツヘシ故ニ其銀行紙幣發行ノ際ニ於テハ常ニ其流通高ノ四分一ノ割合ヲ以テ準備金ヲ現存スルヲ定度トス尤銀行紙幣發行ノ増減ニ隨ヒ其準備通貨モ亦タ便宜之ヲ増減シ之ヲ費用スルヲ得ヘシ
但シ右紙幣ノ引換多クシテ四分一ノ準備ニテ引換方差支フルコトアレハ別ニ通貨ヲ加ヘテ之ヲ引換ヘ決シテ之ヲ拒ミ又ハ之ヲ怠ルヘカラス

資本金ノ増減ニ從ヒ引換ノ準備金等モ其割合ニ準スル

公債証券銀行紙幣交換ノ件

十六年十四號布告ヲ以テ本條ヲ削除ス

第二十一條 此條例第四十條四十二條ニ掲クル所ノ手續ヲ以テ資本金額ヲ増減スルコトアルニ於テハ前條ニ掲クル所ノ公債證書並ニ銀行紙幣引換ノ準備金モ亦其割合ニ從テ之ヲ増減スヘシ

第二十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ニ於テ資本金集合ノ手續ヲ了リタル後公債証券ヲ納メテ同額ノ銀行紙幣ヲ受取り其引換準備金ヲ積立ルノ割合ハ即チ左ノ如シ

例ヘハ資本金拾萬圓ヲ以テ創立スル銀行ナレハ

八萬圓ハ 四米以上利付ノ公債証券實價八萬圓ニ當ル高ヲ出納寮ヘ納メ即チ八萬圓ノ銀行紙幣ヲ紙幣寮ヨリ受取ヘシ

貳萬圓ハ 通貨ヲ以テ銀行ニ積置キ銀行紙幣引換ノ準備トナスヘシ

但シ此條例第二十條ニ掲クル所ノ規定ニ從テ資本金ヲ集合スル時ハ其入金毎ニ右ノ割合ヲ以テ公債証券銀行紙幣交收ノ手續ヲナスヘシ

第二十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取支配人ハ公債証券ヲ出納寮ヘ納メ其受

銀行紙幣領受ノ件

コ

公債証券勘査ノ件

取證書ヲ領受シタル後同額ノ銀行紙幣ヲ各種ノ種類ニテ紙幣寮ヨリ受取り之ニ頭取支配人等ノ各印ヲ加用シ以テ銀行營業ノ資本トナスヘシ

第二十四條 右公債証券ノ請取証書ハ紙幣頭出納頭ノ連署調印シタル者タルヘシ尤此公債証券ノ勘査ニ付テハ該兩寮頭互ニ其簿冊ヲ開ラキ須ラク注意ヲ盡シ詳明ニ之ヲ記入シ又互ニ之ヲ點檢スルヲ得ヘシ

公債証券ノ改入并ニ委任狀ノ件

第二十五條 此條例第十八條ニ掲クル所ノ出納頭ニ預ケタル公債証券ハ毎年一度(又ハ數度)銀行ノ役員出納寮ニ至リテ之ヲ點檢シ其銀行ノ元帳ニ照シテ其種類員額等相違ナキニ於テハ改入ハ改濟ノ旨ヲ書面ニ認メ之ヲ出納頭ヘ差出スヘシ但シ右改入出納寮ヘ出ル時ハ其銀行頭取ノ委任狀ヲ持參スヘシ

公債証券換納ノ件

第二十六條 右公債証券ハ銀行ノ都合ニヨリ四厘以上利付ノ他ノ公債証券ヲ以テ之カ引換ヲ申請シ紙幣頭ノ考案ニ於テ差支ナシトセハ其趣ヲ出納頭ヘ通知シ之ヲ交換下附スヘシ

但シ其引換ヘタル趣並ニ其公債証券ノ種類金額等ハ紙幣出納兩寮ノ簿冊ニ詳

公債証券利息ノ件

記スヘシ

第二十七條 右公債証券ヨリ生スル年々ノ利息ハ其銀行之ヲ受取り毎年銀行ノ利益精勘定ノ内ニ加ヘテ之ヲ株主一同ヘ分配スヘシ

十六年十四號布告ヲ以テ本條但書ヲ削除ス

但シ銀行ニ於テ其銀行紙幣引換ノヲ怠ルカ又ハ此條例ニ背戾スルヲアレハ紙幣頭ハ其利息ヲ取押フルヲアルヘシ

○第三章 株式ノ分割。資本金入金ノ割合。株式没入。株主牒ノ記入。株式ノ賣買及ヒ資本金増減等ノ事ヲ明カニス

株式分割ノ定規

第二十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ資本金ハ之ヲ株式ニ分割シ百圓又ハ五十圓又ハ貳拾五圓ヲ以テ一株ト定ムヘシ尤一株百圓ニ分配シタル銀行ノ株式ハ悉皆百圓ノ金高タルヘシ五十圓貳拾五圓ノ株式モ亦之ニ準スヘシ

但シ拾萬圓以上ノ資本金ヲ以テ創立スル銀行ナレハ百圓又ハ五十圓ヲ以テ一株ト定ムヘシ又拾萬圓未滿五萬圓マテノ資本金ヲ以テ創立スル者ナレハ五十圓又ハ貳拾五圓ヲ以テ一株ト定ムヘシ

コ

株式ノ所有ハ
其望ニ任スル
ノ件

二百九十六

第二十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主タル者ハ各自ノ望ニ任セ幾株ニテモ之ヲ所持スルヲ得ヘシ而シテ其株主ハ何レノ屬族何レノ職務アルニ拘ハラズ總テ其所持株高相當ノ權利ヲ有シ其銀行營業ニ付テノ損益ハ株高ニ應シテ之ヲ負擔スヘシ

但シ大藏省ノ官員其他ノ官員トモ此銀行ノ事務ニ關係アル者ハ株主トナルヲ許サズ

資本金入金割
合ノ件

第二十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主等ハ開業免狀ヲ得其業ヲ始ムル前ニ於テ少ナクトモ資本金總額十分ノ五ハ必ス之ヲ銀行ニ入金スヘシ而シテ他ノ十分ノ五ハ資本金總額ノ十分一ヲ以テ月賦ト定メ開業免狀ヲ得タル月ノ翌月ヨリ入金スヘシ

資本金集合高
届書差出方ノ
件

第二十一條 右資本金ノ月賦入金毎ニ其銀行ノ頭取支配人ハ成規第十三條ニ準據シ資本金集合高届書ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

株式没入ノ件

第二十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主等株金ノ月賦入金ヲ怠ル時ハ頭取取締

株式消除ノ件

役等ニ於テ其株ヲ没入シ競賣其他ノ手續ヲ以テ三十日以内ニ之ヲ賣拂ヒ而シテ其入用ヲ差引キ尙ホ過金アレハ之ヲ元株主ヘ返還スヘシ尤此競賣ニ於テ右株式ヲ買取りタル株主モ亦他ノ株主同様ノ權利ヲ有スヘシ

第二十三條 右競賣ニ於テ其株ヲ買フ者アラサル時ハ是迄入金シタル金高ハ銀行ニ没入シテ其株ヲ消スヘシ尤此消株ニヨリ資本金額此條例第十七條ニ規定スル所ノ制限ヨリ減少スルキハ頭取取締役等ハ三十日間ニ之ヲ補ヒ定限ノ高ニ滿タシムヘシ若シ頭取取締役等之ヲ怠ルキハ紙幣頭ハ其銀行ニ鎖店ヲ申渡シ更ニ跡引受人ヲ命スヘシ

株主牒ノ製造
法及記入ノ方

第二十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ株主牒ヲ製シ左ノ要件ヲ記載スヘシ

第一 各株主ノ姓名。住所。屬族。職業。若シ之アラハ

第二 各株主ノ所持セル株式ノ番號。箇數

第三 入社ノ年月日

第四 退社ノ年月日

コ

二百九十七

株主簿へ記名ノ件

第二十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ創立証書ニ記名スル者ハ即チ其銀行ノ株主タルカ故ニ前條ニ規定セル株主牒ニ各其姓名ヲ登記スヘシ且其他何人ニテモ(外國人ヲ除クノ外)爾後其銀行ノ株主タラント同意シ隨テ其姓名ヲ株主牒ニ登記シタルモノハ又同シク其銀行ノ株主タルノ權利アルヘシ

株主簿檢閱ノ件

第二十六條 右株主牒ハ銀行其開業免狀ヲ領受スルノ即日ヨリ之ヲ其本店ニ備置クヘシ而シテ此株主牒ハ營業時間ナレハ何時ニテモ株主等之ヲ檢閱スルヲ得ヘシ若シ銀行其檢閱ヲ拒ミタルキハ株主ハ其趣ヲ書面ニ認メ之ヲ其管轄地方官廳ヘ差出シ紙幣頭ヘノ照會ヲ乞フヘシ其照會ヲ得ルニ於テハ紙幣頭ハ直チニ官吏ヲ派遣シ其本店ヲ檢査セシムルヲアルヘシ

株主簿ノ記入ヲ修正スルノ件

但シ銀行ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其旨ヲ報知スルニ於テハ壹箇年中日數三十日ニ過キサルハ何時ニテモ右檢閱ヲ停止スルヲ得ヘシ

第二十七條 右株主牒ニ何人カ故ナク姓名ヲ記入セラレ又ハ妄リニ除名セラレ又或ハ退社セシ所以ノ記載ヲ故ナク遷延セラレタル等ノ事アリテ其人ノ力爲メ妨

株式賣買譲與ノ件

碍ヲ受クルニ於テハ其事由ヲ書面ニ認メ之ヲ其管轄地方官廳ヘ差出シ紙幣頭ヘノ照會ヲ乞フヘシ其照會ヲ得ルニ於テハ紙幣頭ハ直チニ銀行ニ命シテ之ヲ修正セシムヘシ

第二十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株式ハ成規第二十七條三十條ニ規定スル所ノ手續ヲ以テ之ヲ賣買譲與スルヲ得ヘシ

株式賣却譲與ニ於ケル名代人ノ權利

但シ銀行ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其旨ヲ報知スルニ於テハ一箇年中日數三十日ニ過キサルハ何時ニテモ其株式ノ賣買譲與ヲ停止スルヲ得ヘシ

第二十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主死去スルノ際名代人ヲ以テ株式ヲ賣却譲與スル等ノ事アルキハ假令ヒ此名代人ハ其銀行ノ株主ニ非スト雖モ記名調印等ノ事ニ至リテハ猶ホ株主同様ノ權利ヲ有スヘシ

資本金増加ノ件

第四十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ其資本金額ヲ増加スルヲ得ヘシ而シテ右増加スヘキ資本金額ノ制限ハ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ紙幣頭之ヲ定ムヘシ故ニ其資本金額ヲ増加スルニハ紙幣

資本金増加ニ
付公債証券納
方ノ件

頭ニ申請シ其承認ヲ得テ之ニ従事スヘシ尤全ク入金済ノ上ハ成規第十四條ニ準
據シテ其増加證書ヲ差出スヘシ

第四十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行前條ニ掲クル如ク資本金ヲ増加セシニヨリ公
債證書ヲ納メ銀行紙幣ヲ請取ルノ手續ハ現ニ其株主タル者ヨリ増加ノ總額ヲ全
ク入金シタル後ニ非レハ之ヲ施行ズルヲ許サス

資本金減少ノ
件

第四十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ其資本金額ヲ減少セントスル時ハ社中ノ
格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ之ニ従事スルヲ得ヘシ尤其減少ノ
高ハ此條例第十七條ニ於テ規定スル所ノ員額ヨリ下ルヲ許サス但シ紙幣頭ノ承
認ヲ得テ此決議ヲ施行セントスルニ於テハ其施行ノ日限ヨリ少ナクモ三箇月以
前ニ於テ資本金ノ減少員額ト其残り資本金額トヲ記載シタル報告ヲ製シ適宜ノ
手續ヲ以テ之ヲ其預リ金アル得意先ヘ送達スヘシ且右減少セントスルノ趣ハ其
銀行所在ノ地ニ行ハル、三種以上ノ新聞紙ヲ以テ三箇月以上毎日之ヲ公告スヘ
シ

資本金減少ニ
際シ貸金及ヒ
預ケ金アル者
ノ権利

第四十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ前條ノ如ク其資本金額ヲ減少セントスル
ニ際シ其銀行ヘ貸金、預ケ金等アル者ハ未タ其仕拂期日至ラスト雖モ右減少ヲ
施行スヘキ日限前一箇月ノ間ナレハ何時ニテモ左ノ定則ニ準據シ之カ償却ヲ乞
フノ權利アルヘシ

第一 凡ソ定期預ケ金アル者ハ其元金並ニ當日迄ノ利息ヲ受取ルノ權利アリ
トス

第二 其他期限未滿タリモ凡ソ銀行ヨリ受取ルヘキ勘定アル者ハ時ノ相場ヲ
以テ其仕拂期日迄ノ利息ヲ引去リ殘金高ノミヲ受取ルノ權利アリトス

資本金減少許
可ノ件

第四十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ此條例第四十二條四十三條ニ掲クル所ノ諸
般ノ手續ヲ了ルニ於テハ成規第十五條ニ準據シ其減少證書ヲ紙幣頭ヘ差出スヘ
シ若シ右第四十二條四十三條ノ規定ニ背戻シ資本金減少ノ報告又ハ公告ヲ怠リ
及ヒ期限未滿ノ勘定仕拂ヲ拒ムコトアルモハ紙幣頭ハ右資本金減少證書ニ許可ヲ
與ヘサルヘシ

○第四章 銀行紙幣ノ製造及ヒ種類。其通用ノ能力。引換場所及ヒ燒捨等ノ事
ヲ明カニス

銀行紙幣製造ノ要件

第四十五條 此條例ヲ遵奉シテ發行スル所ノ銀行紙幣ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ紙幣頭其製造ノ事務ヲ董括シ極メテ其紙質ノ堅牢ト彩紋ノ精緻ヲ要シ深ク質摸ノ弊ヲ豫防スルノ術ヲ盡シテ以テ之ニ從事スヘシ

但シ右銀行紙幣製造ノ入費ハ其銀行ヨリ現費ヲ以テ紙幣寮ヘ納ムヘシ

銀行紙幣ノ種類

第四十六條 右銀行紙幣ノ種類ハ壹圓。貳圓。五圓。拾圓。貳拾圓。五拾圓。百圓。五百圓ノ八種ト定メ銀行ノ望ニ應シテ製造下付スヘシ

但シ五圓以下ノ銀行紙幣ハ其銀行發行總額十分ノ五ヨリ多カラサルヘシ

銀行紙幣下付ノ要件

第四十七條 右銀行紙幣ノ表裏面ニハ政府ノ公債證書ヲ抵當トシテ發行スルノ旨趣及ヒ其他ノ要件ヲ摘載シ大藏卿並ニ出納頭記録頭ノ印ヲ鈐シ且大藏省並ニ銀行ノ記號。番號ヲ押捺シテ紙幣頭之ヲ其銀行ヘ下付スヘシ而シテ銀行ニ於テハ之ニ其頭取支配人ノ各印ヲ加用スヘシ

銀行紙幣通用ノ能力

第四十八條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル國立銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣ハ諸官廳又ハ銀行。會社其他ヲ論セス日本全國何レノ地ニ於テモ租稅。運上。貸借ノ取引。俸給其他一切公私ノ取引ニ於テ都テ政府發行ノ貨幣同様通用スヘシ

但シ公債證書ノ利息ト海關稅ニハ之ヲ用ウルヲ許サス

銀行紙幣引換ノ要件

第四十九條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣ハ其銀行ノ本店ニ於テ之ヲ引換フヘシ

但シ支店ヲ設置スル銀行ハ其銀行ノ都合ニ依リ本店ノ外支店ニ於テモ亦其引換ニ從事スルヲ得ヘシ

銀行紙幣ヲ拒ミタル者ニ於ケル處分ノ要件

第五十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣通用ノ際其授受ヲ拒ミ或ハ之ヲ妨ケ其他不正ノ所爲ヲナス者アルニ於テハ皆國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

損壞銀行紙幣ノ引換并ニ燒捨ノ要件

第五十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣通用中敗裂汚染等ニテ通用シ難キモノアルニ於テハ其所持人ハ銀行ニ持參シテ之ヲ引換フヘシ而

コ

十六年十四號布告ヲ以テ本條ヲ改正ス

シテ銀行ハ之ヲ紙幣頭へ差出シ其代リ銀行紙幣ヲ受取ルヘシ○尤右引換銀行紙幣ノ種類。記號。番號。金額等ハ之ヲ紙幣寮ノ公書及ヒ銀行ノ簿冊ニ詳明ニ記入シ其廢紙幣ハ大藏卿ヨリノ立會ヲ得テ紙幣頭ハ其主任ノ官員ヲシテ銀行役員ノ立會ヲ要シ之ヲ燒捨ニ付スヘシ而シテ其趣ハ尙ホ右簿冊ニ登記シ各記名調印スヘシ但シ右燒捨ノ後ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其趣ヲ世上ニ公告スヘシ

○第五章 銀行營業ノ本務。公債證書其他ノ賣買並ニ貸附金ノ制限。利息ノ制限。

銀行紙幣並ニ株式抵當ノ制禁及ヒ預リ金準備等ノ事ヲ明カニス

第五十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ金銀ヲ(引受貸シ抵當貸シノ別ナク)貸附ケ

又ハ當座並ニ定期預リ金ヲ爲シ又ハ爲換ヲ取組ミ又ハ爲換手形。約束手形。代金取立手形其他ノ證書ヲ割引シ又ハ公債證書。外國貨幣並ニ金。銀。銅ノ地金ヲ賣買シ及ヒ保護預リ又ハ兩替等ノ事ヲ以テ營業ノ本務トナスヘシ

第五十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ本務タルヤ前條ニ掲クル所ノ種類ナルヲ以テ公債證書ノ賣買ヲナスヲ得ルト雖モ貸附金。預リ金。爲換等ノ如キハ殊ニ銀行ノ

銀行營業ノ本務

公債証券ノ賣買ヲ得サルノ事

主トシテ爲スヘキ營業ノ目的タルニヨリ此等ノ事業ヲ經營セスシテ唯公債證書ノ賣買ヲ專ラニスルヲ許サス

第五十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ前第五十二條ニ掲クル所ノ營業本務ノ外地所家屋其他物件ノ賣買ヲナスヘカラス又職工作业ノ功ヲ興シ及ヒ此等ノ功ヲ興

他ノ會社ノ株式ノ賣買ノ事ヲ得サルノ事

ス會社ノ株主トナルヲ許サス尤左ニ掲載スル所ノ條件ニ付テハ地所又ハ家屋物件等ヲ賣買シ又ハ之ヲ引取り又ハ之ヲ所持スル等ノ事ハ此條例ニ於テ之ヲ宥恕スヘシ但シ銀行所有ノ地所ハ勿論一般ノ地稅法ニ從フヘシ

第一 銀行ノ業ヲ營ムヘキ爲メ緊要ナル地所家屋ハ之ヲ買取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第二 滯貸金ノ抵當トシテ質物ニ取りタル地所物件ハ之ヲ引取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第三 貸金返濟ノ約定日切トナリテ借主ヨリ返金ノ代リトシテ引渡サレタル地所物件ハ之ヲ引取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第四 銀行ヨリ貸金ノ抵當又ハ質物トナリシモノニシテ官廳ノ裁判ヲ經テ賣

拂ヒトナリタルモノカ又ハ之ヲ引取りタルモノ又ハ右質入ノ流込ミト
ナリタルモノ又ハ銀行ヨリノ貸金ヲ返濟スル爲メニ賣物ニ出シタル地
所物件ハ之ヲ買取り之ヲ引取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

地所其他ノ物
件賣拂ノ制限

第五十五條 前條ニ掲クル所ノ款項中銀行營業ノ爲メ緊要ナル地所家屋ヲ除クノ
外銀行ニ於テ引取り又ハ買取りタル地所物件ハ運クモ十箇月以内ニ於テ之ヲ賣
拂フヘシ

貸付金ノ制限

第五十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ貸付クル所ノ金額ノ制限ハ一口ニ付資本
金總額ノ十分一ヲ限リトナスヘシ

貸付金利息ノ
制限

十一月三十一號布
告ヲ以テ本條ヲ改
正ス

銀行紙幣及ビ
株式ノ抵當并
ニ賣買ノ制限

第五十七條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ貸付金ノ利息ハ年壹割(元金十分ノ二)ヨリ
超過スヘカラス若シ此制限ヲ超過シ不相當ノ利息ヲ要スルコトアルニ於テハ紙幣
頭ハ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ其銀行ヲ督責シ以テ之ヲ其制限ノ割合ニ歸セシムヘシ
第五十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其銀行紙幣ヲ抵當又ハ質物トシテ借金ヲナ

預り金ノ準備

スヘカラス又其銀行ノ株式ヲ抵當ニ取リテ貸付金ヲナスヘカラス又其株ノ買主
トナリ又ハ其株主トナルヘカラス然レモ貸付金ノ滞リニテ銀行ノ損失トナルコ
トアレハ止ムヲ得ス其株ヲ引當ニ取り又ハ買取ルコトヲ得ヘシ尤其株ハ運クモ六箇
月以内ニ於テ之ヲ賣拂フヘシ

第五十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ諸方ヨリノ預り金ヲ他ヘ運轉流用スルニハ
須ラク之カ制限ヲ立テ其預り金總額ノ内少クモ十分ノ二五(即チ四分ノ二)ヲ引
殘シ之ヲ返却ノ準備トシテ銀行ノ金庫中ニ積立置クヘシ尤内十分一ノ員額ハ政
府ノ公債證書ヲ實價ヲ以テ積立ルヲ得ヘシ

但シ此準備金ハ銀行紙幣引換ノ準備金ト混同スヘカラス

發行紙幣準備
金ノ制限ヲ超
過スルニ於ケ
ルノ件

第六十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其營業ノ爲メ銀行紙幣ヲ發行スルニハ此條例
第二十條ニ規定シタル準備金ノ割合ヲ超過スヘカラス若シ此割合ヲ超過シテ發
行スルモハ紙幣頭ハ之ヲ督責シテ速カニ其準備金ヲ増加シ規定ノ割合ニ滿タシ
ムヘキ旨ヲ命スヘシ若シ銀行ニ於テ此命ヲ受ケシ日ヨリ三十日ヲ過キテ尙ホ増

準備金不足ス
等一時償辦ス
ルノ負責
十六年十四號布告
スヲ以テ本條ヲ改正

加スルヲ怠ル時ハ紙幣頭ハ其銀行ノ開業免狀ヲ取上ケ跡引受人ヲ命スヘシ
第六十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ニ於テ銀行紙幣ノ引換或ハ預リ金ノ返濟又ハ
爲換手形。約束手形等ノ仕拂ヲナスニ當リ兼テ積置キタル準備金ヲ以テ之ヲ償フ
不能ハサルキハ其銀行ノ株主等ハ各其所持ノ株數ニ應シ別ニ出金シテ一時之ヲ
償辦スルノ責ニ任スヘシ

但シ此出金ハ全ク一時償辦ノタメニシテ其株金ト異ナルヲ以テ其銀行ハ速カ
ニ之ヲ各株主ヘ返辦スヘシ

○第六章 銀行名號ノ掲牌。社印ノ書體並ニ諸手形ニ於ケル銀行ノ負責。所有
物ノ明細帳及ヒ營業時間等ノ事ヲ明カニス

銀行名號ノ掲
牌及ヒ社印ノ
書體

第六十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ讀易キ書體ヲ以テ其名號ヲ掲牌ニ記載シ之
ヲ其銀行ノ店前最モ見易キ所ニ掲クヘシ而シテ其社印ノ彫刻ヨリ諸報告並ニ諸
公告。諸證書。諸手形。諸切手ノ類ニ至ル迄凡ソ其名號ヲ用于ル所ノ者ハ亦同シク
讀易キ書體ヲ用于ヘシ

銀行名號ノ掲
牌及ヒ社印ノ
書體
法ノ規定ニ反
リタルノ處分

第六十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ前條ノ如ク其社號ヲ掲ケサルトキハ銀行
ハ其時間一日ニ付五圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ且其頭取取締役及ヒ支配
人タルモノ知テ之ヲ爲サシメ或ハ故サラニ之ヲ見逃スニ於テハ是亦右同額ノ罰
金ヲ納ムヘシ若シ又銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員又ハ何人ニテモ前條ノ
如ク彫刻セサル社印ヲ用非或ハ人ヲシテ之ヲ用非シメ又ハ前條ノ規定ニ悖リタ
ル社號ヲ以テ報告書ヲ出シ或ハ之ヲ出サシメ又ハ爲換手形。約束手形。切手。證書。
注文書。受取證書。受合狀等ニ至ル迄凡ソ其名號ヲ用于ル者前條ノ規定ニ悖リテ
記名調印シ又ハ記名調印セシムルキハ拾圓ヨリ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサ
ル罰金ヲ納メシメ且右等爲換手形。約束手形。切手。注文書等ニ記載スル所ノ金額
ヲ銀行ヨリ拂渡サル、キハ其規定ニ悖リタル役員等ハ自費ヲ以テ右持主ヘ償
スルノ責ニ任スヘシ

銀行ノ名號ヲ
用非タル諸手
形ハ銀行其資
ニ任スルノ件

第六十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行其名號ヲ以テ爲換手形。約束手形ヲ振出シ又
ハ之ヲ引受ケ又或ハ之ニ裏書シタルモノ、如キハ假令ヒ右等ノ取扱ヒ何人ノ手

所有物ノ明細
帳及ヒ其取扱
ハ規定ニ戻リ
タルノ處分

ニ出ルト雖此人苟モ其銀行ノ命任ヲ受ケタルモノニ相違ナキニ於テハ一切之
ヲ其銀行ノ爲メニ取扱ヒシモノト見做スヘシ
第六十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其所有財産(動産。不動産ノ別ナク)ノ種類員
數ハ勿論其授受賣買及ヒ質入書入委托其他ニ於ケル一切ノ事件ヲ記載セル簿冊
ヲ製シ右等ノ摺アル毎トニ其事由並ニ其種類員數及ヒ質預リ人又ハ受托人等ヲ
遺漏ナク記載シ其時々頭取取締役等之ニ檢印シ常ニ其銀行ニ備置キ以テ債主及
ヒ株主等ノ檢閱ニ供スヘシ○若シ前段ノ記載ナクシテ銀行其所有財産ヲ質入書
入シ又ハ之ヲ委托スル等ノ事アルニ當テ其銀行ノ頭取取締役支配人等知テ之ヲ
捨置キ又ハ故サラニ之ヲ見逃スニ於テハ右役員ハ五拾圓ヲ踰エサル罰金ヲ納ム
ヘシ

但シ右所有財産ノ簿冊ハ即チ其事件ノ正確ナル證據トシテ何レノ裁判所何レ
ノ官廳ニ於テモ採用セララルヘシ

第六十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ營業時間ハ其本店支店共定式(又ハ臨時)休

營業ノ時間

暇日ヲ除クノ外毎日午前第九時ヨリ午後第三時マテタルヘシ尤銀行ノ都合ニヨ
リ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ其營業時間ヲ變更スルヲ得ヘシ而シテ其趣ハ新
聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告スヘシ

但シ爲換並ニ預リ金等ノ仕拂期日若シ定式(又ハ臨時)休暇日ニ當ルモノハ其
翌日之ヲ仕拂フヘシ

○第七章 株主總會ノ定規並ニ格段決議ノ順序。諸簿冊ノ點檢及ヒ檢査ノ手
續。諸報告差出方等ノ事ヲ明カニス

總會ノ定規

第六十七條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ總會ハ每年少クトモ兩度宛之ヲ執行スヘシ
尤モ臨時ノ事件ヲ評決センカタメ執行スル所ノ臨時總會ハ此限ニアラス

格段決議ヲ以
テ定款ヲ更正
スルノ件

第六十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ社中ノ總會ニ於テ次條ニ掲載セル方法ヲ以
テ執行セシ格段決議ニ於テハ其銀行定款中ニ記載シタル事件箇條ヲ變更訂正ス
ルヲ得ヘシ

格段決議ノ體

第六十九條 凡ソ社中評決スヘキ事件アリテ其議案ヲ出シ其銀行株主臨席ノ總員

コ

(本人代人ヲ論セス)四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ一旦其大体ヲ決定シ隨テ其旨趣ヲ詳述シテ之カ報告ヲナシ後チ十四日以外一箇月以内ノ時日ニ於テ更ニ執行スル所ノ總會ニ於テ其臨席シタル株主總員ノ同意セル發言投票ノ多數ヲ以テ其事件ヲ確定スル者之ヲ格段決議ト稱スヘシ

格段決議ニ於ケル承認ノ件

第七十條 凡ソ格段決議ニ於テ確定シタル事件ハ其旨趣願未チ記載シタル書附ヲ刊行シ又ハ謄寫シテ右確定ノ日ヨリ日數十五日(郵便遞送日數ヲ除ク)ノ内ニ之ヲ紙幣頭ヘ差出シテ其承認ヲ受クヘシ○若シ銀行前段ノ書附ヲ右期日内ニ差出スコトヲ怠ルニ於テハ右ノ日數以後(即チ十六日ヨリ)ハ怠慢時間一日ニ付十圓ヲ踰エサル罰金ヲ納ムヘシ且頭取取締役等故サラニ之ヲナサシメ又ハ知テ之ヲ見逃セシキハ是亦右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ

格段決議ニ於テ確定シタル書附ノ寫ヲ分賦スルノ件

第七十一條 凡ソ格段決議ニ於テ確定シタル事件ニシテ(此條例第四條六條ニ準據シ)現ニ之ヲ施行スルモノハ右ノ事件ヲ正シク記載シタル寫ヲ各株主ヘ分賦スヘシ○若シ銀行此箇條ヲ遵守セスシテ詐偽ヲ記載スルカ又ハ寫ヲ分賦セサル

諸簿册ノ點檢

ニ於テハ右寫一通ニ付五圓ヲ踰エサル罰金ヲ納ムヘシ且頭取取締役等故サラニ之ヲ爲サシメ又ハ知テ之ヲ見逃セシキハ是亦右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ

第七十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主タル者ハ其銀行ノ營業時間中ナレハ何時ニテモ其銀行實際記入スル所ノ諸簿册及ヒ報告計表ヲ點檢スルヲ得ヘシ○若シ銀行此箇條ヲ遵守セスシテ株主ノ點檢ヲ拒ムキハ五圓ニ踰エサル罰金ヲ納ムヘシ且頭取取締役支配人等故サラニ之ヲナスカ又ハ知テ之ヲ見逃セシ時ハ右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ

銀行ノ検査

第七十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ營業實際ヲ詳細監督スルタメ紙幣頭ハ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ定例臨時ノ別タク官員ヲ命遣シ銀行一切ノ業体ヲ検査セシムヘシ

但シ紙幣頭ハ時宜ニヨリ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ其銀行管轄地方官ニ依托シ其銀行實際ノ營業ヲ(定例臨時ノ別タク)検査セシムルコトアルヘシ尤右検査ニ從事シタル地方官ハ其検査シタル旨趣ヲ詳記シ速カニ之ヲ紙幣頭ヘ報知スヘシ

検査官ノ規定

第七十四條 右検査ノ官員ハ各銀行ノ本店又ハ支店トモ其營業時間中ナレハ何時ニテモ其用所ニ至リ詳密ニ其諸簿冊計表其他銀行一般ノ業体ヲ検査シ其銀行役員ノ處務此條例成規ニ規定スル所ノ箇條ヲ遵守スルヤ否ヤヲ視察シ而シテ其検査ノ實況ト考按ノ旨趣ヲ書面ニ詳記シ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

株主ノ請願ニヨリ銀行ヲ検査スルノ件

第七十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ總株五分一以上ヲ所持スル株主等ヨリノ請願アルニ於テハ紙幣頭ハ官員ヲ命遣シ或ハ其管轄地方官ヘ委托シテ其銀行一切ノ業体ヲ検査セシムルコトアルヘシ但シ其検査ノ實況ト考按ノ旨趣ハ之ヲ書面ニ認メ紙幣頭ヘ差出スヘシ而シテ紙幣頭ハ其寫ヲ其銀行ノ本店並ニ此検査ヲ請願セシ株主等ヘ下附スヘシ

銀行検査ノ制限

第七十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行此條例第七十三條七十五條ニ規定スル所ノ検査官員ノ検査ヲ除クノ外他ノ検査ハ一切之ヲ受ケサルヘシ尤諸官廳ノ職掌上ニ於テ國法ヲ以テ検査スルカ如キハ此限ニアラス

定例報告書并計表ノ件

第七十七條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ半季及ヒ毎月其事務計算等ノ實際詳明ナル考課狀並ニ報告計表成規第六十六條ニ規定スル所ノ種類ヲ製シ本店ハ頭取支配人支店ハ支配人並ニ計算方之ニ記名調印シテ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ尤其書式ハ紙幣頭ノ指圖ニ從フヘシ

但シ右半季報告計表ハ銀行ヨリ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告スヘシ

臨時ノ報告并ニ報告差出方ヲ怠慢スルニ於ケルノ處分

第七十八條 右定例報告計表ノ外紙幣頭尙ホ要用ト思考スルコトアルハ銀行ニ命シテ臨時ノ報告計表ヲ差出サシムルコトアルヘシ○若シ銀行ノ頭取取締役支配人等右定例或ハ臨時ノ報告ヲ怠リ紙幣頭ノ命スル日ヨリ(郵便遞送日數ヲ除ク)十日以内ニ差出サハルキハ十日以外(即チ十一日目ヨリ)ハ一日ニ付五十圓ヨリ少ナカラス百圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ

十六年布告十四號ヲ以テ本布告ヲ改正ス

利益金分配ノ方法并滯貸金ノ件

○第八章 利益金分配ノ方法及ヒ積金割合ノ規定ヲ明カニス

十六年十四號布告ヲ以テ本條ヲ改正ス

第七十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等ハ半季毎トニ其銀行ノ總勘定ヲナシ其總益金ノ内ヨリ諸雜費並ニ損失補償ノ金額及ヒ滯貸金ノ金額(若シ之

コ

アラハ)ヲ引去リ其餘ヲ以テ純益金トナシ又此内ヨリ次條ニ規定セル積金ヲ引去リ其餘ノ金額ヲ以テ總株主ヘ分配スヘシ○尤右利益ノ計算ハ株主ニ分配セラル前十日以内ニ(郵便遞送日數ヲ除ク)紙幣頭ヘ差出シ其承認ヲ得テ後チ之ヲ株主一同ヘ通知シ且新聞紙ヲ以テ世上ニ公告シ而シテ之ヲ株主一同ヘ分配スヘシ但シ慥カナル抵當物或ハ確實ナル引受人アル貸附金ヲ除クノ外其返濟期限ヲ過クルコト六箇月以上ニ及フモノハ都テ之ヲ滯貸金ト看做スヘシ

積金割合ノ規定

十六年十四號布告ヲ以テ本條ヲ削除ス

第八十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其資本金額十分ノ二ニ至ルマテ每半季其純益金ノ内ヨリ少ナクモ十分ノ一宛ヲ引分ケ之ヲ積金トナシ以テ非常ノ豫備ニ供スヘシ○右積金一旦十分ノ二ノ員額ニ至ルノ後チ若シ損耗其他ノ事故アリテ右割合ノ金額ヨリ減少スルモハ尙ホ其後每半季純益金ノ内ヨリ少ナクモ十分ノ一宛ヲ積立到底右十分ノ二ノ員額ニ復スヘシ

○第九章 銀行ハ官廳ノ爲換方ニ從事スルコト及ヒ外國銀行ト聯合スヘカラスル事ヲ明ラカニス

銀行ハ大藏省其他ノ爲換方ヲ勤ムルノ件

第八十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其通常營業事務ノ外大藏卿ノ命令ニ依リ大藏省又ハ各地方官廳其他ノ爲換方ヲ勤ムルコトヲ得ヘシ尤其勤方ノ手續ハ爾時大藏卿ノ考按ニヨリ其筋ヨリ命スル所ノ規定ヲ奉シテ以テ之ニ從事スヘシ

銀行ハ外國銀行ト聯合スルヲ得サルノ件

第八十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ大藏卿ノ命令ヲ奉スルカ或ハ其免許ヲ得ルカニ非レハ内外地ニ設置スル所ノ外國ノ銀行ハ勿論本邦ノ銀行(又ハ交換所等)ト雖モ凡ソ海外ニアルモノト相共ニ聯合シ以テ爲換ヲ取組ミ又ハ其他ノ營業ニ從事スルコトヲ得サルヘシ

○第十章 銀行役員職務上一般ノ制禁及ヒ其負責ノ事ヲ明カニス

銀行役員此條例ニ背戾スルノ件

第八十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役タル者ハ自ラ此條例ノ箇條ニ悖ルヘカラス或ハ銀行ノ役員其他ノ者ヲシテ之ニ悖ラシムヘカラス若シ背戾ノコトアルニ於テハ此條例ニ於テ其銀行ヘ附與シタル特殊ノ權利ハ悉ク之ヲ取上クヘシ

但シ右頭取取締役此條例ニ背戾スルモハ紙幣頭ハ其裁判所(又ハ其府縣ノ聽

十六年十四號布告ヲ以テ本條ヲ改正ス

斷主任官員へ通達シテ之ヲ推糺シ其罪ノ實アルニ於テハ即チ其銀行ヲ鎖店セシムヘシ

此條例ニ背戻スル銀行役員ノ負債

第八十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等若シ此條例ニ背戻スルコトアリテ夫レカ爲メ株主又ハ其他ノ人へ損失ヲ受ケシムルモハ其損失ハ頭取取締役等之ヲ償辦スルノ責ニ任スヘシ

銀行役員ノ制

第八十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員タル者ハ銀行所有ノ金銀及ヒ諸證書預リ品等ヲ私用シ又ハ竊掠シ又ハ之ヲ妄用スヘカラス又頭取取締役ノ承認ヲ得シテ銀行紙幣及ヒ預リ証書ヲ發行シ又ハ諸貸附ヲナシ爲換手形ヲ振出シ又ハ證書及ヒ切手ノ引受ケヲナシ約束手形爲換手形諸證書質物及ヒ公裁ニテ引取りタルモノヲ賣渡スヘカラス又銀行ノ諸簿冊計表報告書其他ノ要書ニ詐偽ヲ記載スヘカラス○若シ右ノ箇條ヲ犯シテ其銀行又ハ他ノ銀行會社其他ノ者ヲ損害欺騙シ又ハ其銀行ノ役員或ハ検査官員ヲ欺カント謀ル者ハ皆ナ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

銀行役員其銀行ヨリ借リ得ヘキ金額ノ制

第八十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員ハ社中申合規則ノ規定ニ從ヒ尋常借リ得ヘキ金額ノ外ハ自身又ハ仲人等ヲ以テ一切銀行ヨリ借受クヘカラス又其銀行ヨリ借財ヲナス者ノ爲メ其證人又ハ受人トナルヘカラス○若シ右等ノ役員右ノ規定ニ背戻シテ借財ヲナシ又ハ證人受人トナリ又ハ人ナシテ之ヲ爲サシメ又ハ之ヲ承諾スル等ノ事アルモハ此等ノ役員ハ拾圓ヨリ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ且其借財ノ金額ハ其規定ニ背戻セシ者ヨリ速カニ銀行へ返済スヘシ

銀行ノ名ヲ假リ自用ヲ辨スヘカラスルノ件

第八十七條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員タル者ハ其銀行ノ名ヲ假リ以テ自己ノ利益ヲ謀ルハ勿論總テ私用ヲ辨スヘカラス若シ此等ノ役員之ヲ犯シ又ハ人ナシテ犯サシメ又ハ知テ之ヲ見逃ス者ハ皆ナ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

○第十一章 紙幣及ヒ諸手形類ノ發行並ニ銀行紙幣ノ贋造描改及ヒ其版板彫刻等禁止ノ事ヲ明カニス

紙幣及手形
發行ノ禁止

第八十八條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル國立銀行ヲ除クノ外何人又ハ何會社ヲ論セス凡テ紙幣又ハ望次第持參人ヘ仕拂フヘキ約束手形又ハ右類似ノ證書其他政府發行ノ貨幣同様ニ通用スヘキ諸手形又ハ切手ヲ振出シ其引受ヲナシ之ヲ製シ之ヲ發行スルヲ禁ス若シ此等ノ數件ヲ犯ス者アルニ於テハ何人ヲ論セス皆ナ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

銀行紙幣製造
及描改ノ禁止

第八十九條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行スル銀行紙幣ハ何人ヲ論セス之ヲ贋造スヘカラス贋造セシムヘカラス贋造スルヲ助ケ又ハ之ヲ勸ムヘカラス贋造ト知りテ之ヲ通用スヘカラス又ハ之ヲ通用セシムヘカラス又其文字畫圖ヲ描改スヘカラス描改セシムヘカラス描改スルヲ助ケ又ハ之ヲ勸ムヘカラス描改セシ紙幣ト知りテ之ヲ通用スヘカラス又ハ之ヲ通用セシムヘカラス

銀行紙幣版
ノ彫刻及紙
品製造等ノ禁止

第九十條 右銀行紙幣ヲ印刷スルニ用ウル所ノ版板又ハ之ニ類似スル者ハ之ヲ私ニ彫刻スヘカラス又ハ私ニ彫刻ヲ命スヘカラス又右銀行紙幣ニ用ウル所ノ紙品又ハ之ニ類似スル紙品ハ之ヲ私ニ製スヘカラス又ハ人ヲシテ之ヲ製セシムヘカ

銀行紙幣及手形
ノ損毀ノ禁止

ラス又ハ之ヲ私ニ所持スヘカラス若シ前第八十九條及ヒ本條ノ數件ヲ犯ス者アルニ於テハ皆ナ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第九十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行シタル銀行紙幣又ハ爲換手形。約束手形其他證書ノ類ハ何人ニ限ラス之ヲ切抜キ又ハ切裂キ又ハ剝去リ又ハ塗抹シ又ハ孔ヲ穿チ又ハ糊付ニスル等ノ一ヲナスヘカラス又人ヲシテ此等ノ事ヲナサシムヘカラス若シ此等ノ數件ヲ犯ス者アルニ於テハ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)ニ於テ之ヲ裁判シ其金高十倍ノ價金ヲ銀行ヘ拂ハシムヘシ

十六年十四號布告
スヲ以テ本條ヲ改正

○第十二章 銀行ニ於テ其紙幣引換ヲ拒ミシ時ノ處分。特例監督役引受人等ノ取扱方並ニ公債證書ノ沒入及ヒ紙幣引換等ノ手續ヲ明カニス

銀行紙幣ノ引換
ヲ拒ミタル
申訴ノ件

第九十二條 此條例第六十六條ニ規定スル銀行ノ營業時間中其發行紙幣ヲ其本店又ハ支店(銀行紙幣引換ノ事務ヲ取扱フ)ニ持參シテ通貨ト引換ヲ望ムモノアルニ於テハ其本店又ハ支店ニ於テ之ヲ拒ミ又ハ之ヲ怠リテ其引換ヲナサ、ルニ於テハ右紙幣ノ持主ハ其趣ヲ書面ニ認メ之ヲ其管轄地方官廳ヘ差出シ其銀行ヘ掛合方ヲ

十六年十四號布告
スヲ以テ本條ヲ削除

コ

乞フヘシ○尤頭取取締役其掛合方ヲ止ントスルキハ其引換ヲ拒ミシ旨趣及ヒ其金額月日等ヲ書面ニ認メ頭取又ハ取締役之レニ記名調印シテ之ヲ紙幣持主ヘ渡スヘシ然ルキハ其持主ハ右書面ヲ地方官廳ヘ差出スノミニシテ別ニ銀行ヘノ掛合方ハ乞ハサルヘシ

但シ預リ金ノ返却ヲ拒ミ又ハ怠リタル時モ亦其預ケ主タル者ハ本條ニ準シテ申請スルコトヲ得ヘシ

第九十三條 右地方官廳ニ於テ紙幣持主ヨリ銀行ヘ掛合方ノ書面ヲ領受スルキハ直チニ其銀行ヘ掛合フヘシ而シテ其掛合狀及ヒ持主ヨリ差出シタル書面ノ寫ヲ紙幣頭ヘ送達シテ其由ヲ報知スヘシ尤紙幣持主ヨリ頭取又ハ取締役ノ調印シタル書面ノミヲ受取りタルキハ唯其書面ヲ紙幣頭ニ送致スルノミニシテ銀行ヘ掛合ニ及ハサルヘシ

但シ紙幣頭ヘ報知セシ書面ノ寫ハ其地方官廳ニ藏メ置クヘシ

第九十四條 右地方官ノ報知ヲ得ルニ於テハ紙幣頭ハ速カニ檢査ノ官員ヲ命遣シ

銀行紙幣ノ引換ヲ拒ミタル紙幣頭ハ報知ノ件

十六年十四號布告スヲ以テ本條ヲ改正ス

銀行紙幣ノ引換ヲ拒ミタル紙幣頭ハ報知ノ件

十六年十四號布告スヲ以テ本條ヲ改正ス

營業停止ノ後營業ノ禁止

其事實ヲ推糺シ其背戻ノ事實相違アラサルキハ都テ其銀行ノ營業ヲ差止メ金銀其他ノ出納ヲ禁スヘシ

第九十五條 前條ノ如ク營業ヲ差止メラレタル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員ハ諸手形諸證書類又ハ抵當物地所等ヲ他人ヘ譲リ渡シ又ハ賣渡スヘカラス又他人ヨリ金銀其他ノ物件ヲ預ルヘカラス若シ頭取取締役支配人其他ノ役員等此箇條ニ背キ或ハ譲リ渡シ又ハ賣渡シ又ハ預リ又ハ拂方ノ引受ヲナスコトアルニ於テハ紙幣頭ハ督促シテ其金額ヲ償ハシメ之ヲ其元ニ復セシムヘシ

第九十六條 紙幣頭ハ更ニ大藏卿ヘ稟議シ特例ノ監督役ヲ命遣シ其銀行ノ實際諸般ノ取扱ヲ推究シテ其事實ヲ詳明ニ報知セシムヘシ而シテ其背戻ノ事實相違ナキニ於テハ紙幣頭ハ其銀行ヨリ出納寮ニ預ケ置キタル公債證書ヲ没入スヘキ旨ヲ(右報知ヲ得タル日ヨリ二十日以内ニ)申渡シ其公債證書ヲ取上クヘシ

第九十七條 右諸般ノ手續了リシ後チ紙幣頭ハ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ凡ソ此銀行ノ紙幣ヲ所持スル者ハ都テ之ヲ大藏省ニ出シテ其引換ヲ乞フヘキ旨ヲ公告シ相

コ

銀行紙幣ノ引換ノ件

特別監督役ヲ命遣シ及ヒ公債證書ヲ没入スルノ件

銀行紙幣ノ引換ノ件

没入公債証券
賣却ノ件

十六年十四號布告
スヲ以テ本條ヲ改正

當ノ時日ヲ以テ之ヲ引換遣ハスヘシ而シテ其引換タル紙幣ハ總テ此條例第五十
一條ノ手續ニ從ヒ之ヲ燒捨テ其趣ヲ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ世上ニ公告スヘシ
第九十八條 紙幣頭ハ出納國債ノ兩頭ニ協議シ此條例第九十六條銀行ヨリ没入ス
ル所ノ公債證書ヲ通貨又ハ其銀行紙幣ヲ以テ公賣又ハ私賣トモ爾時大藏省ノ便
宜ニ從ヒ之ヲ世人ニ賣渡スヘシ尤其趣ハ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ世上ニ公告ス
ヘシ

特例監督役ノ
報知ヲ得テ跡
引受人ヲ命ス
ルノ件

第九十九條 此條例第九十六條ニ掲クル所ノ特例監督役ノ報知ヲ得之カ處分ヲナ
スニ於テハ紙幣頭ハ即チ右銀行ノ跡引受人ヲ命シ其銀行ノ諸簿冊及ヒ各種ノ資
産等ヲ取押ヘ諸貸付金立替金ヲ取立タル上ニテ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任
官員)ニ謀リテ滞リ貸金類及ヒ銀行ノ所有物ヲ賣拂ヒ其集合金ヲ以テ其銀行ノ
諸借財又ハ預リ金其外ヲ償却シ過金アレハ株高ニ應シテ之ヲ株主ヘ割返シ不足
アレハ都テ銀行ノ株高及ヒ其所有物ヲ限リテ相當ノ分散ヲナサシムヘシ
第百條 右借財又ハ預リ金等ヲ償却スルニハ紙幣頭ヨリ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ

銀行ノ借財償
却處分ノ件

銀行領店ニ付
株主負資ノ制
限

三箇月間世上ニ公告シ其銀行ニ貸金預ケ金等アル者ハ右時限中ニ申出テシメ其
事由ト証書類トヲ檢按シ紙幣頭ハ厚ク之ニ注意シ適正ノ處分ヲ以テ貸方ニ賦當
償却スヘシ

第百一條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ノ株主等ハ假令ヒ其銀行ニ損失又ハ其他ノ
事故アリテ其銀行領店分散スルコトアルモ其株主等ハ其創立證書ニ於テ掲載シタ
ル株式金額ノミヲ損失スルノ外其領店分散ニ付テ別ニ賦當出金ヲ受クルノ責メ
勿カルヘシ

領店處分有懇
ノ件

第百二條 紙幣頭ハ此條例第九十六條ニ掲クル所ノ處分ヲナスニ際シ其銀行ヨリ
尚ホ請願スルコトアリテ其狀實ヲ具陳スル時ハ監督役ヲ出セシ日ヨリ三十日以内
(郵便遞送日數ヲ除ク)ナラハ其地方官廳ニ謀リ更ニ其實況ヲ詳悉シテ全ク其背
戻セサルノ實証アルニ於テハ紙幣頭ハ之ヲ大藏卿へ稟議シ而シテ之ヲ宥恕スヘ
シ尤右ノ請願書ハ必ス其地方官廳ヲ經テ之ヲ紙幣頭へ差出スヘシ
但シ此宥恕ヲナス時ハ紙幣頭ハ速カニ其趣ヲ出張ノ監督役ニ達シテ暫ラク其

コ

處置ニ取掛ルヲ見合セシムヘシ

第三百三條 此條例第九十二條ニ掲載スルカ如ク銀行紙幣ノ引換或ハ預リ金ノ返濟ヲ拒ミ之カ爲メ生スル處ノ費用即チ紙幣持主或ハ預ケ金アル者ノ出願入費及ヒ諸檢査推糺ノ入費。跡引受人ノ入費等ハ都テ相當ノ處分ヲ以テ紙幣頭之ヲ取極メ其銀行ヨリ之ヲ辨償セシムヘシ

○第十三章 銀行平穩銷店ノ手續及其紙幣引換方等ノ事ヲ明カニス

第三百四條 此條例ヲ遵奉スル銀行三分二以上ノ株主等ノ協議ニ從テ平穩ニ分散又ハ鎖店セントスルニハ其銀行ノ頭取支配人ヨリ其銀行ノ各印ヲ以テ其決議ノ旨趣ヲ紙幣頭ニ申牒シ其承認ヲ得テ後チ三箇月間新聞紙其他ノ手續ヲ以テ世上ニ公告シ發行紙幣ノ引換方其他銀行ニ屬スル取引ノ精算ヲ詳載シタル報告ヲ製シテ之ヲ世上ニ公告スヘシ

第三百五條 右ノ公告ヲナシタル日ヨリ其銀行ハ其引換ヘタル銀行紙幣ヲ以テ豫テ出納寮ニ預ケ置キタル公債証書ノ内ヲ取戻スヲ得ヘシ尤其公告ノ日ヨリ半箇

銀行紙幣ノ引換ヲ拒ミタル其處分ニ於ケル諸入費辨償ノ件
十六年十四號布告
スヲ以テ本條ヲ改正

平穩銷店ノ件

公債証書ノ下戻及ヒ銀行紙幣流通ノ發分ノ件

年ヲ過キ其銀行ノ簿册上ニ於テ尙ホ世上ニ殘在スル銀行紙幣アルニ於テハ其員額丈ケノ通貨ヲ出納頭ニ差出シ右預ケ置キタル公債証書ノ全額ヲ取戻スヲ得ヘシ然ル上ハ其銀行紙幣ノ世上ニ殘在スル分ハ大藏省ニ於テ之ヲ引換ヘ銀行ノ株主等ハ一切其引換ノ責ニ任セサルヘシ

第三百六條 右鎖店シタル銀行ヨリ其殘在銀行紙幣引換ノタメ通貨ヲ差出スニ於テハ出納頭ハ之ヲ領受シ其趣ヲ詳記シタル受取証書ヲ製シ之ヲ其銀行ヘ下付スヘシ

但シ出納頭ハ右受取証書ノ外ニ預リ証書ヲ製シテ之ヲ紙幣頭ヘ回附シ置キ其殘在銀行紙幣引換ノ爲メ右通貨ノ受取方ヲ要スルニ於テハ何時ニテモ之ヲ紙幣頭ヘ渡スヘシ

第三百七條 右預リ証書ヲ領受スルニ於テハ紙幣頭ハ大藏卿ノ稟議ヲ經テ相當ノ期限ヲ定メ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告シ其殘在銀行紙幣ノ引換方ニ從事スヘシ

殘在銀行紙幣引換ノ爲メ通貨ヲ受ノ件

殘在銀行紙幣引換ノ件

引換銀行紙幣
燒捨ノ件

第百八條 右ノ手續ヲ以テ引換タル銀行紙幣ハ此條例第五十一條ノ規定ニ從テ之
ヲ燒捨シ其趣ヲ世上ニ公告スヘシ尤右ニ屬スル諸計算其外トモ紙幣頭國債頭出
納頭ハ各其簿冊ニ詳記シ置クヘシ

○第十四章 銀行訴訟ノ取扱及ヒ罰金處分ノ事ヲ明カニス

第百九條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行若シ他ノ會社又ハ一般ノ人民ヲ相手
取リ訴訟スルカ又ハ他ヨリ此銀行ヲ相手取リ訴訟セラル、カノモハ都テ一般ノ

訴訟法ニ從ヒ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)之ヲ裁判處分スヘシ

第百十條 此條例ニ於テ規定セル罰金ヲ以テ處置スヘキ罪科ニ付テハ裁判所(又

ハ府縣ノ聽斷主任官員)之ヲ裁判處分スヘシ但シ此條例中現ニ罰金ノ明文無キ
箇條ヲ犯スコアルモハ其時ニ當リ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)ニ於テ相
當ト思考スル罰金(三圓ヨリ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサル額數)ヲ右犯罪ノ
銀行又ハ頭取取締役其他ノ役員ニ命スヘシ

○第十五章 銀行納稅ノ事ヲ明カニス

訴訟ノ取扱
一般ノ方法ニ
從フヘキ件

罰金處分ノ件

第百十一條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行ハ追テ政府ニ於テ制定施行スル所

ノ收稅規則ニ遵ヒ相當ノ稅金ヲ納ムヘシ

○第十六章 條例ノ更正及ヒ廢止ノ事ヲ明カニス

第百十二條 此國立銀行條例ハ政府ノ都合ニ依リ要用ノ事アレハ何時ニテモ之ヲ
増補シ又ハ之ヲ更正シ又或ハ之ヲ廢止スルコアルヘシ但シ右増補其他ノ節ハ直
チニ其由ヲ世上ニ公告スヘシ

國立銀行條例畢

國立銀行成規目次

- 銀行創立手續ノ事 第一條ヨリ
- 株金募方ノ事 第八條ニ至ル
- 資本金月賦入金ノ事 第九條ヨリ
- 資本金集合高申牒ノ事 第十一條ニ至ル
- 第十二條
- 第十三條

銀行納稅ノ件
十一年二十九號布
告ヲ以テ稅額及納
期ヲ定ム
十六年十四號布
告ヲ以テ第十六章
百十二條ヲ追加ス
十六年十四號布
告ヲ以テ第十六章
第十七條ト改ム
條例更正及ヒ
廢止ノ件
十六年十四號布
告ヲ以テ本條ヲ第
百十三條ト改ム

資本金増減ノ事	第十四條ヨリ 第十五條ニ至ル
公債證書預方ノ事	第十六條ヨリ 第十七條ニ至ル
銀行紙幣注文ノ事	第十八條ヨリ 第十九條ニ至ル
銀行紙幣發行ノ事	第二十條
損壞銀行紙幣引換方ノ事	第二十一條ヨリ 第二十四條ニ至ル
株式ノ事	第二十五條ヨリ 第二十六條ニ至ル
株式賣買ノ事	第二十七條ヨリ 第二十九條ニ至ル
株式讓與ノ事	第三十條
株式没入ノ事	第三十一條
總會ノ事	第三十二條ヨリ 第四十三條ニ至ル
株主發言投票ノ事	第四十四條ヨリ 第四十七條ニ至ル
諸役員ノ事	第四十八條ヨリ 第六十條ニ至ル
社中申合規則ノ事	第六十一條

利益金分配ノ事	第六十二條
諸計算ノ事	第六十三條ヨリ 第六十四條ニ至ル
諸願伺届等差出方ノ事	第六十五條
國立銀行報告ノ事	第六十六條
目次畢	

國立銀行成規

○銀行創立手續ノ事

第一條 此條例ヲ遵奉シテ國立銀行ヲ創立セントスルニハ先ツ五人以上ノ人員申合セ國立銀行創立致シ度趣ヲ願書ニ認メ之ヲ大藏省ノ紙幣寮ヘ差出スヘシ此願書ニハ其銀行ノ營業場所資本金額等ヲ簡明ニ記載シ願請人一同之ニ記名調印スヘシ而シテ其之ヲ差出スニハ願請人直チニ之ヲ紙幣寮ニ持參スルカ又ハ(遠隔ノ地方ナレハ)郵便ヲ以テ之ヲ送達スルモ皆シカラス

但シ此資本金高ノ五分一ハ首トシテ其發起人等ヨリ之ヲ出金シ若シ不足アラハ自餘加入ノ者ヨリ其引請ケントスル株式金額ノ若干ヲ出金セシムルヲ以テ常則トス

第二條 右五人以上ノ人員ハ即チ發起人ニシテ株金ノ募方(若シ之アラハ)並ニ取締役ノ撰舉等相濟ム迄ハ都テ銀行ノ事務ヲ擔當辨理スルモノトスヘシ

第三條 紙幣頭ハ右願書ヲ受取ラハ其發起人等ノ身分其外トモ隱密ノ探索ヲ遂ケ且其管轄地方官廳ヘ其者共ノ身分營業ノ模様其外トモ公然諮問ヲナシ銀行創立ヲ許可スルニ相當ナリト思考スルニ於テハ右發起人等ニ創立証書並ニ銀行定款ノ差出方ヲ命スヘシ

第四條 右紙幣頭ノ命ヲ受ルニ於テハ其發起人等ハ株金ノ募方(若シ募ルヘキアラハ)ニ取掛ルヘシ而シテ株主一定ノ後ハ直チニ集會ヲ催シ首メニ(入札公撰ヲ以テ)取締役五人以上ヲ撰舉シ此内ヨリ(前同斷ノ方法ヲ以テ)頭取タルヘキ人ヲ定メ然ル後チ創立証書並ニ銀行定款ヲ運クトモ三箇月以内ニ(郵便遞送日數

ヲ除ク)之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ若シ右期月内ニ此差出方ヲ怠ルハ前段ノ許可ハ取消シタルヘシ

第五條 右創立証書ノ雛形ハ左ノ如シ

——國立銀行創立證書

大日本政府ヨリ發行スル所ノ公債證書ヲ抵當トシテ銀行紙幣ヲ發行シ之ヲ通用シ之ヲ引換フル儀ニ付明治一年一月一日大日本政府ニ於テ制定施行シタル國立銀行條例ヲ遵奉シテ國立銀行ヲ創立シ其業ヲ經營セント謀リ私共即チ此創立證書第五條ニ連署シタルモノ一致協力シテ當銀行ヲ創立シ左ノ創立證書ヲ取極メ候也

第一條 當銀行ノ各號ハ——國立銀行ト稱スヘシ

第二條 當銀行ノ本店ハ——府管下第——大區——小區——町——番地ニ於テ設置スヘシ

(但シ支店ヲ置クハ其場所ヲモ茲ニ掲載スヘシ)

第三條 當銀行ノ資本金ハ一萬一千圓ニシテ(百廿五)圓ヲ以テ一株トナシ總計一株ト定ムヘシ

第四條 當銀行ノ永續期限ハ開業免狀ヲ受ケシ日ヨリ二十箇年間タルヘシ

第五條 當銀行株主ノ姓名。住所其他並ニ各株主ノ引請ケタル株式ハ左ノ如シ

金額	引請株數	住所	株主ノ姓名屬族
圓	番又ハ番ヨリ番ニ至ル又或ハ番番株	府管下、 第大區、小區、町、番地	府華士族平民 何 某
總計——圓	總計——株		總計——人

第六條 此創立證書ハ國立銀行條例ヲ遵奉シ銀行ノ業ヲ營ミ一同ノ利益ヲ謀ル爲メニ取極メタルモノニシテ其證據トシテ私共一同姓名ヲ記シ調印致シ候也

年號 年 月 日

各株主連名印

紙幣察割印

右——國立銀行創立證書ハ其株主等書面ノ通り記載約定シタル趣ヲ正實ニ保証スルニ付キ其證據トシテ余ハ茲ニ記名調印シ併セテ當廳ノ官印ヲ鈐シ候也

年號 年 月 日

地方長官姓名印

地方官
廳之印

右ハ——國立銀行創立證書ノ正寫ニシテ其本紙ハ正ニ之ヲ本寮ニ受取リ其事ヲ承認シタル證據トシテ余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ茲ニ記名調印シ併セテ本寮ノ官印ヲ鈐シ以テ其銀行ヘ下付スルモノ也

年號 年 月 日

紙幣頭姓名印

紙幣
寮之印

第六條 右銀行定款ノ雛形ハ左ノ如シ

——國立銀行定款

大日本政府ヨリ發行スル所ノ公債證書ヲ抵當トシテ銀行紙幣ヲ發行シ之ヲ通用シ之ヲ引換フル儀ニ付明治一年一月一日大日本政府ニ於テ制定施行シタル國立銀行條例ヲ遵奉シ當銀行ヲ創立スル爲メ其株主等協議ノ上決定スル所ノ條々左ノ如シ

銀行名號ノ事

第一條 當銀行ノ名號ハ——國立銀行ト稱スヘシ

本支店設置ノ事

第二條 當銀行ノ本店ハ——府管下第一區——町小區——村番地ニ於テ設置スヘシ

(但シ支店ヲ置クキハ其場所ヲモ茲ニ掲載スヘシ)

資本金ノ事

第三條 當銀行ノ資本金ハ——萬——千圓ニシテ——(五百)圓ヲ以テ一株トナシ總

計——株ト定ムヘシ

但シ國立銀行條例ノ規定ニ從ヒ株主等ハ其所持株數ノ割合ニ準シテ此資本金ヲ増減スルヲ得ヘシ尤増加ノ節ハ時宜ニヨリ新ニ株主ヲ募ルコトアルヘシ

第四條 何人タリトモ(外國人ヲ除クノ外)苟モ當銀行ノ規則ヲ奉シテ其株式ヲ引受ケタルモノハ都テ當銀行ノ株主タルヘシ

株式券狀ノ事

第五條 各株主タルモノハ其引請ケタル株式一箇ニ付キ株式券狀一通宛テ領受スルノ權利アルヘシ但シ其雛形ハ左ノ如シ

(茲ニ銀行株式券狀ノ雛形ヲ掲クヘシ)

第六條 當銀行ノ株式ハ國立銀行條例成規ノ規定ニ從ヒ頭取取締役ノ許可ヲ受ケ當銀行ノ簿冊ニ引合セタル上ニテ之ヲ賣買讓與スルコトヲ得ヘシ尤

其株式券狀ノ書換ヲナサ、ル時ハ當銀行ヨリ割渡スヘキ利益金ハ新故ヲ論セス其株式券狀ノ名前入ヘ渡スヘシ

頭取取締役撰擧ノ事

第七條 當銀行ノ取締役ハ^(三十)_(六十)株以上ヲ所持スル株主ノ内ヨリ五人以上ヲ撰擧スヘシ其撰擧ノ初集議ハ一月一日——街ニ於テスヘシ

但シ各取締役ハ右株式券狀ヲ當銀行ニ預ケ其代リトシテ禁授受ノ三字ヲ附シタル保護預リ證書ヲ請取り置キ右取締役奉職中ハ決シテ之ヲ引出スコトヲ得サルヘシ

第八條 取締役ノ衆議ヲ以テ其中ヨリ一人ヲ撰ミ之ヲ頭取トナスヘシ此頭取及ヒ取締役ノ在職年限ハ一ケ年ヲ以テ限リトスヘシ尤頭取取締役タル者其任ニ堪ヘサルカ或ハ取締役等ノ三分二以上ノ協議ヲ以テ退任セシムルハ此例ニアラス

(但シ副頭取ヲ撰任スル時モ亦本條ニ準スヘシ尤此副頭取ハ取頭欠席ス

ル時其事務ヲ代理スルマテニシテ平日ハ取締役ト同様タルヘキ旨ヲ掲載スヘシ)

第九條 頭取取締役等ハ銀行ノ事務ヲ取扱フヘキ支配人并ニ書記方。出納方。計算方。簿記方等ノ諸役員ヲ撰任シ又右ノ諸役員等ノ給料ヲ取定メ銀行ノ得失ヲ考ヘ同僚ノ衆議ヲ經テ此役員等ヲ進退黜陟スルノ權アルヘシ但シ頭取取締役等ハ又銀行ノ支配人以下諸役員等ノ職掌ヲ分課シ其身元ノ引受人ヲ約シ過怠金ヲ豫定スルノ權アルヘシ

第十條 頭取取締役等ハ又向後ノ取締役撰擧ノ法ヲ定メ此撰擧ノ衆議ニ異論起ル時ハ之ヲ裁決スヘキ裁決役ヲ取定ムルノ權アルヘシ

第十一條 頭取取締役等ハ都テ銀行條例成規ノ旨趣ヲ遵奉シ適任ノ職務ヲ執行スルノ權アルヘシ尤條例成規ノ要旨ヲ遵奉シテ厚ク當銀行ノ便益ヲ謀リ萬般ノ事務ヲ注意處分スヘシ

但シ頭取取締役等ノ失職ハ國立銀行條例中ノ罰令ニ從テ各其責ニ任ス

可シ

第十二條 頭取取締役等ハ當銀行ノ處務ニ緊要ナル申合セ規則ヲ議定スルノ權アルヘシ

總會ノ事

第十三條 第一次ノ總會ハ開業免狀ヲ受ケシ日ヨリ後一箇月以内ニ取締役取極ムル所ノ時日場所ニ於テ之ヲ執行フヘシ

第十四條 第二次以後ノ總會ハ毎年第一月一日第七月一日ニ頭取取締役取極ムル所ノ場所ニ於テ之ヲ執行フヘシ

但シ取締役ノ撰擧ハ毎年第一月ノ總會ニ於テ之ヲ決定施行スヘシ

第十五條 右總會ハ都テ定式總會ト稱シ其他ノ總會ハ都テ臨時總會ト稱スヘシ

第十六條 頭取取締役ハ何時ニテモ適當ナリト思考スルニ於テハ臨時總會ヲ招集スルヲ得ヘシ又人員十名ニ下ラス其所持ノ株數當銀行總株ノ五

分一ニ下ラサル株主等ヨリ書面ヲ以テ臨時總會ノ請求アルニ於テハ何時ニテモ之ヲ招集セサルヲ得サルヘシ

但シ右請求書ニハ此總會ヲ要スル事件目的ヲ記載シ之ヲ本店ヘ差出スヘシ

第十七條 取締役ハ右請求書ヲ受取レハ直チニ此總會ノ招集ニ取掛ルヘシ

但シ取締役右請求書ヲ受取リシ日ヨリ七日以内ニ總會招集ノ手續ニ取

掛ラサルモハ其請求人等自身ニ之ヲ招集スルカ又ハ他ノ株主等ト相謀

テ之ヲ招集スルヲ得ヘシ

第十八條 凡ソ總會ニ於テ其事務ヲ評議處分スルニ當テハ必ス株主ノ總員

(本人又ハ代人共)十分ノ五以上之レニ出席スルニ非レハ(利益金分配ノ報

告一件ヲ除クノ外)何事ヲモ著手スヘカラス

第十九條 若シ總會ノ刻限ヨリ一時間ヲ過キテ其定式ノ人員臨席セザリシ

モハ之ヲ此會日ヨリ七日目ニ延會シ此會ト同一ナル場所刻限ニ於テ之ヲ

執行フヘシ

第二十條 定式臨時ノ別ナク總會ノ議長ハ頭取(又ハ副頭取)之ニ任スヘシ
 第二十一條 若シ右ノ議長タルモノ總會ノ刻限ヨリ十五分時間ヲ過キ猶ホ
 臨席セザリシキハ出席ノ株主中ヨリ一名ヲ撰舉シテ之ヲ議長ト爲スヘシ
 第二十二條 凡ソ總會ニ於テ事ヲ決定スルニハ可否又ハ同意不同意ナル發
 言投票ノ數多キモノヲ以テスヘシ而ソ決議濟ミノ次第ヲ銀行ノ簿冊ニ登
 録シ議長之ニ記名調印シ以テ後日ノ參觀證據ニ備ヘ置クヘシ
 第二十三條 凡ソ總會ニ當リ發言投票ノ數相半スルキハ議長ノ助說決票ヲ
 以テ之ヲ裁決スヘシ

(此外總會ニ付キ緊要ナル箇條アラハ之ヲ掲載スヘシ)

株主發言投票ノ事

第二十四條 各株主ハ其所持ノ株數十箇迄ハ一株毎トニ一箇宛ノ發言投票
 ナ爲スヘシ又十一株以上百株迄ハ五株毎トニ一箇宛ヲ増加シ百一株以上

八十株毎トニ一箇宛ヲ増加スヘシ

第二十五條 發言投票ハ本人又ハ(本人幼弱又ハ狂癡其他ノ事故アレハ)代

人ニテモ昔シカラス尤代人ハ左ノ委任狀ヲ以テ其代人タラシムヘシ

(茲ニ委任狀ノ雛形ヲ掲クヘシ)

第二十六條 當銀行ノ役員タル者ハ他人ノ代人トナリテ發言投票スルノ權

利ヲ有スルヲ得ス又株式券狀ヲ當銀行ヘ借財ノ爲メ質入シタル株主ハ

自身又ハ他人ノ代人ニテモ一切發言投票ノ權利勿カルヘシ

諸役員ノ事

第二十七條 當銀行ノ役員ト稱スルモノハ左ノ如シ

取締役 一人

内

頭取 一人

副頭取 一人(若シ之アラハ)

支配人	一人
書記方	一人
出納方	一人
計算方	一人
簿記方	一人

(銀行ノ適宜ニヨリ此他役員ヲ設クル者ハ右ニ準シテ茲ニ掲クヘシ)

但シ當銀行創立ノ際取締役ノ撰任アル迄ハ發起人ヲ以テ取締役

ト見做スヘシ

第二十八條 頭取取締役タル者ハ當銀行營業ノ全體ニ注意シ一切ノ事務ヲ處分シ總テ其責ニ任スヘシ然レモ新ニ一事ヲ興シ又ハ之ヲ更正シ又ハ之ヲ廢止シ及ヒ定例ナキ出納其他ノ事ヲ處スル等ノ如キハ株主總會ノ決議ヲ經ルニ非レハ之ヲ施行スルヲ得ス

第二十九條 支配人ハ頭取取締役ノ差圖ヲ受ケ各掛リノ事務ヲ引請ケ其擔

當ノ制限ニ依リ頭取取締役ニ對シテ之ヲ調理スルノ責ニ任スヘシ

(右ノ外取締役ノ撰任其他凡ソ銀行ニ於テ緊要ナリトスル事件ヲ茲ニ掲載スヘシ)

營業一般事務ノ事

第二十條 當銀行ノ營業取扱時間ハ本店及ヒ支店共定式(又ハ臨時)休暇日

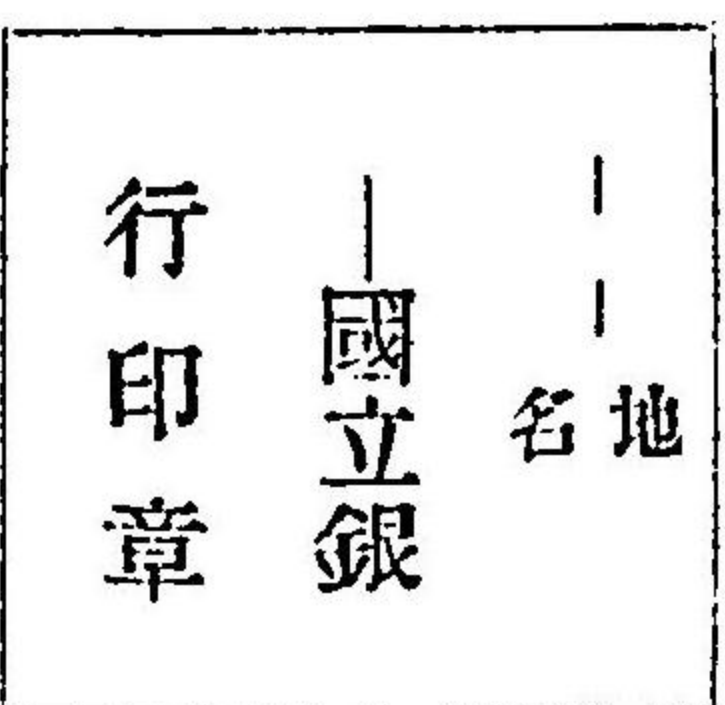
ヲ除ノ外毎日午前第九時ヨリ午後第二時迄タルヘシ

第二十一條 休業ハ例月何日及ヒ定式ノ祝日祭日ニ限ルヘシ

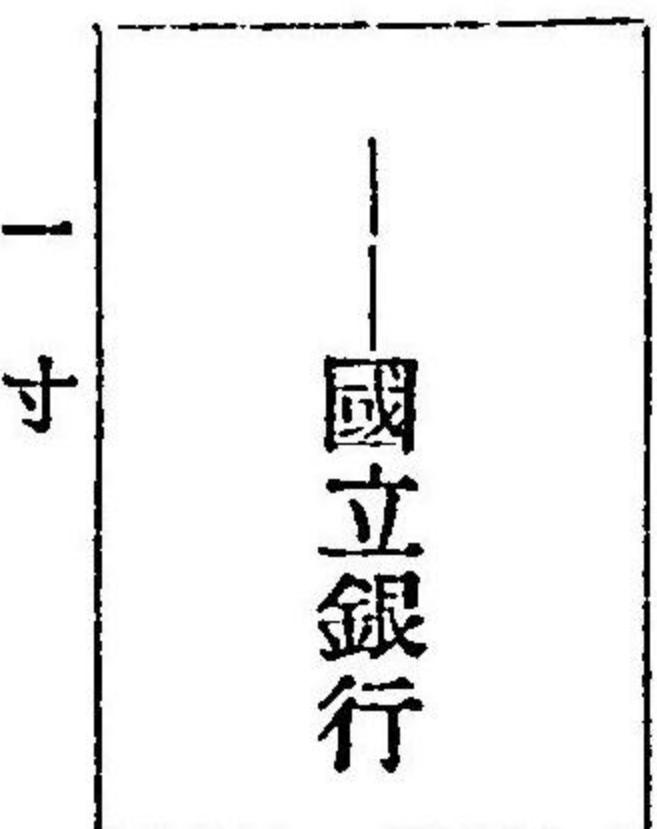
第二十二條 頭取取締役ノ衆議ヲ以テ決定シ當銀行ニ於テ用ウル所ノ本店

(并ニ支店)ノ印章ハ即チ左ノ如シ

一吋八分四方



押切印



分 五



(此外事務取扱ノ方法ニ關スル諸規則ヲ茲ニ掲載スヘシ)
利益金分配ノ事

(茲ニ銀行ノ利益金分配ノ方法其他ヲ掲載スヘシ)

諸計算ノ事

(茲ニ諸計算ニ於ケル諸簿冊並ニ檢閱其他ノ規則ヲ掲載スヘシ)

株主ヘ報告ノ事

(茲ニ銀行ヨリ株主等ヘ報告スルノ方法ヲ掲載スヘシ)

平穩鎮店ノ事

第二十三條 當銀行三分二以上株主等ノ協議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ

於テハ平穩ニ鎮店スルヲ得ヘシ尤其鎮店ノ手續ハ總テ國立銀行條例ヲ

遵奉シテ之ヲ施行スヘシ

銀行定款更正ノ事

第二十四條 此定款ノ箇條ハ當銀行株主等ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認

ヲ得ルニ於テハ何時ニテモ之ヲ更正加除スルヲ得ヘシ

右ノ條々株主等ノ衆議ヲ以テ相定候其證據トシテ私共一同姓名ヲ記シ調印
致候也

年號 年 月 日

各株主連名印

但シ此定款ハ株主等ノ協議ニヨリテ之ヲ草定シ追テ頭取支配人等定リシ上
本紙正寫ノ二通ヘ左ノ奥書ヲ加ヘ紙幣頭ヘ指出スヘシ

右——國立銀行定款ハ之ヲ二通ニ認メ本紙一通正寫一通ヲ上呈シ他ノ一通
ハ同文言ニテ慥ニ之ヲ銀行ニ藏メ置候仍テ其證據トシテ私共自ラ姓名ヲ記
シ調印致シ候也

年號 年 月 日

——國立銀行支配人

姓名印

同 頭取 姓名印

紙幣頭何某殿

銀行へ藏メ置クヘキ正寫ノ與書ハ左ノ如シ

右ハ——國立銀行定款本紙ノ正寫ニシテ其本紙並ニ正寫一通ツ、ハ規則ノ通り之ヲ紙幣寮へ差上候仍テ其證據トシテ私共自ラ姓名ヲ記シ調印致シ候也

年號 年 月 日

——國立銀行頭取
姓 名 印
同 支配人 姓 名 印

紙幣寮割印

右ハ——國立銀行定款ノ正寫ニシテ其本紙ハ正ニ之ヲ當寮ニ受取り其事ヲ承認シタル證據トシテ余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ茲ニ記名調印シ併セテ本寮ノ官印ヲ鈐シ以テ其銀行へ下付スルモノ也

年號 年 月 日

紙幣頭姓名印

紙幣寮之印

但シ創立證書ハ國立銀行ヲ創立スルニ於テ政府ト其銀行トノ約定書ニ比シキ緊要ノ書面ニシテ自ラ銀行定款ト異ナル者ナリ銀行定款ハ全ク銀行株主等ノ取定メタル社中ノ規則ニシテ政府ニ關係アル者ニ非ス故ニ銀行ノ役員ヨリ株主等ニ至ルマテ苟モ此別ヲ誤ルヘカラス

第七條 紙幣頭ハ右創立證書並ニ銀行定款ヲ相當ト思考スルニ於テハ其開業免狀ヲ其銀行へ下ケ渡スヘシ然ル後其銀行ハ始メテ名號ヲ公稱シ其業ヲ始ムルヲ得ヘシ

但シ紙幣頭ヨリ開業免狀ヲ下ケ渡サ、ル内ハ創立ニ付テ差起ル事故及ヒ開業前緊要ナル件々ノ外決シテ銀行營業ノ事務ヲ取扱フヘカラス

第八條 右開業免狀ノ雛形ハ左ノ如シ

第一番

開業免狀

紙 府 縣 管下第 大區 小區 町 村ニ於テ創立スル——國立銀行ヨリ差出シタル

コ

幣 察 割 印

創立證書ニ據リ此銀行ハ大日本政府ヨリ發行スル所ノ公債證書ヲ抵當トシ
テ銀行紙幣ヲ發行シ之ヲ通用シ之ヲ引換フル儀ニ付明治一年一月一日大日
本政府ニ於テ制定施行シタル國立銀行條例ノ手續ヲ履行シタルヲ分明ナル
ニ付今此開業免狀ヲ交付シ自今右條例ヲ遵奉シ國立銀行ノ業ヲ營ムヲ許
可スルモノ也

右ノ證據トシテ余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ茲ニ記名調印シ併セテ本寮ノ官印
ヲ鈐スルモノ也

年號 年 月 日

紙幣頭姓名印

紙幣
寮之印

但シ右開業免狀ヲ得タル上ハ直チニ其事業ヲ經營スルヲ得ヘキニ付火盜ノ難
ヲ防カンカ爲メ堅固ナル金庫ヲ建築スヘシ

○株金募方ノ事

第九條 株金ヲ募ルノ法ハ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告スヘシ即チ何

府 縣 管下第何大區何小區何_町何番地ニ於テ何々ノ方法ヲ以テ國立銀行ヲ創立スル

ニ付其組合ニ加入セント欲スル人々ハ何月何日ニ何街何屋ニ來ルヘシ發起人何
ノ誰々等ト記載スヘシ

第十條 當日ニ至ツテ右何街何屋ニ於テ發起人等簿册ヲ開キ其銀行ノ組合ニ加入
セント申込ミタル人々ノ姓名並ニ入金スヘキ金額ヲ其簿册ニ書込ミ何月何日迄
ニ入金スヘキ旨ヲ取定ムヘシ

第十一條 入金ノ當日ニ至テ入金者ハ各其簿册ニ書込ミタル金額ヲ其發起人方ヘ
持參スヘシ而シテ其發起人等ハ其金子引替ニ左ニ掲載セル入金受取證書ヲ其入金
者ヘ渡スヘシ

但シ此書込ミニテ集金ノ員額發起人等ノ見込員額ヨリ多キキハ割引ヲ以テ入
金者ノ出金員額ヲ減少スルカ又ハ銀行ノ資本金額ヲ最初ノ見込ヨリ増加スル
トモ其發起人等ノ存意ニ任スヘシ

半高入金受取證書

印割 一金一圓也

右ハ今般創立ノ——國立銀行株式ノ内——株ノ半高一株ニ付キ——圓ノ割合ヲ以テ最初ノ入金トシテ書面ノ通正ニ落手致シ候右株式券狀ハ追テ總月賦入金相濟候上ニテ交付可致候仍テ爲後證如件

年號——年——月——日

——國立銀行發起人

連名印

何某殿

○資本金月賦入金ノ事

第十二條 國立銀行ノ資本金ハ開業前必ス其半高ヲ株主等ヨリ銀行へ入金シ残り半高ハ五箇月ニ割合ヒ之ヲ入金スヘシ

例へハ資本金拾萬圓ノ銀行ナレハ

一月十五日開業迄ニ入金高

五萬圓

二月十五日迄ニ入金高	壹萬圓
三月十五日迄ニ入金高	壹萬圓
四月十五日迄ニ入金高	壹萬圓
五月十五日迄ニ入金高	壹萬圓
六月十五日迄ニ入金高	壹萬圓
合計拾萬圓	

右ノ如ク開業ノ日ヨリ算シテ毎月入金スヘシ尤六箇月前ニ悉ク入金シ又ハ開業前ニ資本金總額ヲ入金スルハ其銀行ノ適宜タルヘシ但シ銀行ニ於テ右月賦入金ヲ請取ルルハ左ノ請取證書ヲ株主へ渡スヘシ

第一回月賦入金請取證書

印割 一金一圓也

右ハ當——國立銀行株式ノ内——番ヨリ——番マテ——株ノ第一回月賦入金一株ニ付——圓ノ割合ヲ以テ書面ノ通正ニ落手致候右株式券狀ハ追テ總月賦入金

相濟候上ニテ交付可致候仍テ爲後證如件

年號 年 月 日

銀行之印

——國立銀行支配人

姓名印

同

頭取姓名印

何某殿

○資本金集合高申牒ノ事

第十三條 株主等ヨリ月賦金ヲ其割合ニ從ヒ入金スルキハ其月賦總入金濟ミ迄ハ
毎月其銀行ヨリ資本金集合高届書ヲ紙幣頭へ差出スヘシ其文例ハ左ノ如シ

資本金集合高届書

——府 縣管下第 大區 小區 町 村ニ創立シタル——國立銀行ノ資本金トシテ

萬 千圓ノ第 一回月賦ヲ株主等ヨリ入金イタシ是迄ノ入金ニ加算シ總高 萬 千圓ト相成候也

年號 年 月 日

——國立銀行支配人

銀行之印

同

頭取姓名印

紙幣頭何某殿

○資本金増減ノ事

第十四條 國立銀行ハ條例第四十條ニ準據シ其資本金額ヲ増加スルキハ速カニ資
本金増加證書ヲ紙幣頭へ差出スヘシ其文例ハ左ノ如シ

資本金増加證書

——府 縣管下第 大區 小區 町 村——國立銀行

元株數并金額	増株數并金額	合 計	住 所	姓 名
株 一圓	株 一圓	株 一圓	府 縣管下第 大區 小區 町 村	府 縣士族平民 何某
合 一 株 一圓	合 一 株 一圓	總計 一 株 一圓		

右ハ社中格段決議ヲ經テ資本金増加仕候現額書面ノ通相違無之候也

紙幣察印

年號 年 月 日

銀行
之印

紙幣頭何某殿

同 頭取 姓名印

地方官
廳之印

地方長官姓名印

右之通相違無之候也

右——國立銀行資本金増加證書ヲ差出スニ付年號 年 月 日 余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ其事ヲ承認シタル證據トシテ茲ニ記名調印シ併セテ本察ノ官印ヲ鈐スルモノ也

年號 年 月 日

紙幣
察之印

紙幣頭姓名印

但シ右ノ書面ヲ差出サハ紙幣頭ハ奥書并ニ鈐印シテ之ヲ其銀行ヘ下付スヘシ銀行ハ此奥書ヲ得タル上ニテ公債証書ヲ預ケ銀行紙幣ヲ請取ルノ手續ニ取掛ルヘシ

第十五條 國立銀行ハ條例第四十二條ニ準據シ其資本金ヲ減少スルキハ諸般ノ手續ヲ經テ後チ紙幣頭ヘ其資本金減少證書ヲ差出スヘシ其文例ハ左ノ如シ

但シ減少ノ手續ハ其銀行紙幣ヲ紙幣察ニ返上シテ燒捨ノ手續ヲナシ其同額ノ公債證書ヲ紙幣頭ノ手ヲ經テ出納頭ヨリ取戻スヘシ而シテ其準備金モ亦之ニ準シテ減少スヘシ

資本金減少證書

	府	縣	管下第 大區	小區	町	村	國立銀行
減少株數并金額	株	圓	株	圓	府管下第大區小區町番地	姓	名
殘株數并金額	株	圓	府管下第大區小區町番地	姓	名	府華士族平民	何 某

合一株	合一株	合一株
一圓	一圓	一圓

右ハ社中格段決議ヲ經テ資本金減少仕候高并ニ殘現額共書面ノ通相違無之候也

年號 年 月 日

——國立銀行支配人

姓名 印

銀行之印

同

頭取 姓名 印

紙幣頭何某殿

右之通相違無之候也

地方長官姓名印

地方官 應之印

紙幣察

右——國立銀行資本金減少證書差出スニ付年號 年 月 日 余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ其事ヲ承認シタル證據トシテ茲ニ記名調印シ併セテ本案ノ官

割印

印ヲ鈐スルモノ也

年號 年 月 日

紙幣頭姓名印

紙幣 察之印

右増減證書ハ各二通宛ヲ紙幣察ニ出シ其一通ヘハ前ノ文例ノ如ク紙幣頭與書鈐印シテ其銀行ヘ下付スヘシ

○公債證書預方ノ事

第十六條 國立銀行ニテ其業ヲ始ムヘキ前ニ四兩以上利付ノ公債證書ヲ買入レ之ヲ出納頭ニ預クヘシ右ハ其銀行ヨリ發行スヘキ紙幣ノ抵當ナレハ其銀行ノ資本金額十分八ノ割合ニシテ即チ銀行ニ受取ルヘキ銀行紙幣ト同額タルヘシ(條例第十八條二十二條ヲ參考スヘシ)

第十七條 出納頭ハ右公債證書ヲ領受シ直チニ假請取書ヲ其銀行ヘ下付シ追テ紙幣頭連名ノ本請取證書ヲ製シ其假受取書ト引換フヘシ

○銀行紙幣注文ノ事

第十八條 國立銀行ハ右公債證書ノ請取書ヲ領受セハ其銀行ヨリ發行スヘキ銀行紙幣ノ受取方ヲ頭取支配人ヨリ注文書ヲ以テ紙幣頭ヘ申立ツヘシ其文例ハ左ノ如シ

但シ條例第四十六條ニ準據シテ此注文書ヲ差出ス可シ

銀行紙幣注文書

府 管下第 大區 小區 町ニ創立シタル 國立銀行ニ於テ國立銀行條
縣 例ニ從ヒ 萬 千圓ノ銀行紙幣ヲ發行致シ度ニ付左ニ掲載スル種類員額ノ
紙幣製造ノ上御渡被下度候也

銀行紙幣種類	枚	數	金額
圓	—	—	圓
圓	—	—	圓
圓	—	—	圓
合計	—	—	圓

右銀行紙幣ノ抵當トシテ出納頭ニ預ケタル公債證書ノ現額ハ左ノ如シ

公債證書ノ種類	金額枚數	利	息	實價割合	金額
—公債證書—圓—枚	—	—	朱	百圓ニ付	—
—圓—枚	—	—	朱	百圓ニ付	—
合計	—	—	—	—	—

右之趣謹テ奉願候也

年號 年 月 日

銀行 之印

—國立銀行支配人

姓名印

同

頭取 姓名印

紙幣頭何某殿

第十九條 右銀行紙幣ノ注文書ヲ領受スルニ於テハ紙幣頭ハ條例第四十七條ニ準據シ銀行紙幣ヲ製造シテ之ヲ其銀行ヘ下附スヘシ而シテ其銀行ハ之ヲ受取リテ後チ受取證書ヲ差出ス可シ其文例ハ左ノ如シ

銀行紙幣請取證書

銀行紙幣種類	枚	數	金額
圓	—	枚	—
圓	—	枚	—
合計	—	枚	—
合計	—	—	圓

右ハ當——國立銀行發行紙幣トシテ正ニ請取候也

年號——年——月——日

——國立銀行支配人

銀行之印

同 頭取姓名印

紙幣頭何某殿

○銀行紙幣發行ノ事

第二十條 國立銀行ニテ右銀行紙幣ヲ領受スルニ於テハ頭取支配人ノ兩人一々其紙幣ノ表面ニ其役名及ヒ姓名ヲ記入シ其役印ヲ押捺シテ後チ之ヲ世上ニ發行スヘシ若シ其記入押捺ノ際損傷等ノモノアルニ於テハ更ニ其趣ヲ紙幣頭ニ申立テ其損傷紙幣ヲ納メテ引替ヲ乞フ可シ

但シ頭取支配人ハ其印影ヲ紙幣頭ヘ差出シ其紙幣押印ノ用肉ヲ紙幣察ヨリ受取ルヘシ

○損壞銀行紙幣引換方ノ事

第二十一條 國立銀行ヨリ發行シタル銀行紙幣敗裂汚染等ニテ通用シ難キモノアルキハ條例第五十一條ニ準據シ頭取支配人ヨリ書面ヲ添ヘ之ヲ紙幣頭ニ差出シテ其引換ヲ請フヘシ其文例ハ左ノ如シ
但シ記名押印ノ際損傷シタル銀行紙幣ノ引換モ亦タ此例ヲ以テ申立ヘシ

記		銀行紙幣種類	枚	數	金額
		圓	1	枚	圓
		圓	1	枚	圓
合計	1	枚	1	圓	

右ハ當銀行發行紙幣ノ内敗裂(或ハ汚染)ニテ通用難相成分書面之通差上候處相違無之候

右敗裂(或ハ汚染)ノ銀行紙幣ハ國立銀行條例ノ規定ニ從ヒ燒捨ノ立合可仕候尤燒捨濟ノ上右同種同額ノ新銀行紙幣ヲ御渡シ可被下候此段奉願候也

年號 年 月 日

——國立銀行支配人

姓名 印

銀行 之 印

同 頭取 姓名 印

紙幣頭何某殿

紙幣頭ハ右敗裂或ハ汚染ノ銀行紙幣ヲ請取ラハ其代リ新銀行紙幣ヲ以テ之ヲ其銀行ニ下附スヘシ

第二十二條 紙幣寮ニ於テ右銀行紙幣ヲ燒捨ノ節ハ其趣ヲ銀行ヘ通達アルヘキニ付銀行ハ立合人ヲ紙幣寮ニ差出シ燒捨所ニ於テ立合實驗ノ上燒捨證書ニ記名調印スヘシ尤此燒捨證書ハ二通ニ認メ一通ハ紙幣寮ニ藏メ一通ハ之ヲ其銀行ニ下付スヘシ右ノ立合ニハ大藏省ニ關係ナキ人ヲ撰テ銀行ヨリ差出スヘシ但シ遠隔ノ地方ニ創立シタル銀行ハ東京ニ於テ豫テ燒捨ノ立合人ヲ賴置キ其姓名住所ハ之ヲ紙幣寮ニ届ケ置クヘシ

第二十三條 國立銀行ヨリ引換ノ爲メニ紙幣寮ニ差出スヘキ敗裂或ハ汚染ノ銀行

コ

紙幣ハ五百圓以上ノ高タルヘシ其銀行紙幣ハ消印ヲ押シ種類ヲ分チ其封套ニ其金額ヲ記載シ前第二十一條ニ掲クル所ノ書面ヲ添ヘ之ヲ紙幣寮ヘ差出スヘシ尤此紙幣引替ニ付往復運送ノ諸費用ハ銀行之ヲ辨スヘシ

但シ數片ニ細裂シタル銀行紙幣アラハ銀行ノ役員之ヲ連接シテ差出スヘシ

第二十四條 敗裂或ハ汚染ノ銀行紙幣ヲ其銀行ニ持參シ引換ヲ乞フ者アラハ銀行ノ役員ハ其金額ノ數位ニ注目検査シテ之ヲ引換フヘシ尤敗裂シテ其紙片ノ全備セサルモノト雖モ大藏卿ノ印章アルニ於テハ之ヲ引換フヘシ

○株式ノ事

第二十五條 國立銀行ノ株主タルモノハ其所持スル所ノ株金總入金濟ミトナリタル時ハ社印ヲ鈐シタル株式券狀ヲ一株ニ付一通宛領受スルノ權利アルヘシ其株式券狀ノ雛形ハ左ノ如シ

第一番

大日本 地 區 國立銀行株式券狀

十二年三月布告ヲ以テ本條ヲ改正ス

表

府 縣 管下 第一 大區 小區 町 村 番地 何某 殿 儀 大日本帝國政府ニ於テ制定施行シタル國立銀行條例ヲ遵奉シ且ツ當銀行ノ定款ヲ確守シ年號 年 月 日ヨリ我 國立銀行株式ノ内 (五百圓) 圓即チ一株ノ持主タルヲ相違無キ證據トシテ此株式券狀ニ當銀行ノ印章ヲ押捺シ之ヲ附與スルモノ也 此株式券狀ヲ賣却讓與セント欲セハ當銀行ヘ持參スヘシ銀行ニ於テ至當ノ検査ヲ遂ケ此券狀裏面ノ粹内ヘ頭取支配人記名調印ノ上之ヲ差戻スヘシ 年號 年 月 日 國立銀行頭取 姓名 印

銀行 之 印

同 支配人 姓名 印

裏

年 號 月 日	賣渡人記名調印	買受人記名調印	頭取記名調印	支配人記名調印

コ

面			

第二十六條 若シ右株式券狀磨滅敗裂等ノヲアルキハ其趣ヲ書面ニ認メ之カ書替
 ナクフヘシ若シ又燒亡紛失スルヲアルハ其事實ヲ明瞭ニ認メ二人以上ノ證人ヲ
 立テ各之ニ記名調印シ更ニ新株式券狀ノ受取方ヲ乞フヘシ
 但シ株式券狀ヲ書替フル等ノ時ハ銀行ヨリ差圖スル所ノ手数料ヲ拂フヘシ

○株式賣買ノ事

第二十七條 株式ヲ賣買スルニハ之カ證書ヲ製シ賣渡人買受人ノ雙方相當ナル證
 人ノ眼前ニ於テ之ニ連印シ株式券狀ト共ニ之ヲ銀行ヘ差出スヘシ而シテ頭取支配
 人ハ兼テ備置キタル株式賣買ノ簿冊ヘ其願未ヲ登記シ其株式券狀ノ裏面ヘ記名
 調印シ併セテ右證書株式券狀ノ間ニ割印ヲ押捺シ再ヒ其株式券狀ヲ其人々ヘ渡

スヘシ但シ右ノ手數相濟ム迄ハ賣渡人ヲ以テ右株式ノ持主ト定ムヘシ
 第二十八條 右株式賣買證書ノ文例ハ左ノ如シ

株式賣買證書

——國立銀行株式ノ内第—番(或ハ第—番ヨリ—番迄)——株ノ株式何某(茲ニ
 賣渡人ノ姓名ヲ掲ク)所持ノ分代金——圓ニテ今般何某(茲ニ買受人ノ姓名
 ナ掲ク)ヘ賣渡書面ノ金額受取渡シ相濟候處實正也然ル上ハ向後買受人ハ
 勿論其相續人後見人ニ於テモ之ヲ所持シ何某(賣渡人ノ姓名)所持中ト同様
 ノ規約ヲ遵守スヘシ仍テ證書如件

年號—年—月—日

——府——縣管下第—大區—小區——町——村——番地

賣渡人 姓名 印

——府——縣管下第—大區—小區——町——村——番地

買受人 姓名 印